



攻殻機動隊
PERFECT BOOK
1995 - 2017

README

Just a whisper. I hear it in my ghost.



GHOST IN THE SHELL ハリウッド実写版 『ゴースト・イン・ザ・シェル』の世界

2017年春、ハリウッド制作による実写版『ゴースト・イン・ザ・シェル』が公開。
主演はスカーレット・ヨハンソン。その作品世界の魅力に迫る。



本作は、どんなシーンを切り取ってみても、それが『攻殻機動隊』以外のなにものでもないと感じる要素に溢れている。

GHOST IN THE SHELL

ゴースト・イン・ザ・シェル

『ゴースト・イン・ザ・シェル』

監督: ルパート・サンダース

音楽: クリント・マンセル、川井憲次

出演: スカーレット・ヨハンソン

ビートたけし、マイケル・ビット

ビルー・アズベック、チン・ハン

ジュリエット・ピノシュ

公開日: (北米) 2017年3月31日

(日本) 2017年4月7日

配給: 東和ビクターズ

公式サイト: <http://ghostshell.jp>

公式facebook: <https://www.facebook.com/GhostInTheShellMovieOfficial>

GhostInTheShellMovieOfficial

日本のアニメ×ハリウッド 実写化の潮目

押井守監督の劇場版アニメ『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』(1995年)が公開されてから22年目となる2017年春、ハリウッド制作による実写版『ゴースト・イン・ザ・シェル』の公開に世界が沸いた。2016年11月、東京で行われたローンチイベントを機に解禁された本作の予告動画は、わずか1ヵ月間で2億回以上も再生された。それだけでも本作に対する世間の期待値の高さが窺い知れる。

実は、これまで日本では、日本のマンガやアニメの“実写化”作品について、その“原作からの乖離”の激しさから、トラウマにも似た感情が蓄積されてきた。それは、アメリカのコミックを原作とするハリウッド映画の好評とは対照的だった。

しかし、今回はさすがに縁相が異なるようだ。ルパート・サンダース監督による本作の映像は、まさに“実写化された『攻殻機動隊』の世界”そのものが、と云わざるを得ない。



背負、小物、少物の衣装にいたるまで、シーンの細部まで作りこまれた『攻殻』の世界観の妥協のない仕様と、新しい視覚性を開示させた素晴らしい演出は、本作の特徴である。

「私は誰なのか……？」 自我を問う、少佐の物語



監督のルパートは、元々『攻殻機動隊』のファンであったという。映画『スノーホワイト』でメガホンを持った彼は、長年『攻殻機動隊』実写化の実現のため死力を注いできた。そんなルパート監督の“攻殻愛”は、本作を観れば一目瞭然だ。かつて、士郎正宗の原作コミックを初めてアニメ化する際に「自分がアニメ化したらこう撮る」と押井が考えていたのと同様に、そのアニメを「自分が実写化したらこう撮る」とルパート監督が考えていたことは、彼の情熱と共に本作に表れている。

その「実写化したら」の理想のひとつが、主人公“少佐”役のスカーレット・ヨハンソンの起用だろう。本作の少佐は、原作やアニメ同様、わずかな脳髄以外全身が義体の機体である。彼女は、捜査の過程で「自分は何者なのか」を追求する。そこにも、全身義体であるがゆえに自己の存在を問い続けた押井版アニメの少佐に対する、監督のリスペクトを感じる。

押井守はスカーレットが少佐役であることについて「ベスト」と思っている。本作の少佐も、全身義体である自分の存在意義について自問し続ける。



義体の製造工程

映画冒頭に出てくる有名な義体操縦シークエンスの、初期のコンセプトアート。押井版アニメを忠実に再現している。





高層ビルからのダイブ

アニメ冒頭のこのシーンも、完全に実写化。熱光学撮影もリアル。これぞ「実写」である！



少佐の部屋

スカートの引き締まった身体は、実際のアクションだけでなく、素材としての見立目の彫琢力も輝びている。シルエットだけでも併存の少佐に類似。



ふんだんにちりばめられた、アニメへのオマージュ



貯水池での戦闘



押井版アニメでも印象的な戦闘シーン。少佐の熱光学迷彩の味方が貯水池に覆われている点も実写版で再現。

リスペクトは、スカークレット演じる「少佐」のほかにも、ルパート監督が、本作にふんだんに盛り込んだ、日本のアニメへのオマージュにも見て取ることができる。戦機、電脳、ゴースト、熱光学迷彩、芸者ロボット……実写版『ゴースト・イン・ザ・シェル』に登場するこれらの言葉は、アニメのファンにとっては馴染みのものばかりだ。ルパート監督は、これらのいわゆる「攻殻」的なエッセンスについて、押井守版をベースとしながらも、神山健治のTVアニメ『SAC』シリーズや渡瀬和哉『ARISE』シリーズも研究し、作品の随所に取り入れている。

例えば、押井版アニメでのアジア的な世界は、当時、香港でロケハンされたものだが、ルパート監督は本作でニュージーランドのほか香港でもロケをし、押井版の舞台の景観をよく再現している。一方で、本作のキービジュアルのひとつである芸者ロボットは、押井版第2作『イノセンス』に登場した顔面が黒くギミックのガイノイドと、神山版『SAC』第1話の料亭で冬を襲った芸者ロボットを写真としてさせる。また、少佐の服装やバイク、銃器なども、ファンは心がくすぐられるだろう。

アニメに対するオマージュは映像だけではなく、本作の冒頭“機体集結シーン”で流れる音楽は、押井版アニメと同様、川井憲次が担当。*あの“特徴的な日本の民謡風の音楽が、本作を一層「攻殻」たらしめているのだ。

芸者ロボット

アニメ『イノセンス』と『SAC』を合わせたような美少女の芸者ロボット。日本の美術家でインパクトがある。



公安9課、そしてクゼ……

少佐が所属するのは無論、公安9課である。メンバーは、ビルー・アスベック演じる超強なバトー、ボディが生身のトグサ、スナイパーのサイトー、ほかにはイシカワ、ボーマもいる。9課をまとめる荒巻役にはビートたけし。加えて、実写版のオリジナルであるラドリヤという女性メンバーが部隊に華を添える。

そして、本作の物語の軸を握るのがクゼである。本作でのクゼは、ハンカ社による義体化技術の進歩を食い止めることを最大の目的とするキャラクターとなっている。

本作は単にアニメの連続ではない、億かしくも新しいレパート版『攻殻』となっている。『攻殻』の映像作品の歴史に「実写版」としてその名が刻まれたことを、多くの人々は歓迎するだろう。



本作に登場するクゼのボディのデザインは、日本の胸元から差物を帯いているという、こうした身体の新らしい描写と演出は、これまでの日本版アニメにはなかった新しい要素だ。

クゼ



公安9課

9課のメンバー、本作のバトーも押井版アニメと同じような設定を要する「イノセンス」部隊、ガブリエルという名のバレットハウンドも登場するので注目したい。





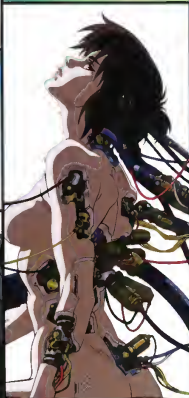
Filmography & Highlights



攻殻機動隊 フィルムグラフィィ & ハイライト



時代や国境を越えて、今もなお多くのファンの心を惹きつけてやまない『攻殻機動隊』。ここでは、1995年に公開された劇場版「GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊」から2015年の『新劇場版』まで、歴代の主要な「攻殻機動隊」のアニメ作品を、そのハイライトとともに振り返る。



1995年

『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』

II ▶ MOVIE

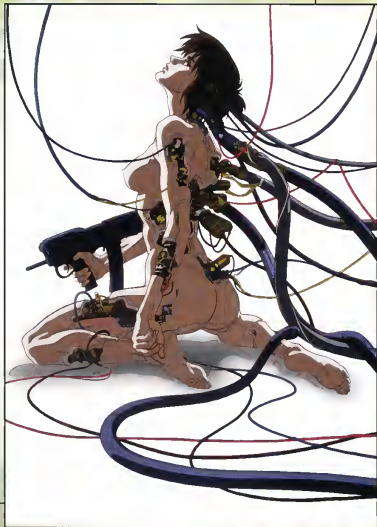
原作：士郎正宗
 監督・絵コンテ：押井守
 脚本：伊藤和典
 演出：西久保栄
 キャラクターデザイン
 ・沖浦啓之
 作画監督：貞原和哉、沖浦啓之
 メカニックデザイン
 ・河森正治、竹内敏志
 特殊デザイン：陽光道
 美術監督：小倉宏昌
 音楽：川井憲次
 制作：Production I.G
 製作：講談社
 バンダイビジュアル
 MANGA ENTERTAINMENT

III ▶ CAST

草薙素子：田中敦子
 パートー：大塚明夫
 トグサ：山寺宏一
 イシカワ：仲野裕
 荒巻：大木民夫
 6課中村：室田昌幸
 人形使い：室弓家正

記念すべき最初の『攻殻機動隊』アニメにして金字塔。西暦 2029 年の近未来を舞台に、原作・士郎正宗、監督・押井守で 1995 年に劇場公開された。本作は、当時、最先端の映像技術と深遠な SF の世界観で日本のアニメーションの勢力を世界に知らしめた。

そして、2008 年には大幅に CG 要素を追加した『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊 2.0』が公開された。



III ▶ Highlights



主人公・草薙素子がフローターで海から浮上するシーン。水に沈む全身義体の彼女が海に潜るのはなぜか、浮上後、替替える素子から義体を造らすパートーも印象的だ。



『攻殻機動隊』多岐見宗TOSAAがアラビヤの砂漠でロボットをこしらけ来るとする素子。この後、素子の身体が隠れてゆく箇所は、圧巻のひとつ。

2004年

▶ MOVIE

『イノセンス』

原作：士郎正宗
 監督・脚本：押井守
 演出：西久保利忠、柿美由子
 キャラクターデザイン
 ：沖浦啓之
 メカニックデザイン：竹内敏志
 美術監督：早田秀一
 音楽：川井勇次
 制作：Production I.G
 制作協力：スタジオジブリ
 制作：イノセンス製作委員会

▶▶ CAST

バトー 大塚明夫
 トグサ 山寺宏一
 草薙素子 田中敦子
 荒巻大輔 大木良夫
 イシカワ 仲野裕
 キム 竹中直人
 横塚富ハラウェイ
 ：柳原良子

劇場版の第2作。前作『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』の続編という位置づけで、2002年の近未来を舞台とする。前作で「人形使い」と融合した草薙素子は、物語の結核まで登場しない。

少女型の愛玩用ガイノイドの暴走と自爆事件を中心に、押井監督ならではの精緻な描写と豪華なCG、壮麗な音楽などを駆使して、ヒトがヒトであることの本質を問うた。



▶▶ Highlights



「キムの館」に乗り込んだバトーの前に、少女と犬が現れる。少女はなにやら床にカードを並べている。その正体は、バトーが「守護天使」と呼ぶ草薙素子その人である。



制作：サンリス社のプラント制作で、未知の種のガイノイドがバトーに加勢する「久しぶりだな、少女(を)バトー」。草薙素子、満を持しての再演である。

2002年 「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX」

II▶ TV

原作：士郎正宗
監督・シリーズ構成
：神山健治
キャラクターデザイン
：下村一
メカニックデザイン
：寺岡賢司、宮本忠雄
美術監督：竹田敏介
音楽：菅野よう子
制作：Production I.G
製作：攻殻機動隊製作委員会

II▶ CAST

草薙素子：田中敦子
バトー：大塚明夫
トグサ：山寺宏一
荒巻大輔：阪脩
イシカワ：神野裕
タチコマ・トグサの妻
：玉川砂記子

通称「SAC」と呼ばれる本作は、「攻殻」初のTVシリーズである。監督・神山健治により全26話が制作された。物語は押井監督の「攻殻」とは「ラレレワールド」になっており、素子が「人形使い」と融合しなかった場合の2030年が舞台である。

2005年には、本作の中心となる〈笑い男事件〉を軸に、全話を約2時間40分にまとめた総集編「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX The Laughing Man」が制作された。



III▶ Highlights



素子のアームスーツでやりた
い放銃の空間に、素子の怒りが
爆発。「サイトー」そいつをよ
こせさー!と叫ぶと、近距離
戦からサイトーのライフルで
空間に鉄柱を下す。



バトーの窮地を救いに駆け付
けたタチコマ。グレネード弾を
抱えて捨て身の攻撃を繰り出
さんとする瞬間、タチコマの目
から溢れたものは、まるで涙の
ようだった。

2004年

『攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG』

II ▶ TV

原作：士郎正宗
 監督・シリーズ構成
 ：神山健治
 キャラクターデザイン
 ：榎藤隆幸、西尾鉄也
 オリジナル
 キャラクターデザイン
 ：下村一
 メカニカルデザイン
 ：寺岡貴司、宮木志肇
 美術監督：竹田悠介
 音楽：菅野よう子
 制作：Production I G
 製作：攻殻機動隊製作委員会

II ▶ CAST

草薙素子：田中敦子
 バトー：大塚明夫
 トグサ：山寺宏一
 荒巻大輔：坂橋
 イシカワ：伊野尾
 タチコマ・ウチコマ・トグサの妻
 ：玉川恵記子

『S.A.C. 2nd GIG』は、前作の続編として制作された。テロ、暴走問題、複雑な国際関係などを絡めた政治的・哲学的ストーリーは、現在にも通ずるテーマでもある。2006年には、本作の『個別の11人事件』を軸に、全26話を約2時間40分にまとめた総集編『攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG Individual Event』もリリース。



III ▶ Highlights



空爆により瓦礫の下に閉じ込められてしまった素子とウゼ、絶体絶命の状況の中で交わされる二人の言葉は、孤独を生み広げてきた者同士のものであった。



米帝の核ミサイルが出発をロックオン。このままでは素子やバトーを救えないと思つたタチコマたちは、思わぬ自らの犠牲の行動に出る。胸を打たれずにはいられない。

2006年

攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX Solid State Society

▶▶ OVA

原作：士郎正宗
 監督：神山健治
 演出：吉原正行、楠正紀
 脚本：神山健治、菅正太郎
 脚本監修：横井庄紀
 キャラクターデザイン
 ：飯塚隆幸、西尾鉄也
 メカニカルデザイン
 ：寺岡賢司、富本志伸
 美術監督：竹田悠介
 音楽：菅野よう子
 制作：Production I.G
 製作：攻殻機動隊製作委員会

▶▶ CAST

草薙素子：田中敦子
 バトー：大塚明夫
 トグサ：山寺宏一
 荒巻大輔：阪脩
 イシカワ：仲野裕
 ウチコマ、タチコマ・トグサの妻
 ：玉川砂記子

『SAC』シリーズの3作目。これまでのTVシリーズの設定を受け継ぎつつ、主人公・素子が9課を去ってから2年後の世界を描く。超高度化社会、政府・官軍との相い、そして偽造品という謎の存在が息どころ。2011年には、本作を3Dアニメーション化した『攻殻機動隊S.A.C. SOLID STATE SOCIETY 3D』が劇場公開された。



▶▶ Highlights



事件の真相に迫るトグサの目が特撮風にハックされた。自らの拳に反して愛嬌を電腦手術へと誘導するトグサは、敵を守るために自決を覚悟する。「さよならだ」



物語の真相の一部であるソリッド・ステート・システムを作り上げたコシキ・タチコマ素子との会話で、彼の口から偽造品の正体について驚愕の事実が示される。

2013年

『攻殻機動隊ARISE』

▶ OVA

原作：士郎正宗
 総監督・キャラクターデザイン
 ： 黄瀬和彦
 監督：むらた雅彦、竹内敦志
 美術監督：工藤浩
 シリーズ構成・脚本：沖方丁
 音楽：ユースケリアス
 メカニックデザイン：柳瀬敬之
 3DCG：オレンジ
 3DCG監督：井野元英二
 美術：Bamboo
 美術監督：竹田悠介、益城真吾
 美術設定：佐藤浩（とにかん）
 プロップ・美術設定：寛川康樹
 撮影監督：田中宏時
 編集監督：岩崎美和
 編集：林松洋一
 制作：Production I.G
 製作：『攻殻機動隊ARISE』
 製作委員会

▶ CAST

草薙素子：坂本真綾
 荒卷大輔：聖一久
 パトー：松田健一郎
 トグサ：新垣樽助
 イシカワ：咲野俊介、種田幸
 サイトー：中国卓群
 バズ：上田耀司
 ボーマ：中井和哉
 ロジコマ：沢城みゆき

これまでのキャストやスタッフを一一新し、総監督・黄瀬和彦、脚本・沖方丁によって、主人公・草薙素子の顔色が変わった作品。若くて前髪バシツンの素子が新解釈。

全4話を各前後編、計8話に分けて再構成し、さらに新エピソード2話（『PYROPHOBIC CLUT』）を追加したTV版『攻殻機動隊ARISE ALTERNATIVE ARCHITECTURE』も2015年に放送された。



▶ Highlights



素子が、犯人である高橋班のホセと銃口を向け合うシーン。ここで二人はお互いの正体について確信する。何が信ったかのようにホセは、銃口を自分自身に向けて、



素子がプリンテンユニアの二人は、ゴーストの欠片をネットに落とすことが命しようと考え、現実世界での死を積み重ねたな世界でひとつの命として生きることを選んだ。

2015年

『攻殻機動隊ARISE PYROPHORIC CULT』

▶ TV/OVA

原作：士郎正宗
 総監督・キャラクターデザイン
 ： 荒瀬和俊
 シリーズ構成：沖方丁
 脚本：藤咲淳一
 音楽：コーネリアス
 絵コンテ・演出：橋正紀
 メカニックデザイン
 ： 柳瀬敬之・寺岡賢司
 3DCG：サブメーション
 3DCG監督：榎本倫基
 美術監督：海老澤卓也
 美術設定：荒井和浩
 プロップ：常木志伸
 撮影監督：若林優
 音響監督：岩浪英和
 制作：Production I.G
 製作：『攻殻機動隊ARISE』
 製作委員会
 制作委員会

▶ CAST

草薙素子：坂本真綾
 荒巻大輔：池一久
 バトー：松田健一郎
 トグサ：新垣樽助
 イシカワ：坂野俊介
 サイトー：中園卓郎
 バズ：上田燿司
 ホーマ：中井和哉
 ロジコマ：沢城みゆき

TV版「攻殻機動隊ARISE ALTERNATIVE ARCHITECTURE」に合わせて追加された、新エピソード、「新劇年版」の前日譚にあたる。

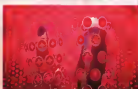
本作の敵は「イロコニア」だ。彼は、他人のゴーストを自在にハック・盗取する、ファイア・スターターの熱狂な信者者である。「ARISE」シリーズ屈指のケレン味あるドラマ展開と、迫力のアクションが見どころ。



▶ Highlights



イロコニアにより暴走したヘリが素子らを襲撃、それにロジコマが応戦する。思考攻撃vsヘリの戦闘は、TS A.C. 2nd GGのタチコマvsツガバチ戦を思わせる。



素子とイロコニアとの直接対決で戦場に立たされた素子。絶体絶命かに思われるが、素子はその状況こそが素子に与える壮大なトラップ。最終的にいよいよ決戦開始。

2015年

『攻殻機動隊 新劇場版』

II MOVIE

原作：士郎正宗
 総監督・キャラクターデザイン
 ： 貞沼和哉
 脚本：沖方丁
 音楽：コーネリアス
 監督：野村和也
 制作総監督：大久保博
 メカニックデザイン
 ： 都瀬敬之、竹内敦志
 3DCG監督：井野元英二
 美術監督：竹田悠介、益城真品
 撮影監督：田中康博
 音楽監督：岩浪美和
 制作：Production I.G
 製作：『攻殻機動隊 新劇場版』
 製作委員会

III CAST

草薙素子：坂本真綾
 貴志大輔：堀一久
 パトール：松田健一郎
 トグサ：新垣樽助
 イシカワ：梶野雄介
 サイトー：中園卓郎
 パズ：上田耀司
 ボーマ：中井和哉
 ロジコマ：沢城みゆき

『ARISE』シリーズの結末となる映画。2029年、日本国総理大臣の暗殺事件から物語は始まる。かつての素子の同僚・タツムもこの暗殺で命を落としたのだが…。これまでの物語の「点」が「線」になる映画で、ファイア・スターターの真相、素子たちの活躍をはじめ、最終的に成長し身体を捨棄した素子の姿も観られる。歴代作品へのオマージュも豊富な『攻殻機動隊』の傑作生誕25周年記念作。



III Highlights



義体化児童の普遍化で素子の少女だったツムギ。陸軍501機関で長年素子をサポートしてきた彼女らは、軍事連合の電腦攻撃から素子を守り逃がしていった。



水際される情報、素子と手を合わせるタリス「誰よりも自由でいいお前が、この世界に何のいよきを望むか？」をもち出すと、タリスは素子に宛せられるながら熟立った。

目次 Table of Contents



019 押井守の攻殻

- 020 第1章
『GHOST IN THE SHELL』～人形使いの章～
- 021 INTROOUCTION～序論～
- 022 STORY～物語～
- 024 CHARACTERS～登場人物～
- 026 CYBERNETIC BOOY～義体～
- 030 GUNS～銃器～
- 032 MECHANICS～メカ～
- 034 LANOSCAPES～風景～
- 036 THE LAST SHOT～ラストショット～
- 038 謎解き『GITS』
- 040 コラム：『GHOST IN THE SHELL 2.0』との比較

042 第2章 『イノセンス』～2S01の章～

- 043 INTROOUCTION～序論～
- 044 STORY～物語～
- 046 CHARACTERS～登場人物～
- 050 MECHANICS～メカ～
- 052 LANOSCAPES～風景～
- 054 THE LAST SHOT～ラストショット～
- 056 謎解き『イノセンス』
- 058 コラム：監督・押井守ワールド×攻殻機動隊

059 神山健治の攻殻

- 060 第3章
『STAND ALONE COMPLEX』～笑い男の章～
- 061 INTROOUCTION～序論～
- 062 CHARACTERS～登場人物～
- 066 TACHIKOMA～タチコマ～
- 068 MECHANICS～メカ～
- 070 LANOSCAPES～風景～
- 072 STORY～全26話の物語～
- 077 コラム：攻殻機動隊 STANO ALONE COMPLEX
～The Laughing Man～
- 078 THE LAST SHOT～ラストショット～
- 080 謎解き『S.A.C.』



082 第4章 『S.A.C. 2nd GIG』～個別の11人の章～

- 083 INTROOUCTION～序論～
- 084 CHARACTERS～登場人物～
- 088 TACHIKOMA～タチコマ(2nd)～
- 090 MECHANICS～メカ～
- 092 LANOSCAPES～風景～
- 094 STORY～全26話の物語～
- 099 コラム：攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG
～Individual Eleven～
- 100 THE LAST SHOT～ラストショット～
- 102 謎解き『S.A.C. 2nd GIG』

104 第5章 『S.A.C. Solid State Society』 ～傀儡師の章～

- 105 INTROOUCTION～序論～
- 106 STORY～物語～
- 108 CHARACTERS～登場人物～
- 112 MECHANICS～メカ～
- 114 LANOSCAPES～風景～
- 116 THE LAST SHOT～ラストショット～
- 118 謎解き『S.A.C. S.S.S.』
- 120 コラム：S.A.C. SOLIO STATE SOCIETY 30
- 121 コラム：監督・神山健治ワールド×攻殻機動隊
- 122 Special Interview
スペシャル対談!! 田中敦子×坂本真綾

125 黄瀬和哉の攻殻

- 126 第6章
『攻殻機動隊 ARISE』～陸軍501機関の章～
- 127 INTROOUCTION～序論～
- 128 STORY～全5話の物語～
- 132 CHARACTERS～登場人物～
- 136 MECHANICS～メカ～
- 138 LANOSCAPES～風景～
- 140 THE LAST SHOT～ラストショット～
- 141 謎解き『ARISE』



142 第7章 『攻殻機動隊 新劇場版』～公安9課課生の章～

- 143 INTROOUCTION～序論～
- 144 STORY～物語～
- 146 CHARACTERS～登場人物～
- 148 MECHANICS～メカ～
- 150 LANOSCAPES～風景～
- 151 THE LAST SHOT～ラストショット～
- 152 謎解き『新劇場版』
- 153 コラム：監督・黄瀬和哉ワールド×攻殻機動隊
- 154 Special Roundtable
スペシャル鼎談!!! 押井守 × 神山健治 × 黄瀬和哉

押井 守の攻殻

押井 守 shi CHOW IN THE SHELL



GHOST IN THE SHELL

攻殻機動隊 INNOCENCE

イセンス
INNOCENCE

2004年9月4日 攻殻機動隊 イセンス 公開



第 1 章

『GHOST IN THE SHELL』

人形使いの巻





INTRODUCTION

～序論～

草薙素子をリーダーとする特殊部隊「公安9課」の活躍を描いた原作コミック（『THE GHOST IN THE SHELL』土郎正宗1989年）を、押井守が監督となり劇場アニメとして初映像化したのがこの『GHOST IN THE SHELL/攻殻機動隊』である。サイボーグ、電脳犯罪、疑似記憶、情報生命体などのテクノロジーを描いた本作が劇場公開された1995年は、インターネットがようやく普及のまじしを見せ始めた頃で、サイボーグという言葉こそ広く知られてはいたが、ブレイン・マシン・インターフェースと言われる、脳の電気信号で機械などを操作する研究が実際に行われていることなどは、あまり知られていなかった。また視覚だけでなく聴覚、触覚なども再現するバーチャル・リアリティの概念も深く浸透しているとは言えなかった。そんな時代に、人工筋肉などまで緻密に描かれたサイボーグや、電脳の世界・映像などを映画で表現した功績は大きい。

未来の日本を描いていた原作コミックに対し、本劇場版では「情報に満ちあふれた都市」を表現するため、香港でロケハンが行われた。その結果、未来的高層ビルが立ち並ぶだけではなく、看板が乱立しスラム街のような場所もある、雑然とした都市が描かれている。そこに日本伝統の民謡風に、日本の古語である大和言葉の歌が挿せられ、太鼓や鈴も鳴る川井憲次の音楽が流れることによって、アジア的だが国を特定できない、独特の世界観が形成された。それらの映像や音楽は日本国外でもより大きなインパクトを与え、日本の映像作品としては初めて、米ビルボード院のビデオ売り上げチャートで1位を獲得するまでに至っている。

物語ラストの素子と情報生命体「人形使い」の融合は、「人間とコンピューター結婚」といえる。「人間とAIはどこまで近づけるか」、言い換えれば「情報の海から生命は発生するか」というテーマと映像は、20年以上経過した現在も色褪せてはいない。





プログラマーを自国に連れて行くとした外交官を暗殺する。印象的な冒頭シーンの奥子、よく聞くと、この時プログラマーが「プロジェクト 2501」について話しており、6課が9課の手を借りてまで強引にこの命を阻止したことに繋がる。



STORY

～物語～

人々が電脳化技術によって脳とネットワークを直接接続できるようになり、サイボーグ技術も普及した西暦 2029 年。新たな犯罪の発生と同時に、生命も誕生する。

▶ そう囁くのよ私のゴーストが



ハノカーの捜査員上に浮かび上がったゴミ収集車。追跡するとサンガラスの男が取り付くまんにガンぶっ放した。

▶ ゴーストのない人形は哀しいもんだぜ、特に赤い血の流れている奴はな



「人形使い」によって自分のゴーストを操作された者たちと遭遇した素子は、自分のゴーストについても改めて疑念を抱くように。

大量のネットが裏を喰い
電子や光が駆け巡る
悪魔や鬼衆が湧いてくるほど
悪魔化している世界——

とある高層ビルの一室で、外交官先貴特権と亡命の言葉を使い、誘拐に近い形で強引に自国へとプログラマーを引き抜こうとしていた悪質な外交官が射殺される。そして、その襲撃者は光学迷彩により、夜の町へと消えた……。彼女は葉葉素子。電腦犯罪やテロなどに對抗する組織「公安9課」実働部隊のリーダーである。

後日、9課はあるハノカーを追跡していた。他人の電腦に侵入し操る手口から「人形使い」と呼ばれるこのハノカーは、外務大臣の女性通訳をハッキングして「人形」にし、ガベル共和国との秘密会談を襲撃させようとしていた。ハッキングの実行者は知時屋アクセスしては場所を変え追跡を逃れていた。9課は1台のゴミ収集車の巡回経路がアクセス場所と一致することに気づき、ゴミ収集車を追う。

その収集車には、娘を妻にとられ離婚訴訟を打たれている清塚陽島が乗っていた。彼は、「酒場で知り合った親切な男」によって各所に用意されたハッキングツール「防壁破り」を使い、妻の電腦に侵入して離婚の真意を確かめようとしていた。だが、警察の捜査の手が伸びると、共同してツールを用意していた男と連絡を取ろうとする。

しかしその男は、収集車を追う素子たちの車に気がつく、車に向かって喜ばなく短機銃射をぶっ放して逃走した。男は素子とハノカーに追跡され、格闘の末拘束されたが、その時、男は自分が何者で何のために行動していたのかわからないことに気がついた。一方の清塚陽島も、妻や娘の存在が偽の記憶であることを、9課の取調室でトグサたちに説明されていた。「人とも秘密会談襲撃のために」「人形使い」に操られていたのである。

そして9課部長の密命は、ガベル共和国の前軍事政権指導者であったマレス大佐が、人形使いと接触する様子を確認していた。だが、そこに現れた人物もまた「人形」だった。結局9課は、マレスが人形使いに秘密会談を襲撃させようとしていたことまでは突き止めたが、「人形使い」本人を確保することはできなかった。

その後、政府御用達のサイボーグを生産しているメガテックボディ社の生産ラインが勝手に動き、生産された義体（金銭女性）が逃亡、高速道路でトラックに轢かれると

▶それが沈む体をかかえて 海に潜る理由か

いう事件が発生した。9課のラボに持ち込まれたこの義体は、人間の脳が埋め込まれる前の「からっぽ」な状態なのに、義体の補助脳にはゴースト、つまり人間の意識らしきものがあるらしいのだ。素子はこの義体に何かを感じ、異常に執着する。

捜査の準備にかかろうとした素子たちは、慌倉に会いに来た外務省条約審議部、通称「公安6課」の中村部長、素子の連れであるドクター・ウィリスとすれ違う。中村は荒倉より、回収された問題の義体を引き取りに来たのだった。中村とウィリスによると、この義体の中にいるこそ“人形使い”だという。公安6課はアメリカと協力し、ウィリスが外人形使い用プログラムを作成して、人形使いがどこかの義体に逃げ込むように追い込んだ。その結果、たまたま9課の前に現れたというのだ。

その会話を素子はモニタリングしていた。トグバは、中村たちがやってきた時の自動ドアの監視映像も6課の車の重要記録から、中村が光学迷彩を使用する要員を密かに複数人連れ込んでいることに気づき、素子に報告していたのだった。

そして中村と荒倉が会話している中、突然人形使いの義体が喋り始めた。人形使いは、自分は人間でもAでもない存在だと言い出す。「私のコードはプロジェクト2501。私は情報の海で発生した生命体だ」。その後、9課のラボが襲撃され、人形使いの義体が持ち去られた。6課が実行して人形使いを奪ったのだ。

素子が襲撃犯を追う一方、荒倉らは「プロジェクト2501」について調査する。そして外務省が外交を有利に進めるための構想として“人形使い”を作ったものの、人形使いが制御できなくなり強引に回収しようとしたのではないかと推測する。

やがて二手に分かれて逃走する襲撃犯のうち、片方をバトーが押さえるが、そちらはダメだった。素子が追跡するもう一方の者は、高層された博物館に入り込む。するとそこには戦車が待ち受けていた。素子はバトーの助けを借りて、死闘の末戦車を撃破。すると人形使いは素子に対し、自分が生命体として完全なものになるため、素子と融合したいと言いついたのである。その時、6課のヘリに乗ったスナイパーが、上空から人形使いと素子を狙撃する。だが、直前に攻撃を察知したバトーにより、素子は幸うじて救われた。

脱走を許された新しい義体で目を覚ました素子は、人形使いと融合していた。そしてバトーの言葉を断って、再会した時の合い言葉を決め去って行く。彼女の前に広がるのは、広大なネットの世界……



一般的なサイズよりも水より比重が重いため、水に入ると沈んでしまい、泳ぐことができない。それでも素子はプロトタイプを付けて海に潜り、自分を免れようとしていた。また「バトーとの会合中」（今後ら頼もて見るべく見るところ多し）の聲が聞こえる。

▶いや、そもそも始めから、「私」なんて存在しなかったんじゃないかって



知らないのにゴーストがあるらしい。そんな義体に、自分の記憶やゴーストに疑念を抱く素子は自分を愛お敬する。

▶私のコードはプロジェクト2501。 私は情報の海で発生した生命体だ



制作された。プログラミングで作られた“人形使い”は「あらゆるネットを巡り、自分の存在を知った」とつまり自立を確めた。そして生命体として完全なものになりたいと、己の意志で活動していたのだった。





CHARACTERS

～登場人物～

本作のキャラクターデザインを公開。主人公・素子はサイボーグであることが強調され、表情がほとんど変わらない、瞬きをしないなどの細かな設定がなされた。



公安9課

Kusanagi Motoko

草薙 素子



公安9課実地部隊の極めて優秀なリーダー。他の9課のメンバーからは「少佐」と呼ばれている。外見は比較的若い。素体のため実年齢は不明。脳以外の全ての部分を機械化した全身義体のサイボーグ。直感、つまり「ゴーストの働き」で行動することがある一方、全身機械化した自分は何と云えるのかと考え、また人形使いの事件を目にして、自分の記憶やゴーストも確かなものと思えるのかと疑問を抱くようになっていく。



▶最後に一つだけ、私を選んだ理由は？

New cyborg Motoko
素子の新義体



“人形使い”と融合し、救出された後の素子の義体。目覚め直後は調整されていたなかったため顔が異なっているが、その後以前の素子の顔と同じになっている。以前船上でバトーに誘っていたように、声もまた“自分”を認識する素子のひとつだ。





公安9課

Batou

バトー

素子の片腕として活躍する公安9課隊員。素子ほどではないが、ほぼ全身を義体化したサイボーグで、実戦経験も豊富、指揮として素子のことを気にかけており、人形使いの事件に遭遇して以後、自分という存在に疑問を抱くようになった彼女のことを心配していた。素子が狙撃されたとき身を張って守り、「少女」ではなく「素子」と叫んでいる。その後9課にも内閣に、素子の解放を救出した。



▶自分のゴーストが信じられないのか



公安9課

Togasa

トグサ

元は本庁の所轄刑事で、素子に引き抜かれた9課のメンバー。義体化はしているが義体化はしていない。そのため戦闘力などは他の隊員より劣るが、元刑事ならではの推理力により、9課にやってきたら謎の不安な行動に真っ先に気づいた。



▶なんで俺みたいな男を、本庁から引き抜いたんです？



公安9課

Aramaki

荒巻

公安9課のトップで、以前公安部にいたため「部長」と呼ばれる。私利私欲なく己の正義を貫く人物。義体化していないため過酷な訓練を受けており、アナタロに見るが的確に素子らを指揮・支援している。



▶お前たちはそこで何かを探せ!



公安9課

Ishikawa

イシカワ

9課のメンバー。現場に出ることもあるが、得意分野は監視空間での情報収集であり、その他力はトップクラス。プロジェクト 2501 などのことも、遠隔に調査している。



▶外務省のネットに潜っていたんですが、いろいろ面白いものが出てきましたよ

公安9課OTHERS

Engineer

技術者



9課隊員の義体メンテナンスのほか、証拠品となる電脳や義体の調査も行う9課の技術者たち。義体化し、多くが自らも義体化している。

Operator

オペレーター



義体体導入されている、AIによって動くロボットたち。そのため密閉じ環境をしている。手はキーボード操作のため特殊な構造になっている。



Secti'en6 Nakamura

6課 中村

外務省参事官補部、通称“公安6課”の部長。密かに“人形使い”というプログラムを制作させ、それを用いてマレス大佐送還の口実を作るなど、国益にかなうように事態を誘導していた。そういう意味では私利私欲で動いていた訳ではない。



▶あの義体の中身を回収に来た



Dr. Willie

ウィリス博士

米国人。ニュートロン社総務部長。AI研究の第一人者で“プロジェクト2501”の主任を務める。“人形使い”の存在や行動をまるで人間のように呼んだり扱ったりするなど、自分たちが生み出した“人形使い”に強い思い入れがあった模様。



▶もしかしたら片思いの相手でもいたのかもしれん



Tsuan Gan Fang

ツァン・ゲン・ファ

清掃員に“防壁破り”を課していた人物。難民系武力闘争組織に所属しており、ガベル共和国の秘密会議を襲撃するよう依頼されたというが、これらは“人形使い”が作った偽の経緯で、実際にはコーギーと通称されていた。ただのチンピラ。



▶逮捕しても無駄だ。何も吐かんぞ



The Garbage man

清掃局員

ゴミ回収中、公衆端末に用書された“防壁破り”を使い、漏網すると言いついた妻のゴーストに侵入しようとしていた人物。だが彼の妻や娘の記憶は作られた偽物で、実際には“人形使い”に操られ、外務大臣選取をゴーストハックしていた。



▶確かに写ってたんだ。俺の娘……



Foreign minister's Interpreter

外務大臣 通訳

ガベル共和国の会談に出席するはずだった通訳。清掃員は自分の妻にゴーストハックしていると思いつき、彼女にアクセスしていた。



Colonel Malles

マレス大佐



ガベル共和国の軍事政権指導者だが、革命により地位を追われ、一時的に亡命していた人物。“人形使い”で秘密会議を襲撃しようとしていたことが明るみに出て送還された。

Foreign minister

外務大臣

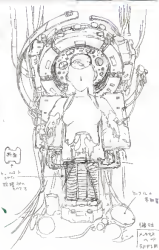


公安6課中村のボスにもあたる人物。マレス大佐の亡命を受け入れるが、ガベル共和国政権を支援するかの選択で、マレス送還の口実を欲していることを露骨に匂わせた。



The Puppet Master 人形使い

ワイリス博士が主任、台田瑞穂がメインプログラマーを務めた「プロジェクト2501」から生まれたAI。元来は外交活動などを有利に進めるための情報収集や作戦操作を行うためのプログラムで、そのために他人のゴーストを操縦することから「人形使い」と呼ばれていた。だがネットを巡るうちに「自分」の存在を知って自覚に目覚め、さらに草薙素子の存在を知る。その自覚はバグと見なされ6課の次期防壁で扱われたが、9課と繋がりが深いメガテクポデリティ社に逃げ込み、「生命体」として完全なものになるため素子と接触する。



▶ あることを理解して貰ったうえで、君に頼みたいことがある

Diplomat
外交官



台田瑞穂を自覚に目覚めさせようとしていた外交官。外交特権を利用して強引に台田を連れ去ろうと目論む。サイボーグだが、素子の炸裂弾を受けて両手に飛び切り破られた。

Beta Misuzu
台田瑞穂



「プロジェクト2501」のメインプログラマー。「人形使い」の予備せめ動序に戸惑っていた標榜。亡命させられそうになっていたところを、9課の力を借りた6課に止められる。

◆ メインキャラクター対比表 ◆



作画参考のための対比図。並べると特に、アニメの女性キャラにしては素子ががっしりしているのと、パートの次男ぶりわかる。



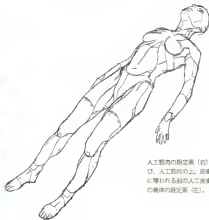
CYBERNETIC BODY

～義体～

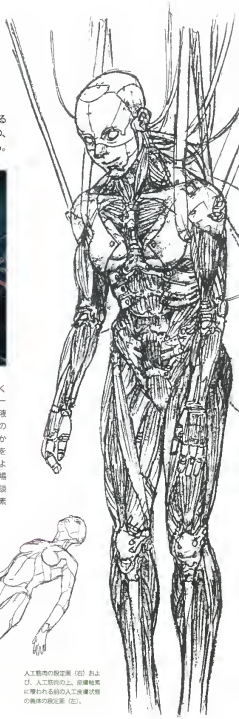
『攻殻機動隊』の世界観で最も特徴的なのが、この義体と脳植化であると言えよう。原作コミックですでにさまざまな設定はあったものの、映画化に際し、特に美術面において、非常に細かく作り込まれている。



草 素子の義体は、実際の人間の筋肉のつきかたにあわせ、人工筋肉が細かくリアルに描かれている。サイボーグとしての素子が組み上げられていくオープニングシーンでは、脳殻が義体に挿入された後、義体は不透明の皮膚触媒形成液に包まれ、荷電マイクロマシンによって覆われた後、表面の皮膚が分離して素子の顔などがはっきりと現れる。それから洗浄液の中に進んで洗浄され、洗浄液の中から現れて湿度乾燥されるという工程となっている。なお押井守監督によると、銃をしっかりと構えているところを見せられるように、原作コミックの素子のデザインよりも胸を小さめにしたという。また、軽装で戦車のハッチをこじ開けようとする場面などで説得力を持たせるため、キャラクターデザインを担当した沖浦啓之と相談しつつ、海外の筋肉質な女性モデルの写真などを参考にしながら、やはり原作の素子よりもやや筋肉質にデザインしたという。



人工筋肉の設定画（右）および、人工筋肉の上、皮膚触媒に覆われる前の人工皮膚状態の義体の設定画（左）。





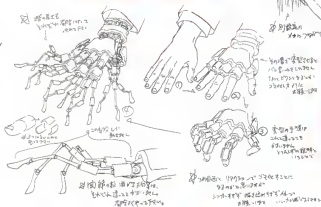
有機体接続する時の、電気通信用プラグ。電脳は無線でも通信が可能だが、有機体通信は高速でジャミングにも強く、発見される恐れがないという利点がある。



ハンキング遊技場のため、通関の輸送車を取り出して裏通ししている状態。強盗前線は移動しつつ断続的に彼女へアクセスしていたため法網に手留めされた。



ワイリスの手。ワイリスは自分が電脳化することを選んだが、手をサイボーグ化し情報入力速度を上げていた。9課オペレーターも同様の手である。



「人形使い」の義体。もともと「人形使い」に実体はないが、6課の攻勢前線に送られてこの義体の補助電脳に誘い込み、9課の美子との接触を狙った。





ツアスタ(CZ-M100)

素子も使用する標準的なセミオートハンドガン。素子が「マデバではなく」ツアスタにしたい」と言っていたのはこの銃のこと。



GUNS

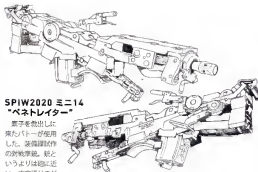
～ 銃器 ～

本作公開当時、SF 作品といえば未来感を強調した独特な形状の銃が多かったが、本作では押井監督のこだわりにより、実在する銃と似た形状の銃がデザインされている。



クルベナ・ツアスタ・ノスレ CZN-M22

素子のライフル。対戦車戦では弾薬薬莢中弾を連射したため銃身が劣化して命中精度が落ち、銃身を交換する場面が描かれている。



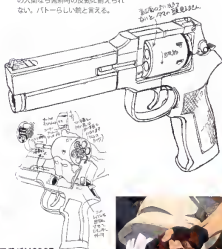
SPIW2020 ミニ14 "ベネトレイター"

素子を数出した来たバトーが使用した。装備課試作の対戦車銃。銃と、いうよりは砲に近い。文字通りのゲテモノ。



ジェリコ942FS

バトーが使用するセミオートハンドガン。50口径という大口徑で、並の人間なら発射時の反動に耐えられない。バトーらしい銃と言える。



マデバM2007

トグサ愛用のリボルバー。通常のリボルバーと違い、シリンダーの下にある弾丸が射撃される。そのため射撃時は反動による銃ね上がりが見えるが、やや両手が合わせにくい。





コーギーに対して弾が無く弾動しているように見える「トニー」が、その後の追跡時、射撃上の危険を回避するために、発射を止めるところまで描写されている。

トグサの銃（9mm口径）では弾もつかなくなった6銃の真だが、9銃の狙撃手の装甲弾によって車も運動もせず、ズタズタに、助手席の男は「トニー」に取り押さえられた。



「トニー」が射撃能力を喪失した時、よく見ると最後の一発を撃ち終わった後、発射が止まされず車室内に残っている（いわゆる「ジャム」状態）になっている。不安定な製作ゆえか。



6銃の狙撃ヘリは、銃、サイボーグの狙撃手、ヘリコプターがすべて一体化したシステムになっており、揺れる上空のヘリからでも正確な狙撃が可能となっている。

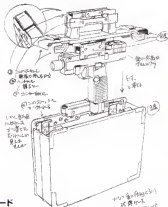


中国製UZI SMG

コーギーが使用した銃。9銃の「トニー」に対して撃つ際は強装弾のマガジンに換え、その反動に耐えるため抱き込んで構えているところまで描写されている。

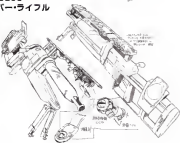
偽装SMG（ステアTPM）

外資系の諜報が使用した、アタッチケースに収納された銃。ケースの握りを操作することで、内部のサブマシンガンが露出するように設計されている。



モーゼル・タキシード "KOMPROMISSLOS" センスド・スナイパー・ライフル

車で逃走する9銃の狙撃を阻止するために配置された。9銃の狙撃手が使用したスナイパー・ライフル。銃架、銃身、スコープ部が3脚に架かっているのが特徴。



ウルティマ・ラディオ・フルセンシング

ヘリに乗った6銃の狙撃手が撃子たちを狙撃するのに使ったスナイパー・ライフル。ヘリおよびサイボーグの射手と接続して使用される。



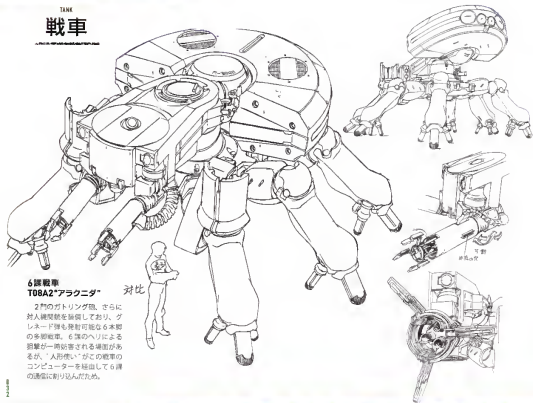
MECHANICS

～メカ～

原作や後のTVシリーズなどに登場する、コミカルな思考戦車(AI搭載戦車)は本作ではカットされた。だが、大型の多脚戦車は登場し、素子にとっての脅威となった。

TANK

戦車



6脚戦車
T08A2“アラクニダ”

対比

2門のガトリング砲、さらに対人機関銃を装備しており、グレネード弾も発射可能な6本脚の多脚戦車。6本のヘリによる振盪が一時的にされる場面があるが、「人形使い」がこの戦車のコンピューターを操縦して6脚の誘雷に射り込んだため。

HELICOPTERS

ヘリコプター

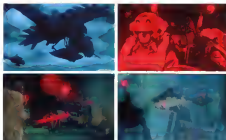


狙撃ヘリコプター

6機の狙撃用ヘリ。メインローターによるダウンフォッシュ（下降気流）の影響を最小にするため、制流カバーとフィンがついている。

輸送ヘリ

9機の輸送ヘリ。高速道路を走行する9課襲撃犯を運ぶ時に出勤し、ロードブロックなどを構んだバンを、下部に格納して運んでいた。

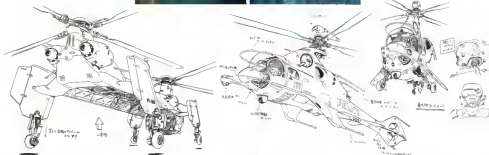


狙撃管制ヘリコプター

「人形使い」を助けて出撃した6課のヘリのうちの1機。他の2機の狙撃ヘリを指揮していたが、「人形使い」による妨害を受けている。

9課ヘリコプター

素子が9課襲撃犯を逃がした時に乗ったヘリ。下部には機銃が搭載されており、素子が機銃に遭遇した時、博物館の天窓を刺るのに使っている。



CARS & CRUISER

車両 & 船



9課偽装バン

素子とトグサが乗っていたバン。偽装の企業ロゴで一般車のように見せかけているが、対強盗装甲様の車両。



清掃車

清掃司員の清掃車。バッテリーとインカワはこの車とすれ違い、また目撃情報からハッキングとの関連に気づいた。



トグサの車両

トグサが高速道路の9課襲撃犯を追跡する時乗っていた車。その後「トニー」が乗り、素子の元へと向かっている。

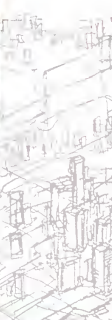


素子のクルーザー

素子がダイビングする時、素子と「トニー」が乗っていた船。海を恐れる「トニー」は心許ない小舟だったろう。



パトカーが市場の中でコーギーを追うシーンでは、町の人々が背景のひとりひとりに至るまで活動しており、作面にかんがりの努力を使っている。強烈とした中で集中して相手を捜すパトカーを巧みに表現している。



LANDSCAPES

～風景～

押井守版『攻殻機動隊』の舞台は「近未来の日本」ではなく、アジア的でありながらも、あえてどここの国とも特定できない光景にしており、それが他シリーズとの大きな違いである。

大量の看板が印象的な場面。コーギーの光学迷彩は旧式で水を浴びて効果が高まったが、高平の光学迷彩は水の影響を受けなく最新型だった。



香港風の、看板が密集した街中は再現にかなり手間がかかっている。増っばくならないよう裏面などを再現して壁かく作直し、それをCGに取り込んで、遠近感が出るようカメラレンズによる歪みなどを表現している。



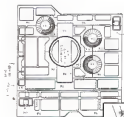
情報の海から生命体が発生する。それをテーマにした映画を制作するにあたり、押井は「情報に溢れた都市」を表現するため、大量の看板が立ち並ぶ香港でロケハンを行った。その結果、単に近未来的な超高层建筑が林立するだけではない、独特な都市が形成されている。また、冒頭のシーンで素子が通信を傍受している場面などは、日本語、英語、北京語などの複数の言語が入り混れており、まさしく「情報の海」を泳いでいると言ってもいいだろう。

ただ、それだけでは「近未来の香港」になってしまう危険があるが、この画面に川井憲次の音楽が乗せられることによって、新たな世界が生まれている。日本伝統の民謡風の歌声に、日本の古語である大和言葉の歌詞が乗せられ、太鼓や鉦などのBGMが加わって、独特の世界観が形成されている。

また、押井はこの映画の前に監督した『機動警察パトレイバー2 the Movie』（1993年公開）で本格的に取り入れた、「レイアウトシステム」と呼ばれる手法を、本作でも採用している。これは絵コンテ作業の後、実際の原画作業に入る前に、レイアウト（画面構成）を事前に徹底的に、緻密に作り込む手法だ。これによって各カットにどのような意味、狙いがあるのかを明確にし、また背景と人物の大きさの対比などを正確に（時には特殊なレンズを使用したがのように見えるなどの理由で意図的に歪ませ）表現するのにも寄与している。当然のことながらアニメでは、描いたものが画面に映らない。そのため絵があまり動かないシーンで間を持たせるのは、実写に比べると情報量が削減されてしまうため難しい。だが、レイアウトをしっかりと構成することで、必要な情報を効率的に画面に入れることができるのである。

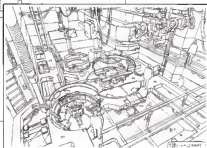
◆ 9課ラボラトリー ◆

× カニカルな風景の場合、特にSF作品ともなれば、レイアウトはまた重要な意味を持つ。繰り返すが描いたものしか画面に映せないアニメでは、情報量はレイアウトに左右されると言っても過言ではない。いくら設定面に細かく情報があっても、反対側から見た図などどうしても漏れが出るし、仮にフルCGだとしても、全ての角度からの情報を網羅するのは非効率である。ゆえにレイアウトが大きな意味を持つのであり、その典型がこの9課ラボの場面と言えよう。



“人形使い”が持ち込まれた9課ラボの設定（最初に素子らが居たのは左側）。各所で高さが異なるなど、複雑な構造をしている。

複数の人間が同じ場所を描くアニメでは、複雑な場所は不整合が起きやすい。ゆえに事前に何を描き、何を描かないか決めるのが重要だ。



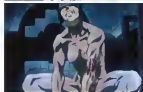
THE LAST SHOT

～ラストショット～

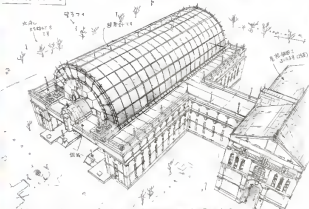
二手に分かれて逃走する9課襲撃犯のうち、バトーたちが追ったのはダミーであり、素子が自分で“ゴーストの囁き”に従って追った方が本命だった。その行く先は、半ば水没した博物館……。

博物館

半円形の天井などは洋風の古い建築を連想させる。博物館ではあるが、空望のような鳥を遊わせている。



博物館外観



▶ 私たちは似たもの同士だ。
まるで鏡を通して向き合う、
実体と虚像のように



▶ 素子おおお——!!!!



素子は“人形使い”に固執し、ヘリの素子の危険も承知の上で、ひとりで6課の軍が逃げ込んだ襲撃博物館へ侵入する。

だが、そこには素子が想像していた以上の数、多数戦車が待ち受けていた。対戦車戦用のような装備など持ち合わせていなかった素子だが、バトーの制止も無視して戦闘を開始する。そして戦車のハッチを力尽くまでこじ開けようとするが、戦車が耐えきれずに崩壊。身体が動かせなくなったところを、戦車のマニピュレーターで捕らえられて頭を留めごと潰されかける。間一髪、そこに該作品の対戦車戦を持ったバトーが駆けつけ、素子は辛うじて救助された。ところが素子は、自分がそんなボロボロな状態であるにもかかわらず、直ちに“人形使い”に直に接続すると言い出して、バトーを驚かせる。素子は“人形使い”に接続するチャンスは今しかないと考えたの

だ。その“人形使い”が求めたのは“素子との融合”だった。

この話を聞き驚愕したバトーは素子と“人形使い”を接続している回線を探こうとするが、その腕も“人形使い”に阻止される。“人形使い”は素子に対し「私たちは似たもの同士だ」と語る。人間としての自分に疑問を持っていた素子のことを、まるで最初から知っていたかのように。

この場面を押井は、日本神話として解釈したという。つまり“人形使い”は天照大神であり、素子は天姫女命として、天岩戸、すなわち戦車のハッチを開けようとしたが、できなかった。代わりにバトーが天手刀男として戦車を撃破したという形だ。戦車が6本脚+ガトリング砲2門の合計8本足であるのも、様々な神話で怪物として描かれる蜘蛛をイメージしてのことだという。

それと同時に“人形使い”と素子の融合は、新たな生命の誕生である。素子と戦車の戦跡中、戦車の砲筒が、生物の進化を示した系統樹を駆け上がっていくところは象徴的だ（弾痕が止まったところに描かれている「Thomas」とは、ラテン語で“人間”の意味である）。それと同時に融合は“人間と機械の結婚”であり、我々の代わりとなる博物館にて、祝儀の天使のビジョンが、鐘の音の代わりに狙撃兵の銃の音が続く……。そのため、川井憲次の音楽による大和言葉の歌詞も、結婚を祝福した内容になっている。

“人形使い”たちを狙っていた狙撃手は、乗員が死んだ戦車のAIを通して“人形使い”が妨害していたが、バトーと同時に妨害を解かれる。そして素子を狙った方の銃弾は、彼女を庇ったバトーの手によって避け、幸うじて脳筋は守られた。その後9課のヘリによって腕を失ったバトーは救出され、6課の中村部長は査問にかけられることになり、“人形使い”の事件も真相は闇に葬られたが、一応の決着を見た。だがバトーは、9課にも素子の強盗の行方は伏せており、密かに自らのセーフハウスに運び込み、新たな機体を与えていた。こうして素子は、少女の姿で生まれ変わった。

そして「ずっと、ここにもいいんだぞ」というバトーの言葉を断り、「行くわ」といって素子は去って行く。この時、バトーが告げようとした車のキーの暗証番号は「2501」。無論“人形使い”が生まれた“プロジェクト2501”に由来する。「2501、それいつか、再会する時の合い言葉にしましょう」と言い残していった素子だが、後にこの言葉は『イノセンス』で果たされることになる。

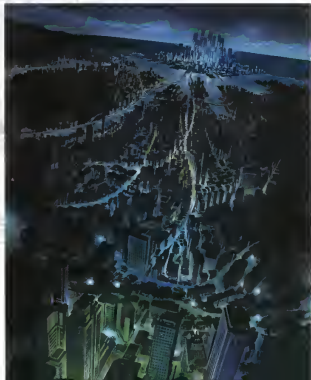
▶ここには 人形使いと呼ばれたプログラムも、 少佐と呼ばれた女もないわ



バトーのセーフハウス（隠れ家などとして使える場所）で素子は目覚める。少女の機体にされたことを平服そう仕舞う素子に対し、バトーは悲しいのでそれしかなかったと告げるが、新しい生命に生まれて歳が経つたとも解釈できる。



▶さて、どこへ行こうかしらね。 ……ネットは広大だわ



謎解き「GITS」

“GITS” Mysteries and Answers

Q1 人形使いの目的は何だったのか？



9話が「人形使い」を巡る謎で迷った男たちは、全て「人形使い」がゴーストハックして捕まっていた者たちだった。女性型の機体も、あくまで後のボディに「人形使い」が入っていないに過ぎない。

“プロジェクト 2501”の名の下に作り出されたAIの“人形使い”は、他人のゴーストをハックして、情報収集や株価操作など、国益にかなう活動をさせられていた。その一例が、マレス大佐強制送還の口実作りである。

しかし、“人形使い”はネットを巡るうちに“自分”の存在を知る、つまり自我に目覚め、自分を“生命体”と認識したのだ。そして、素子と融合することで、自分の重種、即ち子孫をネットに残し、いずれは素子と共に死を得ることで、生命体として完全なものになるうとしていた。自分のコピーを残すだけでは多様性が生まれず、1種のウイルスなどで全滅する可能性があるからだ。

A 自我を持ったAIが、生命体として完全なものになるうとしていた。

Q2 船に乗る素子が、町で見かけたもうひとりの素子の意味は？

川を船で下っているとき、素子が見上げると、そこには自分と全く同じ顔をした人物がいた。この世界では機体化が当たり前である。つまり、顔や体格、外見上の性別さえも自在に変えることができる世界だ。特注ではない複製品の機体なら、同じ顔の機体が売っていてもおかしくはない。だが、もしかしたら素子が見たものは、幻だったのかもしれない。素子は「人形使い」と出会ってから、“自分”というものの存在に疑問を持つようになっていたのだから……。どちらにしても、この世界では、自分と同じ姿をどこで見てもおかしくないし、ゆえに何を根拠に“自分”を定義すればいいかは、実は曖昧であるということだ。



素子がガラス越しに相手を見ている姿も重要な伏線だ。ガラスは壊と解釈することもできるからである。そして顔を見せられていないマネキンは「空っぽの魂」の機体とも、人形とも解釈できよう。

A 偶然見かけた、自分と同型の顔を持つサイボーグ？

Q3 人形使いとの融合時に見えた天使は何？



舞い降りる羽は、瞬間に天使の羽からこぼれ落ちたものとも、これから素子と“人形使い”が産もうとしている“上部構造”の断片が降り注いだものとも考えられる。

素子は“人形使い”と接触後、6課の狙撃手に撃たれる直前に、舞い降りる羽と天使の姿を見る。その前に素子は“人形使い”に「私には、私を含む膨大なネットが接合されている。アクセスしていない君には、ただ光として知覚されているだけかもしれない」と言われており、その“膨大なネット”が、天使や羽のように見えたのかもしれない。また素子は“わずかな機能に静置していたが、制約を捨て、さらなる上部構造にシフトする時だ”とも言われる。つまり、この天使は、“人間”としての素子の死を迎えに来た存在、あるいは“上部構造”、つまり“人間とAIの融合”を拓殖する存在と捉えることもできるだろう。

A 新たな生命の誕生を祝福するイメージ？

Q4 公安6課の目的は何だったのか？

9課のもとに“人形使い”が逃げ込んだことを知った6課は、外務大臣の指示書を持って“人形使い”の養体を回収に来た。本来はそれで平穩に終わるはずだったが、“人形使い”が勝手に喋り出したため、9課に“人形使い”が作られた目的や“プロジェクト2501”の正体が漏れることを恐れ、中村は密かに連れて来た襲撃部隊により、“人形使い”の養体を強引に持ち去らせたのだ。なお、“人形使い”が「私は情報的大海で発生した生命体だ」と言ったとき中村が後ずさっているが、これは自分が攻撃に巻き込まれないようにするため。



中村とウィリスの二人だけなのに、車を2台使っていたことを不審に思い、トグザは車が入った直後とその後の重量を調べ、また自動ドアの開閉タイミングから、光学センサーの侵入者に気づいた。



A 暴走した“人形使い”の回収、もしくは破壊。

“GITS”用語解説

【ゴースト】

この言葉の意味は劇中でもあえて説明されておらず、解釈は観る者に委ねられている。だがあえて定義づけるならば、自殺、遺棄、墜など解釈できる。生物とは異なり、通常型にはゴーストは存在しないといわれる。

【メガテクボディ社】

政府などで扱っている、機密性の高い養体を生産しているメーカーで、素子などの養体もこの会社製。“人形使い”は6課の攻撃兵器に追われたとき、9課にいる素子と接触するため、メガテクボディ社の養体に移り込んだ。

【攻性防壁】

ハッカーの侵入を防ぐ“防壁”（別代の用語で言うところのファイアウォール）に、ハッカーへの攻撃能力を備えたもの。強力な攻撃防壁は相手の脳を焼いて寝ますことすら可能だが、そこまで強力な攻性防壁は使用が制限されている。

『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊2.0』との比較

Comparison with GHOST IN THE SHELL 2.0

“バージョンアップ”し2008年に劇場公開された『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊2.0』。押井監督が「古いバージョンがなくなるわけではない」として大胆に変更した『2.0』をここで紹介する。



2.0

企業の手が回す世界
電子や光が飛び交っても
国家や民族が滅んでいくおそれ
皆無化していない近未来——

GITS

グリーンからオレンジへ。CGによる表現



2.0

押井守は、近未来的な近未来の中で、人々がバーチャル・リアリティのゲームに興ずるといった内容の実写映画『アヴァロン』を制作し、2001年に公開。この映画ではコンピュータ画面などを表現するのに、ニキシー管を意欲した暖色、オレンジ系の色を使用した。それがそのまま『イノセンス』（2004年公開）にも継承されたわけだが、この色味が『2.0』でも採用され、各種のディスプレイや電脳画面などはオレンジ系で作り返された。また一部のシーンは、キャラクターが手描きの作画ではなくフルCGに差し替えられている。



GITS

人形使いは「彼」から「彼女」へ



『2.0』では、全キャラ再アフレコが行われ、さらにスカイウォーカー・サウンドが関わった6.1ch音声により、特に銃声などがよりリアルになっている。そして男性声優の家弓家正が演じていた「人形使い」の声は、『2.0』では井井守作品と縁の深い女性声優の、榎原良子にキャストが変更されている。それに伴い、ウィリスが「人形使い」を「彼」と呼んでいたのも「彼女」になった。これは素子、バトー、「人形使い」が三角関係にあり、バトーは素子を「人形使い」に取られた……とみる向きに對する、異なる解釈の提示だ。『2.0』では、そういう要素を削除して考えやすいため、『イノセンス』で素子が再びバトーの元に見れることに、いっそう説得力が増す。



素子が目覚めてバトーのセーフハウスから去った後、「さて、どこへ行こうかしらね」と素子が見下ろす街の姿も、オレンジ系のCGになった。その結果、最初の劇場版公開当時のアナログ手描きでは不可能だった描写になっている。つまり、車やヘリ、航空機などの動きとして示される、さまざまな情報が行き交う都市の図だ。その光景は、まさにこれから素子が飛び込もうとしている、広大なネットの海を表現しているとも言える。

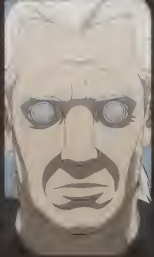
最後に素子が見下ろす町



GITS

2.11





第 2 章

「イノセンス」
～ 2501 の章 ～





INTRODUCTION

～序論～

この映画は『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』の続編として、押井守監督によって制作され、2004年に公開されたものであり、草薙素子が入形使用と融合して姿を消した後の公安九課（設定に従い、本作のみ九課を「九課」と記す）が描かれている。

本作では「アニメの限界に挑む、10～20年経過しても耐えられるクオリティ」が追求され、様々な面でグレードアップが図られた。美術面では、今回はイタリアや台湾などでもロケハンが行われ、各所のデザインに生かされている。そして主に背景にCGが多用され、3次元で作られた緻密な空間に、実力派アニメーターらによる手描きの絵が融合している。特に我々の祭礼のシーンには、音楽も合わせ圧巻の一言につきる。その場面などでの、前作に引き続いて採用された民謡風コーラスも、前作では3人の民謡歌手によって歌われたが、本作では最大75人による民謡歌手の歌声が重ねられた。また特大オルゴールの音を地下採石場跡で反響させた音楽が使用されたり、アカデミー賞受賞経験のある入

イウォーカー・サウンド音楽スタッフの手が随分わたりしている。

本作では、サイボーグやガイノイド（女性型アンドロイド）を人形に見立て「どうして人は人形を作るのか？ 人を模した人形を時に崇め、時に恐れるのか？」などの問いが、各キャラクターのセリフを通して、多くの著名な言葉を引用しながら語られている。だが本作を楽しむのに、それら全てを理解する必要はない。セリフをBGMのように流して聞きながら映像と音楽に見入るだけでも、その世界観に飲み込まれるだろう。逆にセリフを噛みしめたいなら、日本語字幕を表示させてセリフを「読む」のもいい。その結果、本作は何度でも見方を変えて鑑賞できる映画として成立しているし、押井監督の狙い通り、10年以上が経過した今でもその映像や世界観などには圧倒される。このことは、本作が日本のアニメ作品としては初めて、カンヌ国際映画祭コンペティション部門にノミネートされたことでも証明されたと言えるだろう。

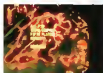
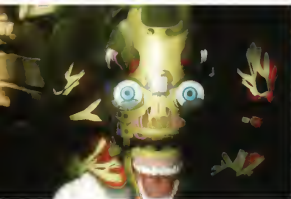




STORY

～物語～

「2501……それ、再会した時の合い言葉にしましょう」。そう言って素子が姿を消し3年後、パトリーは郷愁を抱きつつ1匹の犬と暮らしながら、公安九課に残っていた。



▶助けて……



パトリーはハダリと運命したとまで聞いて、いとう声で聞く。その声は、ハダリウエイが買ったメモリー内にも残っていた。またウォーカーソンが殺された現場には、ひとりの少女の写真があった。

ロクス・ソルス社製のガイノイド「ハダリ」が、所有者を殺害し自爆する事件が連続発生。警護の女性/ハラウェイによると、ハダリは自ら故障することで、ロボットの三大原則のひとつ「人間を傷つけてはならない」を破ったが、同時に別の原則「人間を傷つけない範囲内で自らを守る」からも解放されて自爆、言い方を変えると自殺したという。

その後、パトリーとトグサが話を聞きに行こうとしていた、ハダリの出荷検査部長ウォーカーソンが殺害されると連絡が入る。捜

▶犬丸食品のフレッシュタイプか。ドライにすりゃ半年は保つぜ



紅塵会事務所では様々な銃撃戦を演じた後、いつものように愛犬の好物である餌を、朝陽の食料品店に買いにいこうとパトリー。だが、そこで餌が仕掛けられていた。

査の結果、暴力団「紅塵会」に所属するサイボーグに殺されたかと判断された。ちょうど紅塵会の組長が数日前にハダリに殺されており、その報復として殺害されたらしい。また、ハダリは一般発売前で、試作品が登録ユーザーにモニターとして提供されていたこと、紅塵会がウォーカーソンの存在を知っていたことから、紅塵会はロクス・ソルス社とも繋がりがあるらしい。そこでパトリーとトグサは紅塵会の事務所に向かう。トグサの感念を無視し、多数のヤクザ相手にパトリーは容赦なく機関銃をぶっ放して、ヤクザを制圧した。だが紅塵会名義のワカバヤシは、組長殺害の手打ちとして出荷検査部長の身柄を差し出されたばかりで、前組長とロクス・ソルスとの関係などは知らないという。

街中で大暴れしたことを荒巻に叱責されたパトリーだったが、パトリーは手を取り早く事件の背後にいる者を釣るために、おえてこの手段を執ったのだった。そしてすぐに反応が現れる。トグサの車で送られたパトリーが愛犬の餌を買いに馴染みの店に入ると、違和感と共に銃を操作するような音が聞こえた。パトリーは店内の人間たちを確認しながら自分の銃に手を掛ける。その時再び銃らしき音が聞こえ、パトリーは腕を撃たれた。パトリーは応戦しようと、ショットガンを持ち出した店主に駆け寄るが、その瞬間イシカワによって、パトリーは電脳をロックされた。店に入る前、尾行確認プログラムを走らせた瞬間に電脳をハッキングされたパトリーは捕られ、自分の左手の銃で自分自身の右手などを撃っていたのだ。そして荒巻の指示でパトリーを監視していたイシカワは、パトリーが店主を撃ち殺す前に彼を止めたのである。

イシカワは、ハッキングした者がすぐにパトリー本人を自殺させなかったのは、目的がパトリー殺害ではなくスキャンダルを起こし、



資料品店で、実体はゼロと推定が過ぎ過ぎされるバトー。この形バトーは「ハンモック」を付けていたが、トグサを倒す（スクリーン）にして加害して、メインかつに出現される。



▶キルゾーンに 踏み込んでるわよ

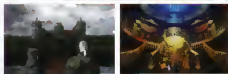
九頭の使用を失策させることだと推測。それは同時に、ハダリの事件に裏があることの証明でもあった。

由 査を執行することになったバトーとトグサは、ロクス・ソルス本社のある北端の控室へ向かい、バトーと旧知で凄腕ハッカーのキムから、バトーの電腦に侵入したハッカーやロクス・ソルスについての情報を得ようとする。だがそのキムこそ、バトーにハッキングを仕掛けた張本人だった。バトーとトグサは、キムの館で疑心は縁の遠路に迷い込み、悪徳味な偽りの記憶を植え付けられ追いつかれるところだったが、「守護天使」の警告によってこの遠路を突破したバトーは、キムの電腦をロックして拘束した。

ロクス・ソルスの依頼で動いていたキムの電腦は、ロクス・ソルスの警備部長と直結していた。それを利用してトグサが警備の目を騙す際に、バトーはロクス・ソルスのプラント船へと直接潜入することに成功する。その後、警備側の反撃によってキムは死んだが、同時にキムが密かに置き土産として残していたウィルスが発動。生産ラインのハダリが暴走し、ロクス・ソルスの人動までをも襲い始めた。バトーも応戦する最中、突然ハダリのうち1体がバトーの銃を奪うと、他のハダリを撃ってバトーを捕縛し始めた。バトーはそのハダリと向き合って語りかける。「久しぶりだな、少佐……」ネットと融合した「守護天使」素子が、ハダリのうちの1体の電腦に入り込んでバトーの前に現れたのだ。その後、素子はプラント船の全システムを掌握し、暴走するハダリも停止させた。

素子とバトーがさらに船の奥へ進むと、そこには紅蓮会に拉致された子どもたちがいた。ロクス・ソルスは、子どもたちのゴーストをハダリにダビングしていたのだ。子どもたちを助けようとゾー

▶ゲームオーバーだキム。 いろいろと吐いてもらうぞ



キムの館でバトーとトグサは、ループする悪夢のような記憶を見せられる。これもハノキングだったが、バトーは救出。トグサを複製記憶から救い出し、キムを拘束する。

カーソルはハダリに「バグを仕込み、子どもはハダリを暴走させ、警察が捜査して駆け来るのを待っていたのだ。バトーは、魂が入れられた多数の人影が自殺したことを責めるように少女に問うが、少女は「私は人形になりたくなかったんだもの!」と叫ぶ。サイボグであり半分人形と言えバトーにとっては皮肉な言葉だった。そして素子は「貴方がネットにアクセスするとき、私は必ず貴方の側にいる」とバトーに告げて姿を消す。彼女が入っていたハダリは、糸を断られた振り人形のように崩れ落ちた。

▶聖霊は現れたまえり…… 久しぶりだな、少佐



「プラント」船内部で大量のハダリを相手に戦っているとき、危機を見せていた黒子がついに悪徳会を倒す。かつてのようには戦う二人だが、それも一戦のみに終わる。



CHARACTERS

～登場人物～

基本的なキャラクター設定は前作を踏襲しているが、3年という月日の経過、そして素子がなくなったことによる影響などが、表情から服装まで含めたデザインに現れている。

Back view



バトーのクルマ

本作のカーデザインは、全体的にクラシックカーが意識されている。

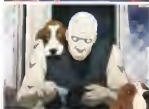


公安九課

Bates

バトー

髪を伸ばし、後ろで縛るようになったバトー。身体の大部分を機械化したサイボーグのため、基本的には老けにくいはずだが、若干老けたように感じられるのは、素子を失った彫刻を背負っているためか。なお、本作では、自宅で大を世話するシーンや、ガインノイドを相手に右腕の仕込み銃を使うなど、前作にはなかった描写も見られる。素子不在の喪失感を抱きながら奮闘する彼を、当の素子はどんな気持ちで見守っていたのだろうか。



バセットハウンド ガブリエル(雄)

バトーの愛犬。押井監督が飼っていた犬と同じ名前である。

▶それにな、俺には守護天使がついてる



バトーの右腕



40SW



ミニミMG

ミニミMGは反動が強く、腰だめで撃つのはバトーだからこそ表された。右腕に仕込んだ際し銃は、腕の動きを制約しない複雑な設計。

▶ 女房と娘の顔が 頭の中いっぱい広がっちゃって……



公安九課

Tagasa

トグサ

サイボーグでないため、普通に顔を取ったトグサ。妻と子がいると同時に、子ども人形と同じように言うハルウェイに膝を立てたり、キムの類似記憶で驚愕したりと、作中で一番「普通の」反応をし、表情もよく変わる。パト一の字荒な捜査手法のどばっちりをしばしば受ける。



トグサの娘



トグサのクルマ



マテバカスタム

所帯持ちゆえ、車はファミリーカーという雰囲気。愛用の車がマテバなのは原作と変わらない。



公安九課

Aramaki

荒巻

前作の遺としていた鬱気はない。美子の不在に、荒巻も喪失感を覚えており、パト一もまた去ってしまうのではないかと胸にかけた。



▶ 悪いこと言わねえ、ドライにしろ。 栄養のバランスから考えても、それが賢い選択だ



公安九課

Ishikawa

イシカワ

後ろ髪が短くなり、ざっぱりした印象のイシカワ。トグサよりも付き合いが長いパト一とは、思ったことを、よりはっきりと言い合う関係である。車中では荒巻に指示され、パト一を密かに監視していた。



イシカワのクルマ

車はCGで起こしたものを手直しし、乗り込みを加えている。



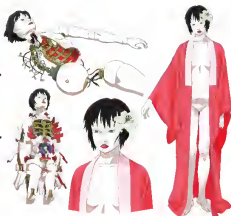
▶ 孤独に歩め……悪をなさず、
求めるところは少なく、
林の中の象のように



Gynoid Type2052 HADALI

ガイノイド タイプ2052 ハダリ

ロクス・ソルス社のガイノイド(女性型アンドロイド)。メイド用として同社のお得意様にモニター提供されていた。その身体は、性的な愛玩対象ともなるセクサロイド。彼女の暴走事件で物語は幕を開ける。



▶ 正確には衛星経由で
私の一部がロードされてるだけよ……



* Back view



Gynoid

ガイノイド (素子)

ハダリの電腦に、素子の一部が転送されたもの。他のハダリと戦うときは身体強度が同じため、最も厲々な足で相手の脚部を狙うなどしている。なお、これはあくまで素子の一部であり、劇中の他シーンの、どこに素子がいてもおかしくはない。



ソードオブ・ショットガン



Haraway

ハラウェイ

所属の監視の女性。生命や人形に独特な価値観をもっており「子育てとは人造人間を作ること」と述べてトグサを驚かせた。これもトグサに対する一種のハッキングと言え、なお彼女自身もサイボーグである。



Police

刑事

所属の刑事。同僚の刑事が二人殺されたハダリの事件を、突如暗から現れた力強さに押して行かれることになった。そのためトグサに皮肉を言い、さらにトグサらが逃した後、いらだってゴミ箱を蹴飛ばしている。





Kenetoko

用心棒

ヤクザ「紅蓮会」の用心棒で、ロクス・ソルス社社長ヴォーカン殺害の実行犯。モデルNR06「蟹狭み」という軍用の義手を楯で手に付けている。軍用としては機械的だが、相手を威嚇するには効果絶大だろう。また、この男はよほど蟹が好きなのか、腕には蟹座を示すタトゥーまで入れている。



Wakabayashi

ワカバヤシ

ヤクザ「紅蓮会」の代貸し（幹部）。組長はハダリに殺され、ナンバー2の人物は収監中であるため、実質にはナンバー3にあたる。そのため組長殺しの報復行いで名を揚げようとしたらしいが、パトリーに食され失禁する有り様だった。



▶ 真に美しい人形があるとすれば、それは魂を持たない生身のことだ



Kim

キム

昔、特務部隊などに所属。パトリーと旧知のハッカーで、密かにロクス・ソルス社に雇われていた。パトリーに「機室上層機以来か」と言っているのは、原作設定にある大戦に由来する。彼も人形に独自の考えがあり、死体を模した義体に入っていた。



Rin

リン

情報屋。偶然に英雄があっただらしいパトリーと偶然遭遇した途端逃げ出したが、結局捕まった。その後キムとの密着関係を言われたり、プラント船に侵入するため水中マイボートの手配をさせられたりしている。



Girl

少女

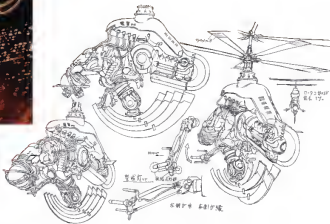
ロクス・ソルス社に捕らえられ、ゴーストダビングの元に使われていた少女。ハダリのメモリーにあった「助けてー」という言葉は彼女のメッセージであり、彼女が欲しいを求め、ハダリ暴走事件を起こしていた。





SCOUT HELICOPTER スカウトヘリ

作中冒頭などで飛んでいた、電撃の小型ヘリ。パイロットは有機的に機体と接続されており、身体を動かす感覚で操縦できる設定。メインローターは二重回転式で、テイルローターはない。



UNDER WATER CYBORG 水中サイボーグ

通常のサイボーグと異なり、泳ぐことに特化した特殊なサイボーグで、プラント船にバトーを誘導した。本来は水中作業用で、そのためのアームもある。



MECHANICS

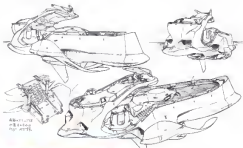
～メカ～

本作のメカデザインは、3DCGで動かす前提のものや、データが大きく動かすことが困難なため疑似的に3Dにしているものなどがあるが、エフェクトにより見事に画面上で融合している。



BATTLE CRUISER 巡洋艦

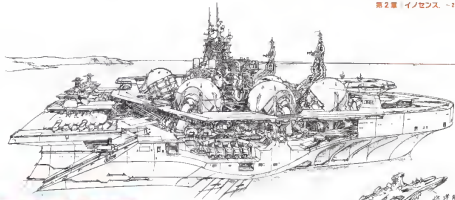
「キムの船」を砲撃した軍艦。建築地帯が3つ山形に並んでいるのは監督の趣味とか。Jリレカンの物も目立ったが、防衛装備など物にも船が設定がある。



PLEASURE BOAT プレジャーボート

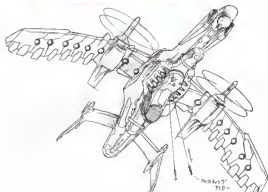
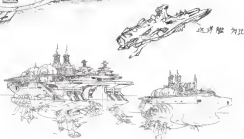
バトーが海に飛び込む時に乗った船。トグサもこの船に乗る。キムの電撃を介してバトーを誘導した。巡洋艦と同じく電撃推進式で、スクリーンはない。





PLANT SHIP プラント船

ロクス・ゾルス社の生産ラインがあるプラント船。空母数隻分はあるほどの巨大な船であり、船上構造物も巨大なため、スタビライザーをフル稼働しなければ浮いていけないという設定。



PLANT SHIP
7/10
作戦中電音響探知機、
船長と7/10との使用



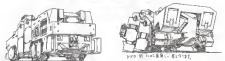
TILTROTOR MACHINE

ティルト ローター機 XV-30

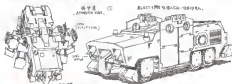
「墮天使のようなシルエット」という監修のオーダーにより、有機的なデザインとなった。電磁接続して操縦するタイプ。



装甲車 ①
ARMORED CAR
1000kgの重量 (1000kgの重量) には耐えられるように設計された。また、1000kgの重量には耐えられるように設計された。また、1000kgの重量には耐えられるように設計された。



1000kgの重量 (1000kgの重量)



装甲車 ②
ARMORED CAR
1000kgの重量 (1000kgの重量)

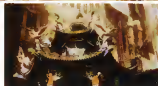
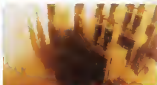
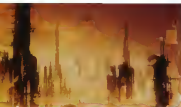
1000kgの重量

ARMORED CAR

装甲車

電音響機、ハダリ暴走現場に出勤していた。下座する隊員を守るためシールドが発動される。また、ハッキングにより証拠が落ちるのを防ぐため、電子妨害 (ECM) も行える設定である。





夜間に林立するビル群と、町の中で行われている祭礼は、ほぼCGで作られている。色が真金のような暖色で覆われていることもあり、別世界のような感覚にとらわれる。



LANDSCAPES

～ 風景 ～

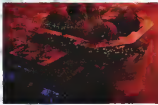
従来通りの手描きによる背景美術も存在するが、本作では3DCGによる背景が目を引き。CG技術はどんどん進歩しているにもかかわらず、本作の映像美は今も全く衰えておらず圧倒される。



祭礼のシーンではCGだけでなく、手描きによる街の人々も細かく動いており、見事に画面上で融合している。



劇場版『キム』のシーンが、このように色が変わる。リンの表情。

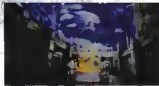
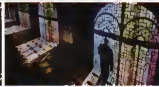
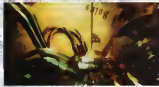


色が変わることで、より印象的なシーンになる。

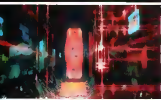
本作で印象深いもののひとつが、フル3DCGによる背景美術だ。実のところカット数自体は、従来の手描きによる背景も意外に多いのだが、CGの背景にさりげなく入れ込まれ、また映画全体を通して違和感がないように調整されているため気づきにくい。

CGならではの自在に動き回るカメラワークにより、祭礼のシーンや「キムの館」のシーン、食料品店、プラント船内でバトーが駆け回るシーンなどで、CGが圧倒的な存在感を見せている。なお祭礼は、台湾で行われている祭りを参考にしており、押井が監督した実写映画『ケルベロス 地獄の番犬』（1991年公開）の撮影中、台湾で偶然目撃したものが原型である。街を練り歩く人形なども実在するが、それが巨大化され数も増やされ、スケールアップされている。白く・ソルス本社の外観はイタリアのミラノ大聖堂がモデルであり、「キムの館」の外見は、台湾の建物がモデルである。館の内部は創作だが、ロビーの巨大オルゴールは、その音声収録のため大型オルゴールの実物も制作された。さらに、館で反響する音響を再現するため、大谷石地下探道場跡の内部にスピーカーを設置して、実際に反響した音を収録している。

なお、こういった3DCGの場面では、背景とキャラの移動速度がズレたりしないよう、綿密に計算され作画されている。



ただし絵やプログラムなどが満載された「キムの館」は、特にダイナミックに動くカメラワークにあわせて手描きによる人物も作画されており、よく見ると大変な労力が注ぎ込まれているのがわかる。



▶……いつ気がついた!?



緑の光線の魚雷が壁から1秒の間に突き、壁の上をキム、バトー、ネットのトグサはショックから抜け出しておらず固まったままだ。



THE LAST SHOT

～ラストショット～

“キムの館”を抜け、バトーはロクス・ソルス社のプラント船へ。本作の解釈は多様である。「孤独に歩め」の言葉にしても、バトーが孤独とは言えない。相棒のトグサ、ネットの素子、そして犬がいるのだから。



▶行けよポイントマン。
後ろは俺が固める。昔のようにな

キムの館を“守護天使”の導きによって脱出したバトーたち。ついにバトーは、キムの電脳を介したトグサによるバックアップで、ハダリを生産するロクス・ソルス社のプラント船に潜入する。だが、ロクス・ソルス社の攻性防壁に挑まれてキムの脳が死ぬと、キムが弱っていた死後発動型のウィルスにより、船内の生産ラインが暴走し、大量のハダリがロクス・ソルスの警備員をも襲い始める。次々と現れるハダリに、次第に追いつめられていくバトー。その時バトーの前に現れたのは、



彼の「守護天使」、すなわち素子だった。

素子の能力により、プラント船の全システムは制圧され、暴走していたハダリも停止した。その後、素子とバトーは船内の奥で、機械に埋め込まれた人間の少女たちを見る。ロクス・ソルスのガイノイドはAIではなく、少女たちのゴーストがダビングされたものだったのだ。だがゴーストダビングは、オリジナルの脳が次第に死に至る危険な技術だった。ここでバトーはひとりの少女を解放する。検査部長が殺された部屋にあった、ホログラム写真の少女だ。ハダリ暴走の原因は、彼女たちが助けを求める声であり、警察の捜査がここまで及ぶことを期待したのである。だが、バトーは少女を責めるように「魂を吹き込まれた人形」のことを問う。自爆していったハダリもゴーストを入られた以上、それらは大勢と回帰ではないか。

それに対し、少女は「人形になりたくなかった」と言う。そこで素子は「人形にならなくても声があれば、人間になりたくなかったと叫んでしよう」と返す。

素子と別れ、帰還したバトーは、預けていた犬を引き取るため、トグサの家に行く。そこでトグサの娘が悪くものを目にして、微妙な面持ちになる。それは「人形」。はたして人間が抱くべきものは子どもなのか、動物なのか、人形なのか…。

素子とバトーは別れの瞬間に「孤独に歩み、悪をなさず。求めるところは少なく」「林の中の象のように」と言う。これは釈迦が残した言葉を集めた法句経(ダンマパダ)に記されているものだが、原文ではその前にも言葉がある。簡単に言うと「善良な友(伴臣)がいるなら、共に歩め」という意味であり、いないならば「貪欲にならず善良に、孤独に歩め」と繋がっている。

また、素子とハダリの戦闘時、前作のような大和言葉の歌と音楽が流れるが、本作では「人形の恨み」が込められた歌詞となっている。それにあわせ、表情がなにもかかわらず無念の感情を示すかのように壊壊していく人形達は、あえてCGではなく、手描きで作画されている。



素子のハッキングにより、ロクス・ソルスのプラント船は全システムが停止し、制圧される。「人形使い」と融合したからこそ素子の能力が役立つ。



▶ロクス・ソルスの魔法の正体を 拝みに行かない？



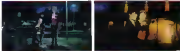
「人形になりたくない」、それはサイボーグとして、自分自身が半ば人間に近づいていると言える存在のバトーにとっては種々な言葉だった。

▶私は人形になりたくなかったんだもの——!

素子が再びネットへと出る前、忍(忍)は最後の言葉を交わすが、目を合わせない二人。界井によると、これは「別れの瞬間」であるという。



▶バトー、忘れないで。
貴方がネットにアクセスするとき、
私は必ず貴方の傍にいる



プラント船内で起こったことを詳しく知らないトグサが、船内を回ってきたのは皮肉にも人形で、その理がバトーを見つめていた。



謎解き『イノセンス』

“INNOCENCE” Mysteries and Answers

Q1 結局、ガイノイドの暴走&自壊事件とは何だったのか？



警察官の顔を抱えていた「トニー」が遭遇したガイノイドも、ハダリを騙し自壊しようとした。だがトニーはその直前にガイノイドを撃つため自壊は中途半端に終わり、ハラウェイが調査できた。

本 案、本作のロボット（AI）にも、有名な「アシモフのロボット三原則」は適用されている。すなわち「1項：ロボットは人間に危害を加えてはならない」「2項：ロボットは人間の命令に従わなければならない」「3項：ロボットは前項1と2に反しない限り、自らを守らねばならない」である。ハラウェイの語に出た“倫理コード”とはこのことだ。しかし、ハダリは、自ら故障することでこの倫理コードを破り、人を殺し自壊していた。その原因は、捕らえられ、ガイノイドにゴーストをダビングされた子どもたちが、警察の捜査が入ることで自分たちを助けてもらおうと、ガイノイドを暴走させていたのである。

A 捕らえられた子どもたちが、捜査・救出してもらおうとして起こした事件。

Q2

なぜ、ロクス・ソルス社の検査部長は、ヤクザ「紅塵会」に殺されたのか？

ロクス・ソルス社の検査部長であるヴォーカーソンは、ハダリのプログラムにバグを仕込み、警察の捜査が及んで子どもたちが助かるように仕向けていた。彼の動機が、捕らえられた子どもを哀れに思ったのか、あるいは子どもたち自身が彼に助けを求めてきたことによるのかはわからない。しかし、彼のその行為が、ロクス・ソルス本社にばれてしまう。一方、紅塵会は、ロクス・ソルスのために人身売買で子どもを提供すると同時に、組長はモニターとしてハダリを提供されていた。その組長がハダリに殺されてしまう。そこでロクス・ソルス社は、ヴォーカーソンの身柄を紅塵会に差し出し、報復として殺させることで「手打ち」、つまり和解しようとしていたのである。ただ、ヴォーカーソン殺しを指示したワカバヤシは、ロクス・ソルスと組長の関係（人身売買のことなど）の、詳しいことまでは知らなかった。

A ハダリ暴走の原因を作ったため、組長殺しの報復の生け贄にされた。



検査部長は首を切断され内臓が抜き取られ、顔も恐怖が凍り出されていた。紅塵会の報復と、見せしめの悪逆の象徴と言える。

Q3 “キムの館”でバトーとトグサが体験したループ現象と 玄関ホールの少女は何か？

1. 回目



「キムの館」で繰り返される光景は毎回微妙に異なり、アツクも深くなる。少女(原作ラストの素子の娘)と夫の前にある文字は、1回目は「amaeth(真理)」となっているが、天井からは金魚製の鳥のオブジェが倒れている。

2. 回目



少女の前にある文字の「amaeth」から「ae」が落ちて「maeth(罪)」になり、キムの身体の代わりに、トグサの身体がある。細かい内ではバトーとトグサが顔に入る順番が変わったり、天井のオブジェが天使になっていたりしている。

3. 回目



少女の前は、2001年の文字が、素子とバトー再会の合い言葉だ。また、トグサはキムの部屋で探ったバトーの身体を見る。さらに、浮合の扉裏からの撮影。自分自身の身体が人形(替体)になる光景を見せられる。

自分を攻撃してきたハッカーからの情報を得ようと、バトーたちはキムの屋敷へ向かう。だが、そのキムこそが、バトーをハッキングした強本人である。そこでキムは、バトーとトグサに偽の記憶を与えて追い返そうとする。そのため、バトーとトグサは同じようなことを繰り返した記憶を与えられたのである。だが、バトーは前作で語られた「2501」という「再会する時の合い言葉」と共に現れた「守護天使」、即ち素子の導きにより、キムが作った記憶の迷宮を脱出した。なお、玄関ホールの少女などにトグサが気づいた様子はなく、バトーも少女と犬に生体反応がないことをスキャンして確認している。あくまで、これはバトーにだけ見えている「予兆」だ。



A キムが作った疑似記憶と素子再来の予兆。

Q4 「生死去来 朝頭傀儡 一線断時 落落磊磊」とはどういう意味か？

トグサが祝儀の街中で見て、その後キムの脳が焼き殺された時や、ロクス・ソルス社のプラント船内でもあちこちに現れていたこの言葉。元は室町初期の能役者・能作者である世阿弥が『花鏡』という能に残した「死が訪れると、吊された操り人形の糸が切れたごとく崩れ落ちる」という意味の言葉だ。物語終盤で、素子がハダリの養体から抜け出した時の倒れ方、それはまさにこの言葉表現していると言える。

A 死が訪れると、糸が切れた操り人形のように崩れ落ちるという意味。



この言葉はキムが見せしめられて、キムの死の場に出たのはガイノイドを暴走させる起動の合図という設定でもある。トグサが祝儀の街で見た文字や、プラント船の壁にあった文字もキムの仕掛けかもしれない。

「イノセンス」用語解説

【セクソイド】

性的に愛玩するためのアンドロイド(ガイノイド)のこと。ロクス・ソルス社のガイノイドが顧客に好評だったのは、単なる「1」の出来がよかったのではなく、少女らのゴーストがダビングされていたことにより「精巧」だったためである。

【祝儀経済特区】

祝儀島などの北方領土が日本に返還されていて、日系とロシア系の領土があるといった背景とした状況は、原作の設定。本作はそれを一部取り入れ、前作の劇場版に続き、異体的な設定は出さずに、より多国籍な雰囲気となっている。

【ゴーストダビング】

ゴーストを複製すること。ただし動物実験で、これを繰り返すとオリジナルの脳がやがて死ぬため、禁止されている。またダビングされたゴーストは情報が強化する。前作でも黒猫が登場しており、P5ACでも原村にした話がある。

監督・押井守ワールド×攻殻機動隊

The World of Director Mamoru Oshii GIFTS

「ゴーストとは何か」、「素子と“人形使い”の融合」、「自我・新しい生命」といった概念は、原作コミックの時から既に内包されていたが、押井はさらに一步踏み込んで、作中で問うている。

押井守が作中に入れ込んだ「鏡」と「犬」

劇場版1作目の劇中で、素子とバトーが船上で語り合っているとき、「今我ら、鏡も見るごとく、見るところ艶なり」という言葉が聞こえている。その後、素子は「童子の時は語る事も童子のごとく、思うことも童子のごとく、論ずることも童子のごとくなりしが、人と成りては童子のことを棄てたり」という言葉が、その前段にあると語っている。これは新約聖書「コリント人への前の書（第一の手紙）」第13章に書かれている言葉であり、元来は愛について語った章である。だが、押井流に“ゴースト”を解釈するとき、重要なのはこの“鏡”の存在である。“人形使い”も素子に対し「私たちは似たもの同士だ、まるで鏡を挟んで向かい合う実体と虚像のように……」と言っている。

そして『イノセンス』で、オープニングのガイノイドの瞳に映るのもガイノイドである（この姿は、素子とも解釈できるが）。押井は鏡に類するものを“鏡像段階”の象徴として作中に埋め込ん

だ。鏡像段階とは、フランスの哲学者・精神分析家であるジャック・ラカンによる「鏡に映った自分の身体を、幼児が統一のイメージとして獲得する過程」のことだ。つまり、ヒトは鏡を見ることにより、自分を自分として認識するのである。

その一方で、『イノセンス』にて、“無毛の象徴”として挙げられていたのが動物である。劇中には「バセットハウンドが何度も出てくるが、当時、愛犬家の押井は「不自由な自分の身体を捨てて犬になりたい」と言っていたほどだった。『イノセンス』では、バトーが犬のフンを踏んで靴を洗ったり、餌を食べさせるとき犬の餌が汚れないようにしたり、耳の裏の匂いを嗅いで病気になっていないか調べたりといったシーンが、徹底して描写されている。自分の身体がサイボーグであるバトーにとっても、犬こそが無垢かつ確かな生身の身体と言えるのだろう。

INNOCENCE

ガイノイドが生産されるシーン。押井は劇場公開当初より「冒頭のガイノイドの、瞳に映っているものがデマ」と語っていたが、映っているのはガイノイド自身である。



GIFTS



本作制作時、犬を飼うのに必要な環境を再考するため、東京から関西へ引っ越したという押井。当初は作中にサブリと入れる計画だったバセットハウンドだが……

INNOCENCE



『イノセンス』では、ハーリーがバセットハウンドを飼っているという設定が作られ、さらに「バセットである」という描写が、大量に入れ込まれることになった。

神山健治の攻殻

11 Kamiyama's GHOST IN THE SHELL

攻殻機動隊
STAND ALONE COMPLEX

2002年10月～2003年11月「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX」放送

攻殻機動隊
S.A.C. 2nd GIG
GHOST IN THE SHELL
STAND ALONE COMPLEX

2004年1月～2005年1月「攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG」放送

攻殻機動隊
STAND ALONE COMPLEX
Solid State Society

2004年11月「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX Solid State Society」発売



第 3 章

『STAND ALONE COMPLEX(S.A.C.)』

～笑い男の章～





INTRODUCTION

～ 序論 ～

TVシリーズアニメとして制作され、2002年より放送開始されたのが、この『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』である。本作の設定は2030年で、劇場版『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』の1年後にあたるが、本作では“人形使い”が壊れなかったことになっており、素子や9課の設定も微妙に異なる。

このシリーズの監督を務めたのは、元々押井作品に強い感銘を受けていたという神山健治。神山は、全26話のTVシリーズアニメという制約もあり、押井とは違うアプローチで本作の世界観を設計した。演出や尺の理由により押井劇場版では出番を削られた思考戦車（A1）を搭載した戦車が、タチコマとして登場しているのが大きな特徴のひとつだ。さらに神山は「TVで一般家庭の多くの人に『攻殻』を届ける」ことを考え、サイボーグや電脳など『攻殻』ならではのSF設定を、視聴者にわかりやすく表現することを心がけた。電脳通信の相手が、キャラの主観映像で表

れる表現は、その手段のひとつである。また美術などの世界観も、より現実の日本に近い設定にされた。一方で原作コミックの真設定、さらに『攻殻』と同一世界観上にある士郎正宗の漫画『アップルシード』の設定なども取り入れられている。また音楽に菅野よう子を起用したことも、新たな『攻殻』世界観醸成に一役買った。そして音響も51chで豪華に作られている。

神山は「連続実写TVドラマのようにアニメを作る」ことを考え、脚本を非常に重視。その中で「現実と物語をリンクさせ、リアリティを出す」ためにも、実際に起こった様々な事件をモチーフとした。その結果誕生したのが「笑い男」というキャラクターだ。「多くの模倣犯を生み出しながら、真犯人は不明」というケースは、過去にも現在も数多く発生している事件である。このキャラや物語は大きな話題を生み、本作は当初CS有料枠での放送のみであったにもかかわらず、大ヒットを記録した。



CHARACTERS

～登場人物～

サイボーグは覗きをしないなどの、押井劇場版と同じアニメ演出も引き継いでいるが、長編TVシリーズとして話を膨らませるため、ややコミカルな面を含めた新たな設定も多く導入されている。



セボRC-26A



セボM-5



back view



首のQRSフラグ

▶そうしてって囁くのよ、
私のゴーストが



公安9課

Kusanagi Motoko

草薙 素子

精神力や電子視覚能力に優れた、優秀な全身義体。瞳の色は赤。「少佐」と呼ばれるのは同じだが、押井劇場版のように、サイボーグとしての自分に疑問を持つ面はなく、公安9課実業部隊を支えている。電脳空間で使用するアバター（仮想上の姿）の名はクロマ、デコット（デコイとロボットをあわせた造語）として使う子どもの義体は「コドモトコ」と通称される。プライベートでは、ランちゃんと呼ぶたんという女友達がいます。

▶お前たちには給料分、
しっかり働いてもらう!



公安9課

Aramaki Daisuke

荒巻 大輔

公安9課長。以前陸自調査部におり、今も交友がある久保田。そして18話で描かれる辻崎と共に「前田敏三銃がラス」と噂され、前田大佐の優秀な部下だった。別れた妻や娘がいる。押井劇場版と違って電脳化している。



▶お前にいいもんをやろう。
天然オイルだ



公安9課
Bato

バトー

別レンジャーで高い戦闘能力を持つサイボーグ。タチコマに変装を持ち、うち1機を自分の専用としている。競える生身の範囲はほとんどないが、夜トレグズを使用。若干コミカルな面と、熱い魂の地方を持つ。



バトーのクルマ



FNハイパワーM7
(カスタム)



▶それって、俺もサイボーグ化
しろってこと？



公安9課
Togusa

トグサ

元本庁刑事で正義感が強く、洞察力が高い。電脳化している以外は生身の身体を持つ。9課の中では唯一の所持持ち。リボルバーのマテバを使用するなど、伊井直樹とほぼ同じ設定。



トグサの妻子



マテバ(M-2008)

▶ま、少佐が知ったら大目玉だろう。
覚悟しとけよ



公安9課
Ishikawa

イシカワ

かつては罪にいて戦闘能力もあるが、電脳による情報収集能力に非常に長け、電脳ダイブルームから9課を支援していることが多い。セーフハウスを兼ねた電脳/パソコン店を営んでおり、時に客の電脳を利用してはいる。



▶目視で、
あとワンチャンス！



公安9課
Saito

サイトー

9課の狙撃手。左目を「タカ目の目」という義眼にしており、人工衛星と情報をリンクさせることで正確な狙撃を可能にしている。電脳化の他、左眼も電脳化しているが、9課の中ではトグサに次いで生身の身体の部分が多い。



タカ目の目

NTW20 対物ライフル

▶まだ感染者が
出るかもしれん、
気をつける



公安9課

Paz

パズ

格闘術、特にナイフの扱いに優れる人物。だが、聞き込みや内偵調査なども得意とし、通常は地道な捜査活動に従事している。実生活では、かなりのプレイボーイのようだが、異口で多くを語らないため、実際の女性関係など不明確な点が多い。



Kano-A

ナナオ=A



「笑い男」感染者のひとり。自分がテリジナルの「笑い男」として名を馳せようと考え、大層警視総監秘書のウィリスを流した。その後自ら逮捕されるつもりだったが、渾身の意がかった「笑い男事件」特捜班の発見によって始末される。

▶そーいやパトーこそ、
あの時本気で
泣いてなかったか？



公安9課

Borma

ボーマ

主に電脳による情報収集でイシカワをサポートしている。以前は軍で爆弾を扱っていたため、爆発物の高度で現場に駆り出されることも多い。パトーと同じく美音が義経で、さらにパトーよりも巨漢だが、どこか人のいい雰囲気がある。



Yusaka Gail

安岡ゲイル



麻薬取締局強制介入班、通称「マトリ」の班長。ほぼ全身を義体化しているサイボーグ。新美に指示され、ひまわりの会を襲撃。また今来悟も襲撃し、彼の身柄を確保しようとしたリョウと交戦した(その後今来悟は、部下のザノウカ殺害する)。

▶こちらの
アクセスコードを
解凍しようとしています



公安9課

Operators

オペレーター

A1によって動くロボットで、9課のオペレーター。同型のロボットは9課に多数導入されており、全て同じ顔、同じ声である。違う外見だが同様のオペレーターは9課以外でも使用されており、表中では自衛隊のものなどが登場している。



Nimi

新美



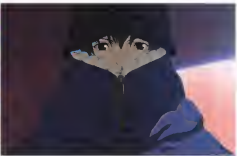
厚生省医事課課長で、マトリのボスにあたる。村井ワクチン指揮者リストが陥失しているという報告を受けて、マトリにひまわりの会を襲撃させ、さらに今来悟も推察した。ゲイルの供述で逮捕されるが、情報隠蔽のため電脳自殺を演じる。



▶あの約束の守り方、
最高にチャーミングだったな

Aoi
アオイ

《笑い男事件》の発端となった派員野郎団を起した天才ハッカー。「笑い男」のオリジナルと言え、彼が事件を起こした契機は、ネット上で村井ワクチンの顔を見たことにある。そういう意味では彼もまた犠牲者である。なお、自分では「笑い男」を名乗ったことはない。だが、「笑い男」という短編小説も書いたサリンジャーに強く影響され、「ライオンでつかまえて」の登場人物ホールデンの言葉引用したり、口調にあらわれたりしている。



Takishima Kaoru
薬島 薫



連合与党幹事長。《笑い男事件》発生当時の厚生大臣。元北軍軍医で、海上自衛隊長の経験もある。アオイの事件を利用してマイクロマシンメーカー賣却事件を起こし、マイクロマシン療法を薬事審議会に認可させるなどして多大な利益を得た。

Inakurisu Shinbo
今来栖 尚



以前の中央薬事審議会幹事長。電脳硬化症の増感だが、理事長当時、村井への嫉妬心あって効果がある村井ワクチンを不認可にし、一方で厚生省主導のマイクロマシン療法を認可させた。だがそれで自分が理事を務める会社にて利益も得ている。

Ernest Strawn
アーネスト・瀬良野



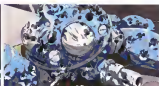
マイクロマシンメーカー「セラノゲノミクス」社長。6年前にアオイに誘拐され、当時のマイクロマシン療法にほとんど効果がなかったことを告げさせられようとした。その後、薬島の手の者による賣却を受け、沈黙を請う日々を送っていた。



Ensuron Organic

タチコマ天然オイル

カビなどがトラブルになりうるとされている天然オイル。だが、本作ではその「トラブル」がA1成長の鍵に?



▶初めまして! ポクはタチコマ!



▶ポク、どうしても
助けたい人がいるんだ



▶神様、ポクたちはなんて無力なんだ……

学園により「生と死」に興味を持ち始めたため、兵器としては不適合と素子に判断されたタチコマ。また、次第に個々の機体に個性が生まれ、最終的には運命を取ったわけでもないのに、解体をまぬがれ生を獲っていたタチコマが優

越。9課の危機を救うため行動した。これもひとつのスタンドアローン・コンプレックスだ。なおこの時、軍体と一体化した兵隊以外の、不要なパーツは外されている(例えば高所作業用タチコマだけワイヤーが使える)。



MECHANICS

～メカ～

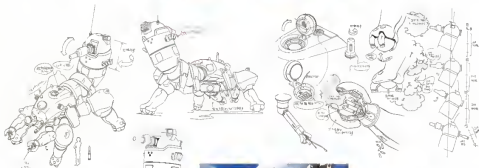
現代と比較的近い光景を描いた背景などにあわせ、メカニックも現在使用されているものに近い、あるいは実際には研究されているデザインに寄せられている。



ARMED SUIT

海自303式 強化外骨格

アームスーツの一種。脚が4本あり、内部に乗り込んだ人間が内側の小さい部分に脚を通して動かすと、同じように外側の大きな脚が動く仕組み。重量が海面とのコネで手に入れたものをゲイルが使った他、「海防主」も9課襲撃時に使用した。



TANK

多脚戦車 HAW206

第2巻「戦走の証明」で登場した。陸自の試作型多脚戦車。車の戦車だけあり、タチコマが相手するにはさすがに手強すぎた。その後この戦車は制式採用され、「2nd GIG」の出撃機材でも登場。



HELICOPTER

9課中型ヘリ

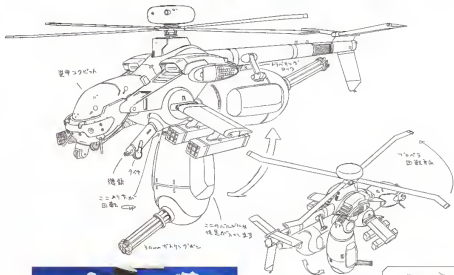
第1話冒頭および第26話ラストなどで登場するヘリ。機体がラベリング(ロープ)降下する場面などにおいて登場している。メインローターは二重反転式になっており、テイルローターはない。



TILTROTOR MACHINE

ティルトローター機

タチコマの輸送も可能な中空機。実在するティルトローター機として有名なV-22オスプレイと異なり、エンジンだけでなく主翼ごと傾けるので、正確にはティルトウイングという形式。



JIGABACHI

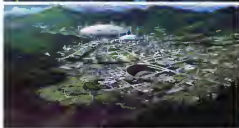
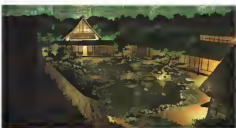
ジガバチ

第2話「暴走の証明」で登場し、暴走するHAW206を監視していた陸自の攻撃ヘリ。追跡飛行時や離着陸時には、機体下部のガトリング砲部分が後部に行きたる規定。『2nd GG』では、この機体の発展系であるジガバチ AV(アドバンス)も登場。



海自武蔵ヘリ

9課制正に向かった海自のヘリ。'海防主'の機体と複数のアームズを9課に引継ぎ降下させている。



時々言及されるスプリング8 (Spring-8) とは、兵庫の国立科学公園都市にある研究施設 (左下画像) のこと。このように実在する建物もモデルにされている。

LANDSCAPES

～ 風景 ～

『SAC』では、東京は第3次大戦 (核大戦) で核攻撃にあったという設定のため、日本の主な首都機能は九州・福岡に移転している。そして、9課が主に活動する舞台は、神戸沖にある新浜市である。



バターのセーフハウス (左) と、美子のセーフハウス (右)。セーフハウス (隠れ家) にははかり大さくも、そこまで未来的とやうデザインではない



本作では「現代との地続き感」を出すために「日本で見られる風景」が町中に多く登場し、森林や水田まで描かれている。

その中に「笑い男」の絵が盛り込まれているわけだが、《笑い男事件》も、実際に日本で起こった多くの事件がモデルになっている。例えば、瀬良野誘拐およびマイクロソシメーター脅迫事件は、大手菓子メーカーの江崎グリコ社長が誘拐され、その後グリコや森永社などが相次いで脅迫された、1984～85年の《グリコ・森永事件》に由来する。誘拐されたグリコ社長は自力で脱出したが、「かい人」面相¹を名乗った犯人は逮捕されないまま時効を迎えており、その真の目的や動機は謎のままに。また、この事件でも、複数の犠牲者が発生した。

さらに「村井ワクチン」の語も、皮膚病結核などの治療薬として開発された「丸山ワクチン」が、薬にも効果があるとされた話が元になっている。丸山ワクチンが本当に薬に効果があるかは現在でも議論の対象だが、丸山ワクチンは抗真菌剤としては、厚生省中央薬事審議会(当時)に認可されなかった。一方であっさりと認可されたクレスチン、ピンパニールという抗真菌剤は、その研究者が薬事審議会にいた。しかもクレスチンとピンパニールは「化学療法と併用しなければ効果がない」と、後に再評価され発表されている。このことはささげまな感傷を呼び、日本の国会でも過激された。

このような背景は、本作の物語のリアリティを一層高めている。





STORY

～ 全26話の物語～

西暦 2030 年、電脳化や義体化の一般化と共に、新たな種類の犯罪が発生。それらに“攻性”に対処する組織として公安9課が設立される。だが、彼らは9課設立以前に起こった事件の迷宮へ進んでいく。



Stand Alone ep:



Complex ep:

全26話は“stand alone episode”と“complex episode”に分かれ、前者は《美しい男事件》の部となっている。また、放送時のサブタイトルでは、11話以降は“episodes”から“つまり「私」”が抜けて“complex episode”と表記された。

#01 公安9課

SECTION 9



「脳殻を入れ替えられる」という新時代の犯罪

刑事の芸術ロボットがハッキングされ、外務大臣らが人質に取られる事件が発生。9課は迅速に大臣らを救出するが……。記念すべき第1話、脳殻を入れ替え外務大臣になりましたスパイが、機密文書と大臣本人の脳殻を国外に持ち出そうとした事件だった。



芸術ロボット



世の中に不満があるなら自分を変えろ。
それが嫌なら、耳と目を閉じ口をつぐんで孤独に暮らせ



#02 暴走の証明

TESTATION



“鋼鉄の身体”を手に入れた男の意図

陰謀の試作多脚戦車が暴走し、演習場の外に出て走り去った。その戦車には、数日前に死亡した設計者、加藤タケシの脳が移植されていることが判明。素子らは戦車の反止めを試みるが、軍用戦車の性能に手こずる。一方グザラは、加藤が何を考案していたのか調べる。



加藤タケシ



#03 ささやかな反乱

AMERIGO AND I



アンドロイドは人間との愛の夢を見るか？

ジェリという狂型のアンドロイドが、次々と自分を破壊する行動に出るといふ事件が発生。メンテナンス時に仕掛けられたウイルスが原因だった。そのウイルスの作者マーシャル・マクラクランは、自分だけの、唯一の愛するジェリを作ろうとしていたのだった。

ジェリ



マーシャル・マクラクラン





山口

#04 視覚素子は笑う

INTERCEPTER



6年前に発生した《笑い男事件》の亡霊が蘇る
トグワは非難時代の同僚だった山口から、相談したいと連絡を受ける。だが山口は、トグワと会う前に交通事故死。山口が死した事実を調べたトグワは、《笑い男事件》被害者の人間に、見たものを伝受する「インターセプター」がはき付けられていることを突き止める。



ラン

くるたん

#05 マネキドリは謡う

DECOY



今頃現れた《笑い男事件》容疑者の正体は?
インターセプター事件の影響で完全に実刑された《笑い男》は、警視監権助を示唆する発言をして具現した。一方、《笑い男事件》被害者は、この事件で悪行が容疑者、ナナオーAIに送っていらした。だが9課は、ナナオは本物の《笑い男》ではないという結論を出す。



大堂 警視監

#06 模倣者は踊る

MIME



続々と現れる《笑い男》の模倣者たち

《笑い男》が予告した、大堂警視監の暗殺の瞬間がやって来た。ナナオが演じたウイルスがSPに感染し、大堂を襲う。さらに次から次へと、大堂を襲おうとする者が現れた。だが、ナナオのウイルスが原因だったのはSPDとだけ。さらにナナオは何者かに殺害される。



マルセロ・ジャーティ

#07 偶像崇拜

ISOLATER



偶像にされた、生ける屍の革命王

革命家で商業王として有名なマルセロ・ブーティが、日本に初入院を繰り返していることが判明した。9課がマルセロを監視したところ、日本の勢力「功業会」の神楽、権助と接触していた。マルセロが何故も来日していたのは、商業取引とは異なる理由があった。



社長イワサキ

#08 恵まれし者たち

MISSING HEARTS



自分の幼い頃に重ね合わせた、素子の怒り

素子は病前に死ぬ友人から、隠微神秘された少女の話を聞く。少女に福音を提供されたと思われる人物は、実際には提供していないのだが、隠微密告を目的としたマフィアによる拉致事件との関係が疑われたため捜査するが、今回の事件の犯人は隠匿された。



クロマ

オンバ

#09 ネットの闇に棲む男

CHAT CHAT CHAT



「お姉さん、鋭い」その言葉の先にいたのは
バーチャルシティのチャットルーム「ラフティングマン・ルーム」では、《笑い男事件》に関する議論が行われていた。素子はクロマの弟になってチャットルームにダイブ。チャット参加者が《笑い男事件》について語るのを見てうち、《笑い男》らしき人物に遭遇する。

#10 密林航路にうってつけの日

JUNGLE CRUISE



残虐な殺人事件と、ハートの過去の戦争

女性に対する凶悪連続殺人事件が発生。容疑者は以前米海軍にいたマルコ・アモレットティだ。その人物の、秘密裏の逮捕と引き渡しを求め、CIAから人員がやってきた。一方でハートは自身の戦争経験から異常なほどこの事件に敏感し、マルコを追う。



マルコ・アモレットティ



#11 亜成虫の森で

PORTRAIT



奇妙な雰囲気施設の施設でトグサが経験したのは？

豊饒社会に適合できない、電気障害症の患者を集めた収容施設から、厚生労働省にハッキングが行われるという事件が発生。しかもなぜか厚生省は、この事実を隠匿していた。トグサは研修医員として施設施設に潜入捜査を行うと、そこで“美い男”に遭遇する。

マルタ



オンバ



#12 タチコマの家出 映画監督の夢

ESCAPE FROM



タチコマの小さな冒険と作れない完璧な映画

ハートが専ら天然オイルの影響で、1機のタチコマが勝手に起動し、町へとさまよって出た。そのタチコマはミキという少女に出会い、彼女の犬を獲すのを手伝う。その最中にタチコマは、人間がダイブすると自らの意思で出てこなくなる、奇妙な電撃を受けてきた。

ミキ



神無月 渉



#13 #テロリスト

NOT EDAL



16年という歳月の間に育った悲劇

16年間に遡る悲劇“異国の旅団”に選択されたまま、行方不明になっていた戸辺良工カ。彼女が16年前と全く同じ家、同じDNAをもった状態で、難波に住む放浪海兵去ブランドで見られる。9歳が英格へ向かうと、そのよすがが“異国の旅団”リーダーになっていた。



戸辺良工カ



#14 全自動資本主義

ICE



カネと金塊を追い続けた男の結末

金塊捜索を担っていた中国高層力屋を9歳が制圧したとき、難波対岸の島に無人投資家、換算美元の名があった。さらにその暴力団は、殺し屋まで買っていたという情報も入る。素子は機密管理のための情報へ向かうが、殺し屋のフェムと監獄で鉢合わせする。



フェム

メイドロポ



#15 機械たちの時間

MACHINES DESIRANTES



AIの成長の果てにあるものは？

一体のタチコマが、悪法素子の敵分たちを見る目がだだならないと誓いだし、タチコマは皆で探検を始める。そこから探検は、ゴーストや生命とは何かというこまで発展していく。そんなタチコマをずっと監視していた素子は、タチコマは兵器として不適格と判断する。





ハフロ・ワイツェフ

#16 心の隙間

Apt



結ばた顔メダリストの哀れな運命

軍で格闘技の教官をしているハフロ・ワイツェフという男がスライ石鏡をがけられていた。ワイツェフはかつてパラリンピックで銀メダルを獲得し、パートナーも獲れていた人物だった。そんなワイツェフを救済すべく、パートナーは誰の人間に偽装して彼に接近する。



シーモア

#17 未完成ラブロマンスの真相

ANGELS' SHARE



亮巻とシーモアの間にあった過去とは？

亮巻と美子はロンドンでの対テロ対決会議に出席。その合間に亮巻は、旧友のシーモアを訪ねる。彼女はワインを投資対象とする専売をしていたが、強盗がやって来て亮巻を人質にする。さらに現場を包囲した警察は、人質解放交渉もせずにさなり射殺してきた。



辻岡サオリ

辻岡ユフ

#18 暗殺の二重奏

LOST HERITAGE



「俺」と「私」、混在した2つの人格

中国外務次官が来日。一方で暗殺予告が行われ、9課が犯人の割り出しを行う。そんな中亮巻は、親友である辻岡の7日忌に際を出すが、辻岡の母であるサオリに、弟のユフの様子がおかしいと相談される。同時に、暗殺予告の容疑者として名が売れたのがユフだった。



クルツクマ

神崎玲子

#19 偽装網に抱かれて

CAPTIVATES



長にはまった元総理と、かつての兵士

元総理である神崎議員の娘、玲子が誘拐された。その手口から、東京近郊事件を起こしている「隠しイワン」の行方と思われる。だが神崎は記憶喪失。ロシアを盗みつかないためには隠しイワンの存在を否定した人物。いわば「東方の船」を、なぜ相手は誘拐したのか？



ノギ

#20 消された薬

RE-VIEW



書類は消え(笑い男事件)はまた動き出す

トグサは投資無効にいた少年が本物の「笑い男」であり、彼は厚生省にある資料を盗っていたと判明。そこでトグサは厚生省に潜入し調査するうち、「村井ワクチン接種者リスト」が漏れていることを突き止めた。その資料の行方を追いつまわり「笑い男」へ向かうが……



#21 置き去りの軌跡

CRASER



9課とマトリの全面戦争が始まる

「ひまわりの会」でトグサはマトリの襲撃に遭い、重傷を負う。トグサの乗船の記憶から、リストにある今泉拓という人物がポイントだと知った9課は、今泉拓の乗船船室に向かう。だがマトリも今泉拓を逃しており、9課と交戦が始まる。さらに「笑い男」も出現する。

#22 疑獄

SCANDAL



マトリの残党による買収が9課に迫る

繰りえたマトリ爆成高の脅威により、厚生省医務局長の刷新を遂行した9課。一方、美子はマトリとの戦闘で損傷した身体を交換することになったが、その無罪無実な状態の彼女にマトリ残党が迫る。さらに貴も「行方不明の兄が見つかった」という情報に釣られてしまう。



サノウ



#23 善悪の彼岸

EQUINOX



6年間沈黙していた、最初の被害者の証言

6年前に誘拐され、《笑い男事件》の発端となったアースト・高良野社長。彼の元へ再び「笑い男」が現れた。「笑い男」と語り合う高良野は、各地の薬種軒社長が事件を利用して、多大な利益を得ていたと話す。だがその「笑い男」に扮していたのは、実は美子だった。



#24 孤城落日

ANNIHILATION



公安9課、解散。生き残るための逃走

薬種軒の証言も持ち9課は、一気に事件の解決を図ろうとする。だが9課の行動が情報操作されてマスコミにリークされ、9課を壊滅させるために自由の特殊部隊が襲撃してきた。両者の「必ず生き延びろ」という言葉の下、美子は9課を解散させ皆を逃がす。



総理大臣



海坊主



#25 硝煙弾雨

BARRAGE



次々と拘束されていく9課メンバーたち

まだ逃げ延びていたメンバーは、わざわざ美子の劇団街を襲撃に行くため、彼女のセーフハウスに向かうが、そこにも「海坊主」が待ち構えていた。追いつめられるメンバーだが、9課の任務を察かれ、ラゴ逆りや四回払いで倒されていたタチコマが救援にやってくる。



50mm
グレネード



老人



#26 公安9課、再び

STAND ALONE COMPLEX



“笑い男”とは何者だったのか？

9課の中でただひとり解放されたトグザはバーと高金、華鳥を追及するため、両者が意向き9課を壊滅させたこと、そしてメンバーが再集結していたことを教えられる。一方美子は、事件の発端となった“笑い男”ことアイイに会うため、国立図書館地階へ向かった。



どうもせん。公安9課は、お前や儂が望む限り、
犯罪に対して攻性の組織で有り続ける。それだけだ



カツラの下の
アオイ



攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX ～ The Laughing Man ～

『The Laughing Man』は、『S.A.C.』ストーリーの中核である《笑い男事件》を中心に再構成した総集編だ。一部作画が修正され、カットされた部分の整合性を取るために、話も一部変更されている。

「笑い男」事件だけで構成した総集編

STORY

トグサの元に本庁時代の同期・山口から、相談したいことがあると連絡があった。だが、山口は9課に来る途中で事故死する。後は6年前に発生した《笑い男事件》の特捜本部にいた。この事件は「笑い男」と呼ばれる犯人が、マイクロマシンメーカーの瀬良野社長を誘拐・脅迫して何かを告白させようとし、その後他のメーカーも次々と脅迫したものだ。トグサは山口の残した資料から、《笑い男事件》特捜班刑事たちに視覚を傍受する「インターセプター」が不審に仕掛けられていることを突き止める。

これに関し、大堂警視総監らによる釈明会見が開かれたが、この会見中に「笑い男」が現れ、大堂暗殺をほめめかす。だが荒巻は、これを監視庁による自作自演と推測。その後「笑い男」の横領者が次々と現れ大堂を襲う中、警察が《笑い男事件》の総有力容疑者としていたナナオ＝Aは何者かに暗殺されてしまった。

その後、厚生労働省のデータベースをハッキングした者がいる捜査施設に潜入捜査を行ったトグサは「笑い男」に遭遇する。トグサは施設にいたアオイがオリジナルの「笑い男」と考え調査。その結果厚生省から「村井ワクチン接種者リスト」が用意されたことを知る。続いてトグサはワクチン接種者リストの行方を求め「ひまわ

りの会」を訪れるが、そこを麻薬取締官強制介入班「マトリ」が襲撃してきてトグサは重傷を負い、リストも奪われる。素子たちもマトリと戦闘になるが、その晩「バトー」の前に「笑い男」が現れ、彼にワクチン接種者リストを渡して姿を消した。

一方、開催した義体を換装する素子の元にマトリ残党が現れ、彼女を狙う。その時素子の肩地を救ったのは「笑い男」ことアオイだった。さらに彼女は《笑い男事件》の真相という記憶を素子に渡す。素子は「笑い男」に扮し、かつての事件のように瀬良野社長を誘拐。彼から薬典幹事長告発のための供述を引き出した。

その後、表向き9課は壊滅したものの、薬島は遺棄される。そして、素子と共にアオイの元を訪れた荒巻は、アオイの能力と正義感を認め、彼を9課のメンバーに勧誘する。しかし、アオイはその誘いを断り、ネットでの伝説上の人物は再び消えていった。

本作とTVシリーズの最大の違いはタチコマの扱いだ。本作ではタチコマのA1の成長と《笑い男事件》で横領者が発生したことが関連づけられ、横領者の現象をシミュレートするためにタチコマがラガ送りになったことになっている。だが、タチコマがバトーを救出に行くのは変わらない。これは独立した個々のタチコマが同じ事と考えた、つまりスタンドアローン・コンプレックスを起こしたと言えることが、より強く示されたとも捉えられる。





THE LAST SHOT

～ラストショット～

素子は“笑い男”に扮して瀬辺野と接触、事件の黒幕が与党の葉島幹事長であるという証言を得る。だが、その現場がマスコミに情報操作され、漏らされた。9課の生き残りをかけた戦いが始まる……。



タチコマの
チップ



タチコマA



タチコマB



タチコマC



▶時計に筋トレか……

お互いしょうもない記憶の欠片にしがみついていたものね



ハトーと素子が語り合うムードあるシーンだが、実はこの瞬間、素子は装置の裏へカメラを挿しており、この映像はリモートで撮影している。すでに撃たれる準備をしていたのだ。



▶さよなら、ハトーさん……



荒巻に「死ぬな、必ず生き延びろ」と連絡を受けた素子は、9課メンバーを本部に集結させる。そこに海自の特殊部隊“海防主”が攻撃を仕掛けてきた。9課といえど部隊の本格的な攻撃に耐えられず、素子は部下を逃がさせた。今まで犯罪に対して“攻性”に対処してきた9課だが、それが裏目に出て、世間からは姿を無視した存在に見られ、追われる身となったのである。そしてちりぢりに逃亡する9課メンバーだが、ひとり、またひとりと捕らえられる。

一方逃げ延びていたハトーは、素子のセーフハウスへと向かうが、そこにも“海

▶素子おぉお——!!!!



▶真打ち登場!



の最終でのシーンでは、素子とアオイが風とカサトに入らないようには、さらに素子と真打守吉とアオイは当惑を以て、「アオイは来ない」とも警告を受け、真打守吉は真打守吉を助けた。



坊主」が待ち構えていた。だが「兵器として不適格」と判断され、9課から外されたタチコマがバトラー教団に現れる。そしてタチコマの自己犠牲によってバトラーは救われた。運れて来た素子は、タチコマが学習の末ゴーストを獲得したのかもしれないと語り、タチコマのメモリーを回収する。

その後バトラーは、セーフハウスで回収した素子愛用の時計を復讐に渡した。サイボープで身体を築き直される素子バトラーにとって、愛用の時計や断断レックスは自分が自分であり続けていることを証明する外敵に押されざるべきものであり、花からバトラーは危険を冒して取り戻したのだ。その後、飛行機に乗って逃亡しようとした素子とバトラーだが、素子は狙撃を受け倒れ、バトラーは取り押さえられた。

一方、荒巻の船にいたときに取り押さえられ、荒巻にも何も教えられなかったトグサは、船中の機密を突然解放された。そして一報を公開された情報で、素子の死と9課の壊滅を知る。同時に、捜査の手によって素子に捜査の手が入ることが報じられていたが、9課の喪失もあり荒巻への怒りをつのらせたトグサは、「笑い男」の姿を模し、銃を持ち完全本部へ向かった。だが彼を止めたのはバトラーだった。そしてバトラーに連れられて行くが、二度と会えないと思っていた9課のメンバーがいた。そこでトグサは、荒巻達のために荒巻は表面向き9課を捨てたこと、その荒巻を守るためトグサは遠ざけられていたことを教えられる。

一方、生きていた素子は「笑い男」とアオイと会う。そして《笑い男事件》のように、相談してもいらいが同じ行動を取り始める現象をこう呼んだ。「スタンドアローン・コンプレックス」と……。

▶少佐、全員装備A2で召集をかけろ





謎解き『S.A.C.』

“S.A.C.” Mysteries and Answers

Q1 「笑い男」事件とは何だったのか？ アオイの目的は？



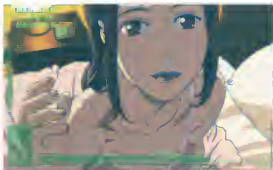
アオイは笑いのハッカーゆえか、ハノキングによるのではなく黒髪野に自ら告白してもらおうとしたその後、黒髪野が未遂事件を契機に再び動き、厚生省から「村井ワクチン接種者リスト」を入手した。

アオイはネット上で、村井ワクチンとマイクロマシン療法、電腦硬化症についての論文を発見。電腦硬化症への恐怖心からか、アオイは黒髪野を誘拐し、現在のマイクロマシン療法が電腦硬化症にほとんど効果がないことを公表するよう迫る。だが黒髪野が法廷を逃したため、アオイも絶望して決死し、投産施設で日々を過ごした。その後「笑い男」として事件を起こしたのは、黒島の手先を含めた黒髪野だ。しかし、監視施設暗殺未遂事件の現場を見、また投産施設にトグサが現れたことで、9課が《笑い男事件》の真相に迫っていることを知る。そこで9課に「村井ワクチン接種者リスト」を含めた自分が知る情報を渡し、事件の解決を委ねた。

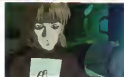
A 電腦硬化症に関する薬の真実を、関係者本人に公表させようとした。

Q2 なぜ警察官たちの目にインターセプターが仕込まれていたのか？

対 対象が見ているものを傍受する視覚素子「インターセプター」。黒髪によると、ナナオ＝Aにこれを仕掛けて《笑い男事件》の犯人である証人を得ようとしていたそうだが、《笑い男事件》特捜班の人間にも、密かにこれが仕掛けられていた。釈明会見では、特捜の班長主任が「《笑い男事件》捜査が進展しない焦りから行った」としているが、これはトカゲの尻尾切りだろう。インターセプターに気づいた山口が交通事故に遭わされたこと、また《笑い男事件》には政治家や警察上層部などが黒幕として絡んでいたことから、特捜班が事件の真実に近づきすぎないように、彼らを監視するために仕掛けられたものと思われる。

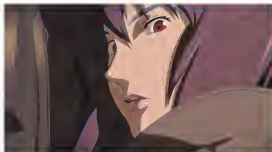


山口がトグサに残した写真には、すべて黒に染められたものが映っているのに、顔にはカメラが見えない。そのためインターセプターを介した写真だと気がつく。



A 《笑い男事件》特捜班が事件の真相に近づきすぎないように、監視するため。

Q3 なぜ公安9課は壊滅させられたのか？



情報漏れを防ぐため事情を知らされないまま警備に勾留され、その後釈放されたトグサは、一般の市民で素子の死と、9課の壊滅を知る。そのため復讐、素子を報復しようとする「笑い男」の犠牲者になりかけた。

素子が「笑い男」に扮して瀬良野社長と接触している姿がマスコミに情報漏れし、さらに9課が《笑い男事件》の容疑者であるかのように情報操作された（言及はないが、リーク元は瀬良野を監視していた素島の手先だろう）。それらのことから、9課の存在がマスコミなどに攻撃される。首相も、荒唐から真相を知らされたものの、選挙を控えているため与野党率長の更迭に及び腰だった。そこで「特殊部隊規制法案」によって9課を一度解体させることで、マスコミの追及をかわし、与党支持率を上げ、その後にも素島を逮捕させるという筋書きとなった。偽情報に釣られたマスコミに花を持たせるべく、9課は一度壊滅することになったのだ。

A 《笑い男事件》の首謀者という濡れ衣を着せられたため。

Q4 瀬良野は最後に暗殺された？

刑 事時代のトグサと旧知の関係で、第4話にてトグサと話していた《笑い男事件》特捜班の深見。この人物が曲者だ。ナナオ=Aを殺害した人物も深見であるため、素島一派と深い繋がりがあることは間違いない。その深見が駐車場から去った後、素島告発を決心した瀬良野が単に異常を感じたが、結局何が起きたかは描かれていない。単純に考えると「深見が爆弾を仕掛け、瀬良野がドアを開けようとしたとき作動した」となるが、神山監督は「フィクションの中でくらい正義が勝って欲しい」と、あえて瀬良野がどうなったかは描かなかったという。



深見



この人物は、声と左顔の痣から深見とわかる。瀬良野の駐車場から出るとき、深見は「血がらねば泣きは濡れず。正しきものに安らがる暇も」と口にしている。

A 視聴者の判断に委ねられている。

“S.A.C.”用語解説

【捜査施設】

心身上の理由などで犯罪が凶悪な者に職業訓練を課す施設で、劇中では警察検校の子どものための施設が登場。そこで「団長」と呼ばれ慕われていたアオイは、ここで厚生省に對するハッキングを行い、トグサが捜査に向かう。

【マトリ】

厚生相傘下にある麻薬取締官特捜隊の介入基のこと。麻薬に関する犯罪に對処することを、本来の任務としている。だが厚生省側長官の副美の私兵として動き、村井ワクチンの真実をもみ消すため、ひまわりの命や今条裕を襲撃した。

【電腦硬化症】

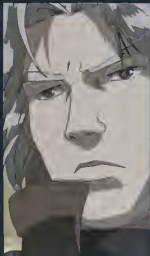
電腦化を行った部位が次第に硬化し、最終的には脳死にまで至る、ごくまれに発生する病気。病気の発見当初は村井ワクチンしか治療できなかったが、医薬品として認可されなかった。究極の軟化の辻時この病気と死んでいる。



第 4 章

S.A.C. 2nd GIG」

～個別の11人の章～





INTRODUCTION

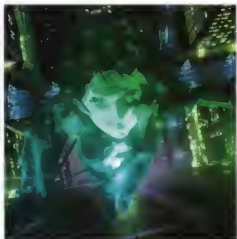
～序論～

T Vシリーズ『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX(S.A.C)』の続編として制作され、2004年より放送されたのが本作である。本来TVシリーズは全26話として作成される予定だったが、同作の1〜2話を見たプロデューサー陣に「この作品は面白い、絶対にヒットする」と判断され、その場で続編の作成が決定されたという。事実、シリーズは大ヒットしたが、続編制作決定を後から知らされた神山は「『S.A.C.』でゴールが見えたと思ったら、もう一周しろと言われたかのように感じた」と表現している。

だが、神山には強力な援軍が加わった。『S.A.C.』とほぼ並行する形で制作されていた『イノセンス』の作業が終了したことで、ストーリーコンセプトに押井守が参加。押井は直接脚本を書いた訳ではないが、脚本打ち合わせの際に出てアドバイスをを行った。その結果、「戦争状況が演出される」という、押井守監督による映画『機動警察パトレイバー 2 the Movie』（1993年公開）と似たコンセ

プトなども取り入れられた。また『イノセンス』で作画監督を務めた西尾鉄也ら、強力なアニメーター陣も参加。西尾は一部新キャラのデザインや、オープニングも手がけている。

なお『S.A.C.』でサリンジャーの作品が題材となったように、本作では三島由紀夫の作品が題材となる予定だった。だが最終的には能楽や自決という三島の要素の一部分だけ残され、その代わりに、素子と、彼らの前に立ちちはだかったクゼの關係に焦点が当てられることになった。そしてもうひとつ、本作の焦点として取り上げられたのが、難民問題である。これは公安9課設立以前に第3〜4次世界大戦があり、日本にも核攻撃が行われたという土郎正宗の原作設定が元になっている。この戦争で発生した難民を、自国復興のための労働力として日本が受け入れたのが超難民だ。現在、世界各国で発生している難民問題を見ればわかるとおり、本作で描かれる難民問題は、決して絵空事ではない。



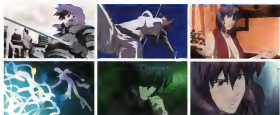


CHARACTERS

～登場人物～

基本的なデザインや性格は前シリーズを踏襲しているが、一部のキャラはより踏み込んだ描写が行われた。また新人として、3人の人物がシリーズ中盤より登場している。

♪どこにいる!? ——クゼ!!



ヒララ



少女

キャッシュアイ

ラストの
コスチューム

公安9課

Kusanagi Motoko

草薙 素子

『2nd GIG』では服装が若干変わり、ヒララなどの新設定も登場。素子の素子は「モードパーでヤケ酒だ」、「泥棒屋は騙し騙されが鉄則よ」とジョークを言うほどだったが、後半になると情勢の深刻化とクゼのゴーストに陥れたことで昇進意気変わっていき、特に「爪を噛む癖」という、それまでなかった一面を見せるようになった。そのクゼとの邂逅は、彼女の中に決定的な変化をもたらし、ついに17歳を去ることになる。

♪バカ野郎、お前ひとりで行かせやしねえ



Back view



公安9課

Batsu

バトー

コミカルな面が滅り、熱い面と同時に、特に心ここにあらざるといった様子の素子を見立つように、あるいは心配げに見るところが目立つ。「素子ちゃん」という彼の愛称は今作でもみられる。

♪ここに総理からの書簡がある



Back view

素子



公安9課

Togusa

トグサ

第10話では想変わらずむき出しの正義感を見せている。だが、後輩ができたこと、後半は共事と共に茅渟三郎と行動していることもあり、全体的にやや落ち着いた雰囲気になった。

▶なんのことはねえ、
中身はできの悪い評論文だ



公安9課
Isikawa

イシカワ

半島で起こした経験があるということと、現地に捜査情報収集に向かった。また折返でデイルトローター機が破壊された時に負傷するが、その身体で「内情」の人間をあつさりとしている。

▶ああそのとおり、全部作り話だよ



公安9課
Saito

サイトー

“赤いピアノ”
時代のスナイパー
ライフル

第14話で、過去に熊子やリバーがいた部隊と交戦。彼らの神髄を奪い、その脳を買われて熊子に勧誘されたと語っている。その話が、真実なのか作り話なのかは明らかになっていない。

▶俺は同じ女と二度寝することはない



公安9課
Paz

パス

パスの
ナイフ

第13話でクゼについて捜査中、昔の女との確執のエピソードが登場。「パスの姿」を手に入れたその女の戦いの巻、自分と同じ部分、彼女の胸に傷跡をつけてやった彼の心臓いかに……

▶仕掛けるのが専門だったけどな



公安9課
Barma

ポーマ

爆弾処理
防護服

実験台となって《個別の11人ウイルス》を取り込み、急ぐ研究するところだった。また自爆テロ現場や核爆弾を調査するなど、軍での爆発物取り扱い経験を生かした捜査を行っている。

▶もはや完敗と言っていだろうな



公安9課
Aramaki Daisuke

荒巻 大輔

第1シーズンと異なり、上司である茅渟総理に何度も会い、助言も行っている。また茅渟一筋に敬慕されたとき、足の高ルスターに銃を押し持っていたという意外な一面を見せた。



Proto
プロト

電脳網に強く、タチコマのメンテナンスを行っている。正体は「イイオロイド」(量子操作を行った一種の人工人)だ。



Yano
矢野

クゼがいると思われる折返の潜を9課が襲撃したとき、経験で死亡、仲間に見送られるという事象に、9課も言葉も失った。



Asama
アズマ

プロトや矢野らとともに本作から加わった9課の新人のひとり。次作の「F555」では、成長した彼の姿が確認できる。

▶ 一身独立して一国独立す。私は初めから
そう考えて行動してきたつもりです



義体の首が通り付けられたり、核爆弾が仕込まれたり、たびたび命懸けされた。



ホットラインの
ヘッドセット



Kayabuki Yoko

茅葺よう子

日本初の女性首相で、9課再建を許した人物。「憲法政権」と言われた新政権に代わる反憲法保守政権とも言われ、首相就任時から憲法改定の転換（難民居住区の縮小など）を発表していた。自ら「解散総選挙を戦う上での広島巻」だったと言っており、なかなか指導力を発揮できなかったが、一連の憲法事件を通して彼女自身も成長したようだ。

Takakura

高倉官房長官



野米（米帝）派の官房長官。大戦の結末と共に価値が薄れた敵対部隊五マイクромシンに高度価値を与えるため、米中対戦後協定下で米側につくことを望む。そのため茅葺を傀儡として操作し、事態を誘導、さらに茅葺を更迭しようとした。

The Sama Secretary

内務大臣



日本に再度設立された内務省の大臣。公安9課長（荒巻）の権限の上目。だが首相が直接9課に命を下すこともあるなど、影響力はあまり大きくない。そのため新政権発足後唯一留任している。

Kubota

久保田



第1シーズンより登場している陸軍情報部長で、荒巻とはかつて辻時らと共に、殿田一佐の部下だった戦友。現在も荒巻との結びつきは強く、軍に関する情報などを荒巻に提供している。

Aramaki Yasuko

荒巻洋輔



第1シーズン第22話で存在が触れられた。荒巻大輔の兄。戦時中、行方不明になっていたが実は難民と行動を共にしており、「2nd GIG」ではクゼと話をしたり、難民の救済活動をしていたりする。

CIA

CIA



サトウズスキ

ワタナベタナカ

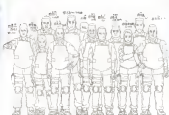
第1シーズン第10話で、連絡人型マルコの引き渡しを求めてきた米市の探偵員。ゴードと同行していたため、CIAがクゼを狙っていることと親子らは気づくが、クゼはサトウに殺されてしまった。

Ranger section

レンジャー4課



押井劇場版でも存在が触れられている特殊部隊で、「プラトニウムの回廊」という名前で出展に投入された。恐らく作戦用の偽名だが、隊員にはそれぞれ千史の漢字が名前に入っている。



隊員たち

Young refugees

難民の若者



プラスチック爆弾

難民に人気のある電撃ラッパー「信託」に影響を受け、武装蜂起に参加した人物。攻撃9課のティルトローター機に対して自爆攻撃を執行し、機体を破壊、インカフを負傷させた。

▶俺は俺の革命も同時に進行させる。 核攻撃があると聞いて、その決心がついた



少年

第11巻で美子が迷い込んだ店の店主が話した少年。劇中ではあえてクゼと断言することは語られていない。



白いカラス

霞波塔にいたカラス。白はクゼの色であり、同時に《個別の11人ウィルス》の発件案具を暗示する。



口を動かさないクゼだけが動くかせないのではなく、電波塔前でシルベストラの言葉を破滅したときと、死の瞬間に動いている。



Kuze
クゼ
(クゼ・ビデオ)

《個別の11人ウィルス》に感染し、革業部相模野を実行しようとした人物。半島でのPKO活動中に難民と接触し、自らのカリスマで周囲に多くの難民を集めた。だが同時に、ネットのインフラを食いつぶし、自分に都合のいい情報だけを集める人々に先手を覚え、自らの「革命」、即ち人とネットの融合を考えながらウィルスの影響から解放、難民の指導者となっていく。



Goda
ゴータ
(香田一)

内閣情報学術戦略影響調査会副代表城川直。以前は大日本放送（現ガセイドン・インダストリアル）で放映部除去マイクロマシンのプロデュースに関わった経歴を持つ。元は平凡な顔をしていたが、事故に遭って以降あえてその醜態を顔に残したままにしている。国民の思想を誘導する「英雄」をプロデュースすることで、難民排斥を画策する。

▶水は低きに流れ、 人の心もまた低きに流れる……



高倉のもと動いていると噂されたゴータだが、実は二人はスタンダードアローンだった。さらに神山監督は「光輝」の者ではないのかも」と話している。



旧防衛時代の
ゴータ



チームゴータの
黒崎兄弟





武器を捨てて出てこーい!

TACHIKOMA

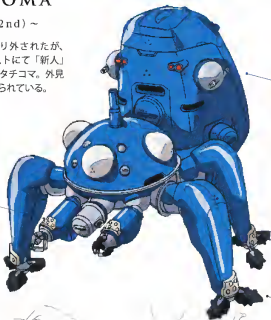
～タチコマ(2nd)～

第1シーズンで9課より外されたが、『2nd GIG』第1話のラストにて「新人」として9課に戻ってきたタチコマ。外見や性能に若干改良が加えられている。



1st

手甲型の強甲が新たに追加。右手だけが機密隠になっていて左手がセンサーなのは、以前と変わらない。



1st

ワイヤーの性能などは変わらないようだが、ボッド部分にスリットがあるなど外見がわずかに異なる。



1st

以前はタイヤを直接足にしていたのが、歩行時はタイヤが3つに分かれて接地面が増えるようになった。



・Back view



第1シリーズで9課の任務を外されたあと、3機のタチコマがバトー救出に現れ、彼の身代わりとなった。その時タチコマのメモリーを素子が回収していたが、そのメモリーからの復旧が、解体データが残っていたかで、今作ではかつての個性を残したままのタチコマたちが復活する。時にその個性が強くなり過ぎ、攻撃ヘリとの戦闘を強がったり、メンテナンス中に騒いで叱責されたりしたことも。そういった点だけ見ると確かに「兵器としては不遇格」かもしれない。それでも「9課を救いたい」という意志だけは共通して保持し続け、今作でも出島での危機状況において自己犠牲の精神を見せつける。個性や多様性だけでなく、確固とした意志を持つことが「ゴーストを得る」ということなのだろう。



ウチコマ

『Solid State Society』も含め、数度の事件後に9課が使っている緑の軽装はウチコマという名称。タチコマと違い無機質なA1だ。





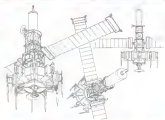
タチコマ エージェント

タチコマが電脳空間で活動するときのエージェントの姿。処理速度の負荷を減らすためか、駆動部分が見えていないなど簡素化された外見になっている。



タチコマ AI搭載衛星

米国のNSA（国家安全保障局）の衛星に、タチコマAIの本体がある。雙方のAIは物理攻撃を受けると心配がなかつたはずだが、反常な結果を招くことに。



有山田博士

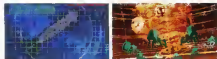
▶あなたは、ボクの、お父さんですか？



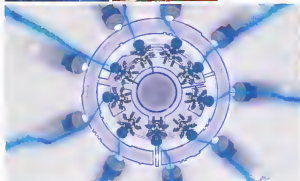
タチコマAIの開発者と云える有山田博士は、自分の功績を認められたいと置いて亡命を願うも、阻止される。これはゴータの最初の伏線でもある。



タチコマは個性や能力の強化により、実戦でリメンバーを助けるだけでなく、エージェント機能によって電脳版でも陣を補佐するようになった。

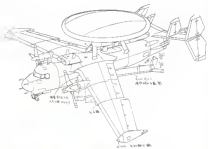


▶これって、もしかして米帝の潜水艦では!?



▶イシカワさん、ボクみんなと一緒に行かなくちゃならない所ができたんですが……

A1本体の衛星落下時、同時実行したA1のバックアップは疑い合わなかったが、9課の戦車にタチコマは戻らなかったが……



PATROL PLANE
海自哨戒機

出撃に電波妨害をかけた電子戦機。クゼの地对空ミサイルに攻撃された。ちなみにその時、総集編ではフレア（対空外敵誘導デコイ）を放出している。



HELICOPTER
陸自兵員輸送ヘリ

集子たちが強自から奪って、出撃に向かうのに使用したヘリ。ツガバチA Vの攻撃を受け不着するが、墜り落とされた集子も他の隊員も無事だった。



MECHANICS

～メカ～

“難民との戦争状態”を描くことになった本作では、このページで紹介しているもの以外にも、巡洋艦やヘリ空母、多脚戦車から個人携行火器まで、多数の兵器が作中に登場した。



ICEBREAKER
ほうえい丸

クゼが択捉から出島までの移動に使用した船。劇中では“偽貨船”と言われており、本作演出的にも、実際にあった北朝鮮不審船事件の影響が大きい。



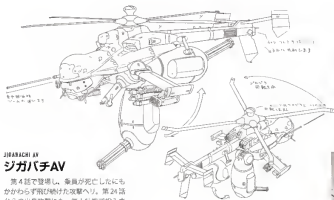
FIGHTER
空自戦闘機

集子が建機を取り、米軍の艦隊を威嚇して迎撃しようために出撃した戦闘機。米空軍攻撃隊組員は“航空自衛隊の秘密部隊”と言っている。



MM SPAKLEEN
**海自マイクロマシン
散布艇**

難民の“核による自爆”に備えて、放射能除去マイクロマシンを散布した船。劇中では“掃海艇”（本来は地雷掃討用の艦船の意味）と呼ばれている。



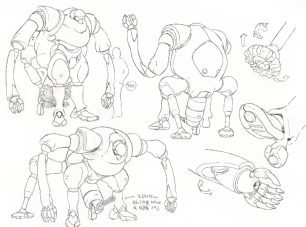
JIBACHICHI AV

ジガバチAV

第4話で登場し、乗員が死亡したにもかかわらず再び射撃した攻撃ヘリ。第24話からの出陣攻撃にも、無人状態で投入されている。第1シリーズ第2話で登場したジガバチの発展系で、コクピットの形状など各所が微妙に異なっている。



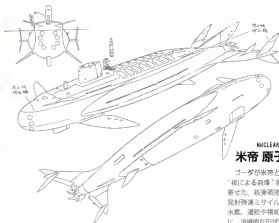
コクビット



ARMED SUIT

陸自アームスーツ

第6話で、新宿原発に集ったトグサたちを追った捜査のアームスーツ。下部に固定式ガトリング砲を搭載している。第20話では、脱走の佐川電子地下工場でケズとマフィアがブルトコウムの受け渡しを行う際、現場を監視した。



NUCLEAR SUBMARINE

米帝 原子力潜水艦

ゴードが米帝と取り引きし、無銭の「核」による自爆を演出するために呼び寄せた、核弾頭搭載SLBM(潜水艦発射弾道ミサイル)発射可能な戦略潜水艦。遠程や傾斜などがイェルカのように、流線的な形状なのが特徴。

ミサイル

本来、戦略潜水艦は海中からミサイルを発射可能だが、作中では発射シーンを描くため浮上して発射している。



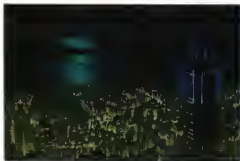
夕焼けの光を受ける出島の建築物群。この色合いだと、「イノセンス」における仮想経済特区を上空から見た光景も思い起こされる。



LANDSCAPES

～風景～

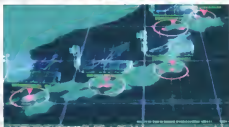
『2nd GIG』では新宿や札幌、さらに台湾やベルリンといった日本国外の風景も新たに登場している。そういった新しい風景の中でも一番目立っているのは、やはり長崎・出島の招慰難民居住区だ。



出島と本島は、大橋が唯一の陸路での道となっている。だが出島には多数の層があり、海上保安庁の封鎖をくり抜け、多数の人員や物資が流れ込んでいた。

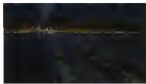
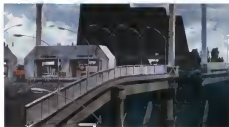


第1シリーズの時から作中に言葉が出ていた「招慰難民」。本作の世界観では第3次核大戦、第4次非核大戦があり、日本も当時の首都・東京を含む各所に核攻撃を受け、多大な被害を出した（両折衷中に出る「根室上陸作戦」とは、この大戦中にあった日本本土での戦いである）。しかし日本は、放射能除去マイクロマシン、通称「日本の奇跡」を開発し、同時に招慰難民を労働力として受け入れることで、急速な復興を果たした。そして復興が一段落した現在、その難民の処遇問題や、日本国民との確執が発生しているというのが作中の状況だ。難民居住区は無秩序にビルが建てられ、半ばスラム街化しているところも多い。また、第23話でタゼと蒼蒼洋輔が入った茶の店などのように、国外の文化も入っているようだ。街中に大量の看板ごそないが、その光景はまさに押井監督の『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』で描かれた、雑然とした無国籍都市のようだ。



第1話で表示される、全国5カ所の招慰難民居住区。東京と長崎（出典、『SAC』で蒼蒼の兄がいたと言われた新浜（神戸付近）にもあるのがわかる。

墜落したヘリを囲む難民と、その中を抜けてゆくり歩およびレンジャー4課の面々。状況は違うが、映画「ブラックホーク・ダウン」を連想させる。



出典と本土を繋ぐ橋を封鎖する自衛隊（下）と、難民により破壊された橋に緊急架橋を行う自衛隊（上）。



STORY

～ 全26話の物語 ～

《笑い男事件》が着着した後、再び活動を開始した公安9課。だが彼らは、ひとつの警察組織としてはとてつもなく巨大な国家的問題と、その背後で蠢く陰謀に立ち向かっていくことになる。

① ---- Dual epi

◆ Dual epi

◇ Individual epi

全26話は“dual episode”、“dual episodes”、“individual episodes”の3種があり、それぞれ「単独の話」「ゴダ中心の話」「ケツ中心の話」となっている。サブタイトルの背景も必ずキャラクターを象徴する「カラー」「色」で表された。

#01 再起動

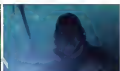
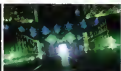
REEMERGE

① 無期限待機状態にあった9課、再稼働

抱懸難民受け入れ拒否などを求めるテロリストが、中国大使館を占拠する事件が発生。近日中に新たな難民政策を発表する予定だった政府としては、テロリストの要求が世間に公表される前に事件を解決する必要に迫られ、待機状態にあった公安9課にその任務が下される。



個別の自我が我々の意志を引き継ぐ。よって我々にとって、死は意味を持たない！
——あーそう？ じゃ、死になさい！



#02 飽食の僕

NIGHT CURSE

① 一市民から見た西暦2031年の日本

民間ヘリのパイロットとして働くギノは社会を憎み、自分が選んでいる3大ネットワークの会長である片倉を暗殺する妄想を強く。一方ギノは、ヒララという組織に思いを寄せていたが、ヒララの正体は潜入捜査を行っている素子だった。

ヒララ



ギノ



#03 土曜の夜と日曜の朝

CASH EYE

① 草雉素子、怪盗になる

キャッシュアイというハッカーが、元経団連会長の田所のビルに潜入。地下金庫の金を奪うと予告してきり。その結果、草雉素子を逃して9課がビルの警備を行う。だがこれらは、田所の財団などを暴くための盛大な陰謀だった。

キャッシュ
アイ



田所ツトム





ジガバチAVパイロット



#04 天敵

NATURAL ENEMY



戦車と攻撃ヘリ、9課と“内情”

演習中に連隊の軍のヘリが暴走し、帰還命令を受けなくなった。現在は難民居住区の上を飛んでいるだけだが、いずれ燃料切れで墜落する。事件を扱った兵隊の元に、内閣議員庁（内情）のゴードが現れ、解決に手を貸して欲しいという。



#05 動機ある者たち

INSTANCE



動き出した“個別の11人”

茅草管理のちに《仇土》のマークが入った暗殺予告状が届いた。最近、同じマークが入ったテロ犯行声明などが発表されているという。そして日本刀を持ったクセが茅草を襲う。素子らは茅草を守るが、クセを取り返がしてしまう。



コタン・カンジ



#06 潜在熱源

EXCAVATION



新宿の地下に隠されていた秘密

エネルギー管の秘密を暴露すると脅迫していた男が事故死した。だが実際には暗殺されたらしい。その男コタンがどんな秘密を置っていたのか調査することになったトグサは、大抵で破壊された新道にて、コタンの痕跡を調べる。



アサギルリコ

#07 狂想は亡国の調べ

PIA



きな臭さを増してゆく難民問題

トグサが新宿で発見した地下深奥からプラトニウムが掘出されることになったが、難民が暴発してくるという情報があったため、9課が断頭を担当する。これに実行することになったゴードは、何かと任務に介入して不協和を築く。



カワシマ・ショー



伝説

#08 素食の晩餐

FAKE FOOD



食わされた偽の食事・偽の餌

《仇土》、すなわち“個別の11人”を名乗ったテロリストのうち、カワシマ・ショーという男の身元が判れた。9課はその男の身筋を確保するために動くが、“内情”に偽情報を与えられた公安1課によって、カワシマは射殺されてしまう。



難民の養体少女

クロマ

#09 絶望という名の希望

AMBIVALENCE



ゴードのシナリオが明らかになってゆく

国民と難民の対立が顕化し、難民による連続血闘予告が発生。パトラーはその犯人を逃す。一方素子は、“内情”と繋がり深くなり、かつてゴードがいたボセイデン社のデータベースに侵入。ゴードの仮面人格と対峙し、彼の考えを探る。

#10 イカレオトコ

TRIAL

ジェームス型
裁判官



ウエダ



DI

己の正義を買おうとするトグサの戦い

トグサは偶然、暮らしている女性を発見して加害者の罪状に発覚したが、女性は結局殺されてしまった。その後裁判で最悪の弁護人は、加害者の行動は義体の暴走による「事故」であり、トグサはサイボーグを差別しているなどと主張する。

#11 草迷宮

affliction



幼かった“少年”と“少女”の記憶

素子は新人の目撃中、奇妙な空に強い匂い。そこには少年と少女の義体が保管されていた。店主はその義体の少年と少女が、どのような経緯をして義体化することになったかを知る。素子は自分のことのように、その話を聞いていた。



#12 名も無き者へ

SELECTION



自決による思想の伝播、その中で……

首領暗殺未遂事件を起して以来、行方がわからなかったクゼが九州で発見される。九州電波塔に集まったクゼを含む「個別の11人」たちは、力でも互いの首を切り落として自決。だがクゼひとりだけは、血決せずにその場から離れた。



#13 顔

MAKE UP

DI

捜査中に遭遇した、バスの知られざる過去

クゼの義体の顔を作った造顔作家を探すり解。だがその作家のうちひとりとは殺されていた。しかも防犯カメラの映像などには、バスとつながった人星が映っていた。これはバスに対し執念に近い愛憎を描く、女性による犯行だった。



バーのママ
(カワシマ・カオリ)



#14 左眼に気をつけろ

FEAR FACE

DI

真実か作り話か サイトーと素子らの戦い

サイトーはり達の新人や警視庁捜査班ミニミらとボーカーをし、勝ち続けていた。サイトーによると、かつて経験した心霊館に比べれば、ボーカーで相手を読むほうがやすいという。そして、自分と素子らの出会いについて語り始める。



ミニミ



#15 機械たちの午後

FAT

DI

功績を称えられることのない者たち

「個別の11人事件」の資料の分析を行っていた研究施設 Spring-8 の一角で爆発が起こる。犯業者はいなかったが、研究員の高須田博士が行方不明に。彼はタチコマ A-1 の開発者と言えぬ人物で、爆発を起こし、亡命しようとしていた。



高須田博士





報道カメラマン

#16 そこにいること

ANOTHER CHANGE



クゼの足跡を辿る旅の始まり

クゼの情報を得るため地道にいたイシカワが満国してきた。クゼの所属する自衛隊部隊はPKF活動で半壊に行った際、難民などから事業に反する状況中継を受ける。しかしクゼは難民の中に潜り込み、やがて妻を演じたという。



チャイ

#17 修好母子

RED DATA



意外なところで垣間見られる素子の母性

クゼの足跡を追って素子は台湾を訪れる。そこで素子は、クゼのことを知るチャイという少年に出会った。チャイはクゼの話をする一方、素子をも惹き込もうとした麻薬取引で窮地に立たされる。素子は放ってはおけず、チャイを助ける。



テレジア



アンジェリカ

#18 天使の詩

TRANS PART



父の正体を知らない、盲目の少女の悲劇

素子とバトラーは、「天使の羽根」と呼ばれる近未来的デロリスト逮捕のためベルリンに派遣される。そこでテレジアという少女に出会ったバトラーは、彼女が「リリ」と号する人物と、「天使の羽根」の行動（ターン）が一致することに気がつく。



#19 相対の連鎖

CHAIN REACTION



素子とクゼの再遭遇、そして……

難民が大都市停電デモを起こすという情報が流れていた。9課は最前線の出動にいとと思われるクゼを捜索するため現地に向かう。素子はクゼの居場所を探るためのゴーストに接触するが、偽装された情報により誤にかけられる。



クロルデン

コイル・クラスノフ

#20 北端の混迷

FABRICATE FIB



核を巡る駆け引きが始まる

実際にはクゼは、ロシアからプルトニウムを入手するため現地にいた。現地に向かった9課は、素子がクゼに関する正確な情報を得ようとする一方、バトラーとサイターは予想される場所へ先に向かう。バトラーはそこでクゼと対峙した。



#21 敗走

EMBARRASSMENT



9課の完全なる敗北

バトラーと素子はクゼを追うが、クゼの乗った船は逃げ去ってしまっただけ。さらに空から逃がそうとするも、クゼの仲間の自爆攻撃で機体を失う。一方、クゼは受け取ったプルトニウムが偽物だと気づくが、そのことを仲間と黙って出動に向かう。

#22 無人街

REVERSAL PROCESS



パトーとゴードの舌戦が行われる下で

九州豪快道で核爆弾が発見された。政府は大戦の不発弾と発表し住民を退去させ、解体作業を行う。一方、9課は解体された海岸のブルトニウムを入手し、これが難民のものによるものではないことを証明することで、事態収束を狙う。



#23 橋が落ちる日

MARTIAL LAW



ゴードの手によりエスカレートする情勢

ついに自衛隊が動員し、出島を封鎖することが決定された。クゼは難民に交戦は避けるよう呼びかけるが、ゴードに電線通信を妨害されたことで難民が暴走し、戦禍が始まる。9課はその出島に向かい、クゼを捕らえようとしている。



#24 出島、空爆

NUCLEAR POWER

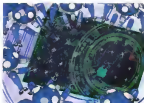


明らかになる“核による自爆”のシナリオ

自衛隊の無人ヘリが出島攻撃を開始。素子たちのヘリも攻撃され、素子はヘリから落下する。またクゼは通信妨害を行う自衛隊機を撃墜することで、難民を再度自分に集まらせようとする。一方、米帝の原潜が日本近海で発見される。



陸自レンジャー4課 子母隊長



#25 楽園の向こうへ

THIS SIDE OF JUSTICE



迫るタイムリミットの中での、各自の決断

タッチコマから、原潜による核攻撃が迫っていることを知らされた素子は、やっとなクゼを発見。状況を確認し、難民を救おうとする。パトーも自分たちを助けたレンジャー4課を支援。その後パトーはひとり素子救出へ向かう。



海自軍 出島を空爆!

#26 憂国への帰還

ENDLESS-810



収束していく、終わらない物語

タッチコマは、人工衛星を落下させて潜水艦からのミサイルを破壊。また茅根は自衛隊に連絡を取り、原潜を追い出そう。出島での事態収束後、9課はゴード達と一緒に、その時ゴードと共に C 1 A の人室がいることに気づき――。



合田一人。内乱の予備陰謀、外国に対し私的に戦争をする目的の予備陰謀の容疑だ



米帝 原潜の艦長

副長



攻殻機動隊

S.A.C. 2nd GIG

～ Individual Eleven ～

これは『The Laughing Man』と同様、『2nd GIG』の中核の語である『個別の11人事件』を中心に再構成した総集編だ。『The Laughing Man』よりも、より大胆な編集が行われている。

《個別の11人事件》だけで構成した総集編

STORY

中国大使館をテロリストが占拠する。これに対処するため公安9課は活動凍結が解かれ、事件を解決した。その後、演習中に自衛軍のヘリが暴走する事件が発生。そこに現れた内閣情報庁のゴードという男の案により、この事件も解決する。だがヘリの事件に呼応するかのように“個別の11人”を名乗るテロリストたちが九州電波塔で自決する事件が発生した。その中で首相暗殺未遂を起こしていた人物だけは自決せずに逃げ去った。荒巻は久保田から、この人物はクゼという名だと知らされる。またヘリ事件時、絶妙なタイミングで現れたゴードに不審を抱いた素子は彼の仮想人格と対峙し、ゴードが難民の排除を狙っていることを知る。一方、かつて自衛軍にいて半島に派遣されたクゼは、難民の中に溶け込んでいき、彼を養うように周囲に多くの難民が集まった。その後クゼは軍から姿を消して今に至る、という情報は9課は得る。そして今、そのクゼは自分の電脳に多くの難民をアクセスさせ、皆を出島に誘導していたのである。

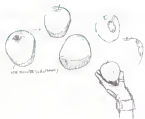
9課は、現在クゼが収容していることを知る。クゼはそこでプルトニウムを入手し、核の力で出島を独立国として認めさせようとしていた。9課は収容に向かうが、クゼの確保に失敗。一方クゼ

も、偽のプルトニウムをつかまされるも、そのまま出島に戻る。

その後、九州電波塔に、難民のテロに見せかけた核爆弾が仕掛けられた。9課はこの爆弾のプルトニウムを入手し、難民によるものでないことを証明して事態を収束させようとする一方、クゼの身柄を確保するため出島に向かう。一方でゴードは米帝と取り引きし、出島を核攻撃して‘核による自爆’に見せかけようとしていた。やがてゴードの手引きで、出島の通信が妨害されたことで難民は暴走を始め、出島を包囲する自衛軍との戦闘が始まる。その混乱の中で仲間とはぐれた素子は、ついにクゼと遭遇。核攻撃が迫っていることを察する。クゼは、難民の記憶とゴーストをネット上に移すことで彼らを救おうと考え、素子はその準備をタチコマに指示するが、タチコマは命令を無視。自分たちのA1が搭載されたものを含む人工衛星を落下させて核ミサイルを妨害した。その後9課は、亡命しようとしていたゴードを射殺。だが拘束されていたクゼも、C1Aにより暗殺されてしまった。

この総集編では、『個別の11人ウィルス』やシルベスタルの論文の話がほぼれとカットされた。そしてTVシリーズ第11話『単途宮』で描かれている‘少年と少女の話’は、素子がクゼのゴーストに触れたときなどにフラッシュバックの形で挿入されるなど、素子とクゼの関係に焦点を絞ったと言える編集が行われている。





THE LAST SHOT

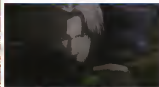
～ラストショット～

プルトニウムを国連査察団に渡すため出島に持ち込む素子たち。それと同時に彼女たちは、自分たちが向かうことをあえてクゼに連絡、難民を救うと同時に事態の収拾を図ることを試みるが……。

▶……そこでボクは、少佐の命令を無視しようと思うんだ



▶お前には心を許せる誰かがいるか？

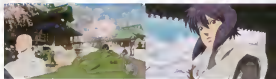


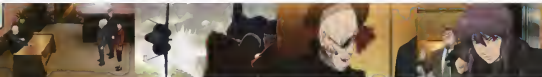
▶——いなくはない



リンゴは旧約聖書の禁断の果実、バトーが素子を救うのに使った銃弾は十字架に見える。禁断の果実を食べた人間は「悪魔」を食う。悪魔は十字架にかけられたイエスとも関係に聞かっている。

▶素子おおお——!!!!





♪ポクらはみんな生きている～♪♪♪



ロボット三原則に逆らったタチコマも、プロトは「ゴーストを奪得した」と解釈。またタチコマは暴走下運転。自分たちのメモリーのバックアップを取っているが、間に合ったのかはわからない。

衛星からの映像を監視していたタチコマからの情報により、荒巻らは、米帝の潜水艦が出島に核攻撃を行い「難民による核での自爆」というシナリオだと推測。さらに出島に通信障害がかけられ、クゼとの電脳接続を遮断された難民が暴走し、自衛軍との戦闘が始まりました。クゼは通信妨害を行っている自衛軍の航空機を撃墜し、再び難民を自分の電脳に繋ぎ止めようとする。一方、出島に入ったときに自衛軍の攻撃を受けてヘリから振り落とされた素子は、その光景を目撃。クゼの元へと向かい核攻撃が迫っていることなどの状況を説明した。するとクゼは、自分が考えている革命を実行するという。すなわち、人とネットとの融合、難民の記憶とゴーストをネットに移動することで、核攻撃で肉体を失っても上部構造へ進化することができるかもしれない、それで難民を救うというのである。素子はその案に乗ることにし、難民の記憶とゴーストを保存する領域を作るようタチコマに命じた。

しかし、タチコマは、この考えはあまりにリスクが高いと判断。そこであえて命令に反し、潜水艦が発射するミサイルの弾道上に

人工衛星を落下させることで核攻撃を妨害する手段に出た。その人工衛星の中には、タチコマのA1本体が搭載されているものもあったが、それでもタチコマは実行。またしてもリ調は、タチコマの自己犠牲に救われたのである。

このクゼの「革命」は、押井劇場版での「ネットと生命の融合」を連想させる。またこのとき、素子とクゼは落ちていたリングを手に入れているが、素子は結局口を付けなかった。その一方でクゼはリングを食べていたのが後でわかる。その後、C1Aに暗殺される直前「先に行くぞー」と口にしたクゼだが、禁断の果実を口にした彼は、上部構造へ行けたのだろうか。

なお、神山監督はラストのクゼとの素子を描いたとき、素子を元の心情、本作冒頭の9課としての素子に戻すことが難しかったと語っている。そこで「気づく人だけ気づいてもらえればいい」として、素子の乗るタチコマを、他の9課メンバーとは逆方向に走らせた。それが『Solid State Society』に繋がることになる。

♪なに？



♪——いや、何でもねえよ



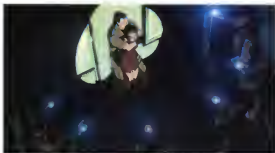
劇中先に行くよう指示した素子は、パトローは何か悪いけいようとして、結局中絶。実は脚本では、このパトローのト書きに「どこかに行っちゃう気じゃねえだろう」とあった。



謎解き『S.A.C. 2nd GIG』

“S.A.C. 2nd GIG” Mysteries and Answers

Q1 結局、“個別の11人”とは何だったのか？



中国大使館を占拠したメンバーが“個別の11人”を名乗った理由は不明だが、実行犯と受託者を合せて11人いたのかもしれない、「シルベスターの決闘の解説」の項は既にあるのかもしれない。

結 論から言うと“個別の11人”はウィルスだが、最初に“個別の11人”を名乗ったのは、第1話で中国大使館を占拠したメンバーだ。第22話のバトーのセリフによると、第1話のテロリストが名乗った“個別の11人”という言葉を元にウィルスが作られたらしい。実際第1話のグループは「避難民居住区の完全閉鎖」など、ウィルス感染者とは傾向が違う要求を行っているし、その後のウィルス発症者はグループではなく単独で行動している。そして“個別の11人”ウィルスに感染して発症した人間は「難民解放のため自立を促す」と思い込みつつ、難民支援団体を攻撃するなど、難民を追いつける行動を取るようプログラムされていた。

A 「難民を解放」するつもりで逆に「難民を攻撃」させるウィルス。

Q2 ゴーダの目的は何だったのか？

かつて放射能除去マイクロマシン“日本の奇跡”をプロデュースしたが、技術者ではなかったためほとんど評価されなかったゴード。彼は、自分は“英雄”になれないと悟ったが、“英雄をプロデュースする”ことが願望になっていく。そこで、難民問題を解決する“英雄”を作る《個別の11人ウィルス》を制作する。その英雄によって日本国民と難民を対立させ、さらには核攻撃によって難民問題を文字通り“消滅させる”ことを狙った。そして、国民が口には出さないが切望しているという「第三者を消費して繁栄する日本」を再現すべく、米中冷戦構造の中で米帝側につくことにより、日本が繁栄する道を取ろうとしていたのである。



事故に遭う前は平凡な外見をしていたゴード。だが事故で姿が変わったことでゴーストも変化し、現在の心臓に繋がったらしい。



A 日本を繁栄させるために、難民を消滅させる英雄をプロデュースすること。

Q3 クゼの目的は何か？ 素子・折り鶴との関係は？



素子は、クゼについてハトーに質問された際「彼の記憶に触れた時、昔に別れた妻のような気がしてな」と答えている。結果論では少女が素子だと明かされているが、少年が素子かはぼかされている。

クゼも《個別の11人ウイルス》が発症したひとりだが、彼には元々「難民を救いたい」という願望があった。そのため「難民を解放する」という自分たちの発言と行動が矛盾していることに気づき、ウイルスの影響を脱出。そして本当の意味で難民を救うべく（ゆえに電波塔で自決するわけにはいかなかった）、独自に行動を始めた。なお、クゼは折り鶴を折る癖があるようだが、彼と、少女のために折り鶴を折り続けた少年の関連は明言されていない。またそのときの少女が素子だとも明言されていない。ただその少女を素子が知っているらしいこと、素子がクゼのゴーストに触れた後「私はあいつを知っているぞ」と言ったことは確かだ。

A 目的は真の意味での難民解放。素子との関係はあえて明示されず。

Q4 茅茸首相の採った選択の意味とは？

茅茸首相は親中派として知られていたため米帝からは存在をほとんど無視され、戦略潜水艦からの核攻撃中止要求にも応じてもらえなかった。そのため茅茸は、別の場所连接到する。荒巻やトグサは、それが中国なのではないかと考えた。米帝の原潜乗組員も、航空機が接近するとき「八・一の軍旗のマークがあったら」と話しているが、このマークは、中国軍を意味する国章マークだ。だが茅茸は中国ではなく自衛軍に連絡を取り、米帝の潜水艦を威嚇して追い払った。つまり米帝や中国には依存せず、独立した国家の道を進むという決断をしたのである。



官房長官は茅茸首相に「この国（日本）は米帝なしには立ちゆかないんだよ」と話しているが、実際茅茸の選択は否の道でもある。



A 米帝から独立した国家の道を進むこと。

“S.A.C. 2nd GIG”用語解説

【招慰難民】

大戦で発生した難民の受け入れを中国が拒否した代わりに、復興のための安楽な労働力として日本が受け入れたもの。長河の「出島」や、核攻撃で破壊された東京を含む、計5ヵ所ある招慰難民居住区にて300万人以上が生きてる。

【ハブ電脳】

ハブとは中枢の事。複数人が電脳接続する中心となって特定方向に誘導している電脳のこと。それまでは比較的小規模のグループに見られたのみだが、クゼは300万人もの難民の意思を自分の電脳に繋ぎ止める難れ業をやっていた。

【米帝】

‘アメリカ帝国主義’などの意味ではなく、‘アメリカ帝國’という国家。本作の世界観ではアメリカは合衆国、米帝、米帝連合という3つの国に分裂した状態にあり、日本はそのうち米帝と安全保障条約を結んでいる。

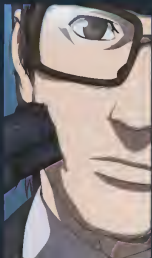


第 5 章

「S.A.C. Solid State Society」

くらこまのし

傀儡廻の章





INTRODUCTION

～序論～

西暦2034の公安9課、『2nd GIG』の2年後を描いたのが本作であり、長編OVAとして2006年に発売された。

「気づく人だけ気づけば良い」。神山監督はそう考えて『2nd GIG』最終話にて、素子を他の9課メンバーとは逆方向に走らせた。その設定が引き継がれ、本作でも『イノセンス』と同様に、9課から素子が姿を消した後のことが描かれている。そのためバトーは『イノセンス』に近い、悪夢を感じさせる雰囲気をもっており、その他の点も大きく変えられた。草薙素子という“エスパーよりも貴重な逸材”を失った9課は、その痛手から立ち直るため、荒唐は組織の拡大を決定。「ひとつの事件を10の力で解決するよりも、3つの事件を8割で解決できる組織」を作ることを目指す。

そして、トグサが実働部隊のリーダーとなっている。物語の構成については、バトーの視点で物語を描き、素子との再会をクラ

イマックスとした『イノセンス』に対し、本作ではバトーを含む9課と、それとは別に動く素子という2つの視点で描いている。その結果、事件自体が主題として大きく扱われる形となった。

その主眼だが、今まで実在した事件や起こりうる問題を、「攻殻機動隊」というSF世界の中で取り上げてきた神山監督は、今回は特に日本で深刻化している“少子高齢化問題”をテーマにした。それは、“素子がいる”という設定をシリーズ当初より踏襲してきたトグサをクロースアップすることにも繋がっている。

同時に、押井劇場版1作目の主題である、ネットから生まれた“人形使い”を、本作では“偽造品”という形で再解釈。“情報の世界から生まれた生命”について、それぞれ、インターネットが一般的ではなかった時代に考えられたものと、ネットが普及した時代だからこそ考えられたもの……という見方もできるだろう。



▶ 傀儡廻が来る！ 死にたくない！



▶ 傀儡廻か。
ふっ、悪くない名だな



カールマ将軍の息子カールマが行ったとき、カールマは自ら医療機器のケーブンを引き寄せ、自決していた。日本医師は彼の死に気づいていなかった。



STORY

～ 物語 ～

素子が去って約2年、その穴を埋めるため組織の拡大を行ってきた公安9課。テロの予兆と同時に、テロリストたちの連続自殺という事件が発生する。

▶ Solid Stateには近付くな。
ヤツらのように
自殺することになるぞ



工作員達の隠れ家を探索に行ったとき、バトーは妻子と遭遇。さらにマ・ジヤバが来る。深海作業船が壊れ暴走したあげく、マ・シヤバはひとり死んでいった。



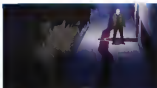
素子は「傀儡廻」の複製を打ち切る代わりに、カールマのマイクロマシンウィルスを取り除く取り引きを最終協議部と行う。バトーはこれを内心面白く思っていた。

シークレットは、空海で「傀儡廻が来る！」と言って自殺した。他にも空海に忠誠を誓う「死」の刺青を入れた工作員たちが、次々と自殺していた。カールマ将軍は自分の死と共にテロを起こすと予告しており、現在は日本で幽閉状態にあった。だが、9課がカールマ将軍の元に行くと、彼も自殺しており、テロが始まったわけではない。

一方、工作員の隠れ家である病院に向かったバトーは、そこで9課から姿を消していた素子と遭遇。彼女はその後去って行く。また、病院には誘拐された十数人の子どももいた。カールマらはこの子どもたちにマイクロマシンウィルスを感染させ、生物兵器テロを起こそうとしていたのだ。しかし、肝心のウィルスは行方不明だった。さらなる調べで、同様に誘拐されたとみられる子どもが2万人もいることが判明。これはとてもカールマらの仕業とは思えないほどの数の多さだ。そこに荒巻が、行方不明だったマイクロマシンウィルスを持って現れた。荒巻は、「傀儡廻」とは、日本政府が差し向けたハッカーで、カールマらを始末してウィルスを確保したのではないかと話す。そこで、「傀儡廻」は一旦置いておき、子どもの身元確認を優先する。だがその「傀儡廻」が9課をハッキングし、保護していた子どもを連れ去った。

時を同じくして、カールマ将軍の部下であるラジ・ブートが入団していたのが確認された。バトーとサイトーは、ラジ・ブートを追う。そして9課から消えた子どものうちひとり、トグサが自宅の近所で、いわゆる「真実老人」の家にいるのを発見した。直

▶ センパイ、すみません。子どもたちが……



▶ 返せ。その子には全財産を投資している



サイトーとハートは、ラジ・ブートを尾行、彼が狙っている狙撃対象の位置を探る。ラン・ブートとの狙撃戦は本作の見せ場のひとつ。

後、トグサは妻から、娘が姿を消したという悲痛な連絡を受ける。ラジ・ブートの方は、宗井という代議士を射殺しようとしていたところをサイトーたちが阻止した。一方、トグサの娘はあっさり見つかったが、その後トグサが「傀儡選」にハッキングされる。「傀儡選」は被虐待児などを見つけたら、親と子の脳筋をハッキングし、「養老老人」の子として書き換えていたのだ。トグサは娘を奪われるよりも自分の脳を撃ち抜く方を選びようとするが、そこへ素子が現れて寸前に止め、トグサと娘を救った。

▶ パパが手を離したら、一生懸命走るんだ

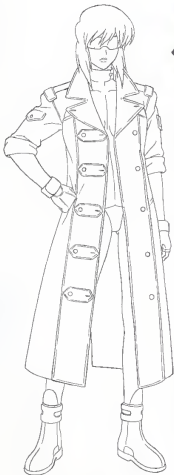
素子は、トグサへのアクセス経路を元に「傀儡選」のハブ電腦があるビルを突き止め、9課の面々と合流し、突入する。そこには大量の子どもと宗井がいた。宗井は孤児に将来の日本を背負わせるべく、ここでエリート教育を施していた。だが彼は「傀儡選」や子ども誘拐のシステムについては知らなかった。その時、コシキという宗井の部下が歩み出て自分の脳を撃つ。素子は急いで彼に接続し「傀儡選」と接触、その目的を知る。だが彼が自分を撃つたのは、こうして素子に有線接続させるためだった。「お前は誰だ?」と問いかけるうちに、素子の意識は薄れていく……。

その後、素子は9課で目覚めた。結局一般には「傀儡選」のことは不明で終わるが、誘拐システムは利用した。そして単独で行動していた素子だが、それにも限界を感じ、9課に戻ることを選択する。ネットの広大さと、新たな社会の誕生を感じながら……。



「傀儡選」に捕られて脳を奪われるよりも、自分の脳を撃つ方を選ぶトグサ。素子のマテバをこんなことを使うとするが……。





CHARACTERS

～登場人物～

9課の主要メンバーは、基本的に「2nd GIG」までのデザインを踏襲している。素子は衣装が変わり、多くの機体が増ったほか、9課の新人についてもいろんなタイプの人物が描かれた。

委ねてみるわ、ゴーストの囁きに



ゼプロXC-28



ゼプロM-10



公安9課

Kusanagi Motoko

草薙 素子

黒髪で、巨大な敵と戦っていたアオイやクゼの影響ゆえか、9課から去る前、複数のリモート機体を使い「組織的方法論では対応できない事件」に密かに介入し「個人的捜査活動」をしている。その中で糸井警部と契約し、カ・ルマ情報も譲け負う。もっともカ・ルマ情報は長向きで済まらずだったが、「傀儡廻」に先を越されてカ・ルマは既に自腹に抱い込まれていた。そして事件の真相を遡るうち、9課と邂逅する。



素子の機体

▶ 傀儡廻の正体に心当たりがある



公安9課

Bato

バトー



ハンドスーツ

9課に降り立つ、新人の訓練教官をしながら、素子が関わったような事件にたびたび目をつっこんでいた。糸井からの9課の隊長になる誘いを断っている。自志の中で、素子が「傀儡廻」ではないかと疑い始める。

▶ お前たちに娘は渡さない



公安9課

Tagusa

トグサ

「バトーが新った9課実働部隊の隊長となり、身体も一部機体化した。また、それまで家業には「民間警備会社で働いている」と言っていたが、公安にいるという真実を打ち明けた、仕事と家庭を両立させている。

・緊急事態が発生しました。
レベルEクラスのウィルスを確認



公安9課
Operators

オペレーター

A1のオペレーター。手は押井劇場版と同じくキーボード操作作用の形に高度化可能で、イシカワらが同行不明の子どもの情報を調べてトラップにかかったときに対応している。

・カ・ゲル大佐の死は、
逮捕時のミスという報告もあります



Kayabuki Yoko

茅蒼よう子

『2nd GG』と同じく、真相として登場。ゴードラの起こした事件を乗り切ったためか自信が見られる。9課との繋がりは依然深い、赤松善治郎にカ・ルマへの対応を指示してもらい、

・お前、再婚を考えたほうがいいぞ。
孤独な年寄りは惨めだ



Katsuta

久保田

軍情報部長。他然花老との縁は深く、殿田の見舞いにて美香と再会した時、ラジ・プートが入国した情報を美香に伝えた。元々軍情報部にいたアズマを9課に紹介した人物でもある。

・鷹が鷹を生んだようでうれしいぞ



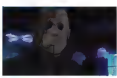
Taniya

殿田

赤虎一等陸佐と呼ばれた。荒巻や久保田のかつての上官。アニメでは顔がわかっていないが、原作では汚濁を汚者に暴かれている。久保田が言った「刑罰所でのストレス」とはそのこと。

ナースロボット

・これも傀儡か。惜しいな、
いい腕をしているのに



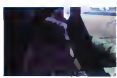
赤松善治郎

Nakamura

中村

外務省赤松副部長。どこまで具体的に処理が指示されたかは不明だが、美香によると、総理の命令のもとカ・ルマの問題を解決するための暗殺を計画。そのために雇ったのが菓子だった。

・知るか。だとしたら
自殺でもしたかったんだろ



シアク共和国

Raj Puhta

ラジ・プート

シアク共和国軍中尉。カ・ルマの親衛隊長である準砲スナイパー。カ・ルマ報道者の情報提供と引き替えに旗本の射殺を依頼される。だが実際には「偽造品」に誘らされていた。

▶ 公安ごときがいらぬ正義感で
チョロチョロしている場所ではない



Muneo Niteshi

宗井 仁

‘純潔の日本人による支配階級’を公約に掲げた反動保守ナショナリストの代議士。製薬開発センターで子どもにエリート教育を行っていた。手を義体化しているが電脳化はしていない。そのため‘真偽網’は彼をゴーストハックして自覚に追い込むことができず、ラジ・ブートに殺させようとした。

▶ 私がSolid State Systemの
基本概念を作りました



Kosbiki Tateaki

コシキ・タテアキ



宗井のために Solid State System の基本概念を作ったとされる人物。リモート義体で、官僚として次々と業績をこなしていたが、実際には2年前に死亡しており、そのころに宗井のプロジェクトに参加。義体を‘真偽網’と思われる者が操作して、プロジェクトを進行させていた。



宗井の手

シアク共和国
Ma Shaba

マ・シャバ

カ・ルマの特殊工作員うちのひとり。深海作業船の密閉空間なら爆発を誘発してゴーストハックされるのを助げると思われ、それで奥手を‘真偽網’と見込みで攻撃してきた。だが結局義体を暴走させられ、その衝撃によって死亡した。

シアク共和国
Ka Guel

カ・ゲル

カ・ルマの息子で、階級は大佐。カ・ルマと連絡を取り合い、マイクロマシンウイルスによるテロを計画していたが、仲間の次々と‘真偽網’によって自覚に陥り込まれたため、日本政府に保護を求めようとする。だが自分も自覚させられた。

シアク共和国
Ka Rum

カルマ

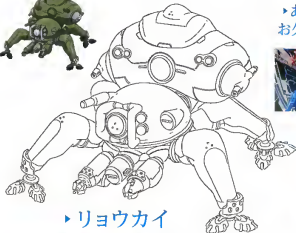
シアク共和国の旧統治者。シアク原爆症に日本に亡命し幽閉される。権力を奪われた時、その報復として自分の死と共に世界に恐怖をまき散らすと宣言していた。だが子口を実行する前に‘真偽網’によって自覚に陥り込まれた。



MECHANICS

～メカ～

基本的なメカデザインやコンセプトは過去シリーズを踏襲しているが、一部車両は日産とのコラボ企画で、実車のモデリングデータが利用されている。



▶リョウカイ

▶あ、パトーさん
お久しぶりです!



▶やっぱり物理的の身体があると
疾走の爽快感違うね



UCHIKOMA & TACHIKOMA

ウチコマ&タチコマ

パトーが飛行試験したが、ウチコマはタチコマのようなA1には成長せず無機質だった。だが、タチコマのバックアップデータが素子がサルベージして復活する。

タチコマエージェント

電脳空間で素子を居住するタチコマA1。素子によりマックス、ムサシなどとそれぞれ名がつけられている。



DEEP-SEA SHIP

深海作業艇

マ・シヤバが電波を遮断するために乗り込んで使った。その名の通り観望用ではなく深海作業用で、スライクも作業用だが初任設計のため装甲が薄い。

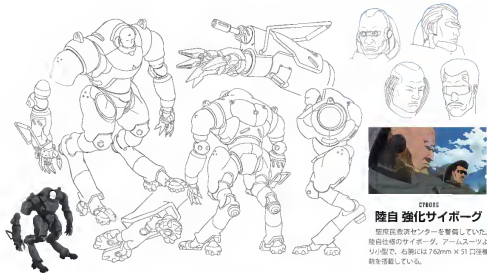


SEABO ROBOT

警備ロボット

警備員訓練センターに配備されていた警備用ロボット。機体自体の性能は高いがA1の戦闘プログラムは未熟で、次々と素子から破壊されている。





CYBORG

陸自強化サイボーグ

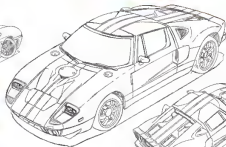
陸原匠造センターを管轄していた、陸自仕様サイボーグ。アームスーツより小型で、右腕には762mm×51口径機関銃を搭載している。

CARS
車両美子のクルマ
フェラーリF430

フェラーリF430がベースのカスタム車両。ガラス磨りなど各所にセキュリティが施されているが、マ・シバの深海作業艇に譲られた。

バトーのクルマ
フォードGT

1960年代のレーシングカーであるフォードGT40の複製モデルをカスタムしたもの。自分の車を壊された美子に奪って行かれてしまう。



日産車

9課の公用車として登場したSUV。他にトグサの自家用車も日産とのコラが車両である。



荒巻のクルマ

駐車場にてバトーが持ち帰って乗り込み、荒巻と会話したときの車両。

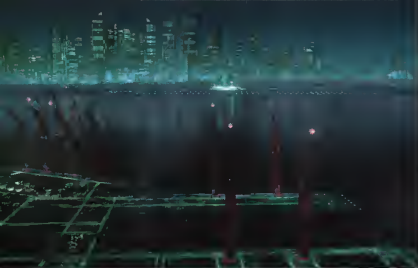
バトー追跡車
ボルシェリスビッドトップスター

バトーがラジ・ブートの乗ったタクシーを追跡した時に使った9課の車両。ボルシェリスUVがベース。



9課公用車

ラジ・ブート追跡時に、サイトが乗っていた9課の公用車両。



冒頭で美子が立つクレーンや駅の風景。カメラがくもりと回り込む場面が印象的だが、表題する『30』層ではさらにインパクトが強い。



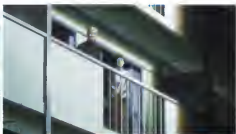
LANDSCAPES

～ 風景 ～

本作の舞台も新浜市である。もともと『S.A.C.』シリーズでは実際の日本に近い風景が多用されているが、本作でもそれが継承され、同時に背景は本作テーマの一部を描いているとも言える。



本作では、近未来的なデザインの風景は特に少ない。美子のセーフハウスであるマンションや、カ・ルマの画廊先などはその数少ない中に含まれている。



高齢者が多く住むアパート、古びた水まぎの看板、いかにも実用が存在しそうな病院など、現代日本のリアルな風景が垣間見られる。

神山の「SAC」シリーズにおける「SFになりすぎない、現実世界との地続き感を出す」という基本コンセプトは、本作でも貫かれている。今回、現代社会と地続きの問題として扱われているのが、少子高齢化である。作中に登場する“貴腐老人”は、全自動老人介護システムに繋がり、最低限の指図が伝えられた状態で時々と生かさながら入るひとり暮らしの老人たちだ。この介護システムは、当初、老人の孤独死を防ぐと期待されたものの、結果的に種々老人の増加を助長し、インカウ曰く「体のいい遺棄回収システムなんて押論されている」状態である。

このような設定を受けて、老人たちが暮らす作中の住宅地の光景は、非常にリアルだ。トグサは「2nd G&G」の後に引越した設定になっているが、彼の家の近所で、行き知れずになっていた子どものひとりが発見された。町の景観は、現代の日本のどこにでもある住宅地だ。そして、ベランダなどからトグサの様子を静か

にうかがう住民たちの行まいが、リアリティに拍車をかける。

一方、クオリティ面で特筆すべき点は2つある。1つ目は、本作では全編を通して3Dレイアウトシステムを採用したこと。これは作業の前に、建物の内部などのレイアウトを先に3Dで組んでしまうもので、坪井劇場版「GTS」で紹介したものの3D版である。2つ目は、さらにライティングボードを用意したことだ。ライティングボードとは、光源の位置を明確にすることで、どの場所にもどの角度で光が当たり、どの部分が影となるかという検証の元となる画である。これは美術監督の竹田繁介が手がけた。おかげで、本作冒頭のクレーンのある港をはじめ、とりわけ明暗のあるカットで、リアルかつ美しい印象を観る者に与えてくれる。

時に美術は、あまり意識されにくいものかもしれないが、本作を鑑賞する際は、そのあたりに注目してみるのも面白いだろう。





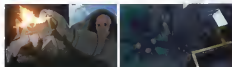
▶ごめんな、さよならだ。……愛してる



THE LAST SHOT

～ラストショット～

明らかになる Solid State による誘拐のインフラ。その裏にはまり、抗おうと自分の頭に銃口を当てるトグサ。Solid State System は排除されるべきなのか？



▶バックアップをもう少しで制圧できる



▶まかしとけ、
いつだってそうしてきたろ



▶ギリギリのタイミングまで
引張ってしまった。
すまなかったな



電脳化している標のゴーストをハックし、子に電脳化手術を受けさせる。それから親と子それぞれの記憶を消し、子には、新しい親として老人をあてがう。それが「傀儡師」が守ろうとしていた Solid State System だった。トグサはそのシステムに囚われ、自分の娘と、娘がいたという記憶すら奪われるところだった。それよりも自分の死を選ぼうとしたトグサ。バトーが救出に駆けつけようとするが間に合わない。だが、間一髪でトグサを助けたのが素子だった。彼女はトグサを助け、"傀儡師"の正体を突き止めようとしたのである。

そして、Solid State のハブ電脳機の所在地が、聖直民教済センターであると判明する。トグサたち9課の面々が外の警備サイボーグを引きつけている間に、素子は教済センターの建物の中へ。ただ、バトーだけは、素子と共に施設内に入り、素子の背中を守った。そして素子は施設のシステムを掌握し、子どもたちを発見する。

そこは、宗井が作った、エリート児童の洗脳教育施設となっていた。だが宗井は、子どもは皆、孤児だと思っており、誘拐されたとは知らなかったという。その時、Solid State System の概念を作ったというコシキが参り出た。彼は、自分の右腕に銃をあてると引き金を引いた。素子は彼にダイブ。彼とのやりとりで素子は、



▶そして私のことを知っている。お前はいったい誰だ？



空を飛ぶコシキの顔。中にはアオイ、ゴード、クイも。彼らは強制的であったとしても、私欲のためではなく、自らが生かされる理想のために動いた者たちだ。



▶まだわからないのか？ 草薙素子



Solid Stateの存在を知る。即ち、虐待されている子どもたちを早期に発見し、彼らに新しい親を与えていること。貴腐老人たちがその親となり、自分の財産を、国に没収されるのではなく、その子らに譲り渡していること。そして素子は知る、今まで追ってきた“傀儡”の正体を……。

ラストに至るまでの場面は、一押し版「攻殻機動隊」に対する複数のオマージュを感じさせる。再会した素子と共に進むパトーは、『イノセンス』でのロクス・ソルスのプラント船内を思わせるし、白い警備ロボットは、ガインイドを連想させる。さらに素子とコシキが接続した場面は、劇場1作目で素子と“人形使い”が接続した場面の再現と言える。素子とコシキの会話をモニターしていたパトーが、強制的に切断しようとして顔が動かなくなる場面はまさにそのままだ。だが“傀儡”とは異なる場所から生まれた。素子の目の前で次々と変化するコシキの顔は、最後には素子になった。素子自身が“傀儡”を生んだのだ。そしてこの接続で、素子と“傀儡”は融合したのかもしれない。

また、物語は劇場1作目とは異なる結末を迎える。素子は9課に戻り、ネットのように広がる街を、パトーと共に見る……。

▶パトー、それにしてもネットは広大だわ

▶もうすでに私たちの知らない次の社会が、生まれ始めている

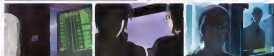




謎解き『S.A.C. S.S.S.』

“S.A.C. S.S.S.” Mysteries and Answers

Q1 結局、“傀儡廻”とは誰だったのか？



マン・フタバがいた病院から、素子がサーフハブスのマンションに戻ってきたとき、コシキとすれ違っている。ラストでは素子が常務するリポート機体の中に、コシキの身体も並んでいた。

Solid Stateを作った人間が“傀儡廻”だと考えるのが妥当だが、本物のコシキは2年前に死んでいた。これは、ちょうど素子が9課を離れた頃と一致する。また素子が用意していたリモート機体の中に、コシキの機体もあったことが映像で示されている。さらに、素子とコシキが接続したとき「これほど身勝手な正義感を持ち合わせている人間はそうはいない」とコシキは語り、その「正義感」を持つ者たちの数々の顔が素子には見えた。さらにコシキは「集団的深層無意識がひとり歩きし始めてもおかしくない」と語っている。つまり、数多くの「正義感」を持った者を見てきた「素子の無意識から生まれた存在」と考えるのが自然だろう。

A 無意識のうち独自に動き出した、素子の深層心理。

Q2 シアク共和国のテロリストたちの目的は何だったのか？

独 裁者だったカ・ルマは自分が失脚したことの報復として、無差別テロを行うと宣言していた。その方法は、子どもたちをマイクロマシウィルスに感染させて町に放つという、無差別生物兵器テロである。一方、コシキは「システムに介入してきた者たちをパージした」と語っている。カ・ルマに従うカ・ゲルらは、恐らく Solid State System を発見し、このシステムを利用して子どもに病気を運ばせようとしたのだろう（ラジ・ブートも Solid State を知っており、実体について話している）。そのため“傀儡廻”にパージされた、つまりゴーストハックされ、自殺に追い込まれていったのである。



トグツキが病院で保護した子どもは実の親の記憶が消され、住所も真実老人の裏になっていたため、Solid State Systemの子を奪ったと考えられる。



過去のカルマ



A 子どもを、ウィルスを運ぶテロの道具にしようとした。

Q3 なぜラジ・ブートは宗井仁議員を暗殺しようとしたのか？



ラジ・ブートは、「二重スパイ」の宗井から「カ・ゲル将軍を殺した真実を教える代わりに機密を奪う」と依頼されたが、その機密にそれが宗井だった。彼は「傀儡選」に偽の情報を与えられていた。

ラジ・ブートは「傀儡選」により、「カ・ルマ将軍を殺した人物の情報」という餌を与えられて宗井を撃とうとした。ではなぜ「傀儡選」は宗井を排除しようとしたのか？ 宗井は洗脳教育で子どもをエリートにしようとしていた。だが、コシキは素子と接続したとき「(子どもに)教育は必要だが、野に放たなければ強い意志は芽吹かない」と語っている。宗井の教育方法では駄目だと考えた「傀儡選」は、彼を排除することにした。だが宗井は電脳化していないため、ゴーストハックして自爆に追い込むという、カ・ゲルたちに対して行っていた方法が使えなかった。そこで代わりに、ラジ・ブートを操って射殺させようとしたのである。

A 宗井の教育方法を否定する「傀儡選」に、操られたため。

Q4 Solid Stateとは何だったのか？

Solid State は色々な意味に訳せるので、各方面から探ってみよう。まず、ラジ・ブートはバトーに尋問されたとき「誘拐のインフラ」と語っている。これは文字通り劇中でトグサが娘と経験した、親の電脳をハッキングして、まだ電脳化していない子どもには電脳化手術を受けさせる、それから親子それぞれの記憶を消し、子に新しい顔を与えるという一連のシステムだ。また、トグサが見つけた貴腐老人は「Solid Stateに住む者たち」と言っていた。これは多数の貴腐老人たちの電脳によって構成されたハブ電脳と解釈できる。

A 貴腐老人の電脳で構成された、子どもを誘拐し新たな里親を作るシステム。



行方不明の子は約2万人だが、宗井の電脳にいた子の数はずっと少ない。残りの子らは、どこかで新たな生活を送っているのだろうか。

「S.A.C. S.S.S.」用語解説

【貴腐老人】

全自動老人介護システムに繋がれ、悪徳団の計画だけ跳された状態で、まるで真実を知覚のようにひからびて眠っていく老人たちのこと。貴腐老人たちは、ネットに繋がれることで、かつて寝たきりが助長されてしまった。

【聖虎民教済センター】

表向きは、老人介護と職業訓練を提供するための福祉施設。だが教育区画では、長尾（実際にはSolid Stateが誘拐した被害者など）を、エリートに育て上げるための洗脳教育の場所が用意されていた。

【京レの隠れ番】

「京レ」はメーカー名で、「隠れ番」は熱光字発光の別名。この言葉に対しトグサは「3302式は隠れ番とは呼ばない」と答えている。この前2桁の「33」とは採用年度（2033年）、下2桁の「02」は改良型を示す型番。

攻殻機動隊 S.A.C. SOLID STATE SOCIETY 3D

3D立体視映画として再構成された『SOLID STATE SOCIETY 3D』。
2011年に劇場公開された、この作品の特徴を紹介する。

CGをすべて作り直して、3D立体化

3Dメガネをかけて視聴することで、映像に立体感がついて見える3D映画。実写ではもう珍しくないが、本作ではアニメでそれを行っている。

一番わかりやすいのは、キャラの主眼で見たときに表示される電脳通信ウィンドウなどが、浮き上がって見えるようになったことだ。また、人物や物が並んでいるとき、奥にあるものは奥に、手前にあるものは手前に見えるように、立体感がつけられた。さらに、ひとりひとりのキャラクターについても、例えば前髪、顔、後ろ髪、服の襟などに立体感がつけられており、決して「のっぺりとした書き割りの人物画が前後に並んでいるだけ」には見えないよう、細かく立体情報が与えられている。

この「立体感をつける処理」を行うため、電脳画面は徹底して作り直された。簡単に説明すると、既にある1枚の絵には「どれくらい奥、あるいは手前にあるか」の情報しかつけられない。そのため、半透明の絵を重ねた後の映像を（煙などの自然効果表現

なども含めて）、レイヤー（実行きの層）ごとに分けて再度処理している。また、スクリーンの左右に見切れている映像に対して前後の情報を与えると、画面が狂ってしまう可能性があるため、見切れていた電脳ウィンドウなどもすべて作り直された。

そして、3Dメガネ越しだと、サングラスをかけたように画面が通常よりも暗く見えてしまうため、全体を通して色の調整が行われた。ただ明るくするだけでなく、新たな演出意図によって色味が変えられているカットもある。

とはいえ、当時の3D視聴の一般性などを鑑み、基本的には、本作の映像は2Dでの視聴を前提として作られた。しかし、オープニングに限っては、3Dで観ることを前提とした完全新作映像が作られ、差し替えられている。

本作は『ANOTHER DIMENSION』のタイトルでBlu-ray 3D版も発売されており、再生環境が整っていれば、家で3D版を観ることが可能である。



3Dで観ることを前提として再構成され、新たに作り直されたオープニングの映像。フルCGではなく手描きのカットもあり、その絵にもしっかりと奥行きがつけられている。

監督・神山健治ワールド×攻殻機動隊

The World of Director Kenji Kamiyama GITS

SFに馴染みがない人にも受け入れられやすいよう、実社会との“地続き感”が盛り込まれてきた神山版『攻殻』。その中で焦点となったキャラクターと、現代が進むべき明日の社会を考える。

トグサ、タチコマ、素子の考察。 そして、現代社会は作中で先取りされてきた 世界にようやく追いついてきた



神山健治の『攻殻』に登場する9課のキャラを3つの焦点にし
るなら、トグサ、タチコマ、素子といったところになるの
ではないか。神山によるとトグサは、「若い頃の荒巻」という位置
づけだったそうだ。若さと正義感に溢れる彼は、第1シーズンに
おいて、『笑い男事件』解決のための最初の手がかりを掴み、「笑
い男」の正体を当て、最終話では、自ら「笑い男」の機體者になり
かけた。またトグサは、『SSS』では、素子の代わりに9課の隊長
をやっている。タチコマについては、神山はTVシリーズを「最
後は9課を元の状態にして、原作者に返す」ことを前提としてい
たという。そのため結果的に、タチコマは9課のメンバーになり
代わって、成長し、自己犠牲まで発揮し、視聴者に感動や笑いを
提供する役を演じきった。そして、主人公の華峰素子は「9課を
元の状態に戻す」という先的前提に対し、「『2nd GIG』でクゼと離
脱した素子を、元の状態に戻すのは難しかった」と神山は語って
いる。そのため、『2nd GIG』の最終話で「素子は9課を去ったか
もしれない」というゴミックが仕込まれ、それが『SSS』におい
て「去った素子が戻ってくる」という、新たな物語が作られる伏
線となる。そして、『イノセンス』とは違った形で、素子はパト
ーと再会し、帰還するまでの物語が紡がれたのである。



ちなみに、インターネットがまだ一般に普及していなかった時
代、もしくは黎明期に、原作(1989年〜)は描かれ、押井の劇場
版(1995年)は公開された。その後、ネットの急速な進歩と普
及、情報伝達速度の高速化により、個人が自由に情報発信するの
があたりまえの世界に我々はいる。つまり、ネットがより身近に
なってから作られたのが、神山版の『攻殻』である。

そして、技術の進歩と共に、この現実世界でも「機體者」は以
前よりも生まれやすくなったし、「英迷」も仕立てやすく、「水も
任気に流れ」やすくなっていると感じる。個人がネットで巨大な
ムーブメントを起こし、集団がネットで「総意」を形成しうること
も現代人は知っている。それらは、神山版の『攻殻』が当時先取
りしていた「地続きの未来」に、我々や現実社会のほうが進い
てきているからにほかならない。

現代人は四半世紀かけて、広大な情報の海へと漕ぎ出で、ネット
に Society を築いてきたと喜ぶ。我々の社会が今後とも『攻殻』
をなぞらえてゆくのだとしたら、次に現れるのは何であろうか。



Kisaku Tanaka × Maaya Sakamoto /

田中敦子、坂本真綾

W素子・声優 スペシャル対談!!

W素子の「夢の対談」が実現！ 押井監督版&神山監督「S.A.C.」シリーズの草薙素子役・田中敦子さんと、「ARISE」シリーズの草薙素子役・坂本真綾さん。会うのは他作品の現場以来1ヵ月ぶりというお二人に、「攻殻」のアレコレを聞きました。

素子役を敦子さん以外の方がやるのなら
“自分がやる”ということでは
自分自身を納得させることはできないぞ、と
by坂本

—お二人がこういう形で対談をされるのは今回が初めてということですが、お二人が初めてお会いされたのはいつですか？

坂本 外高（部外の作品）の吹き替えで、私が中学生の時ですね。

田中 確かNHKの番組で、もう20年以上前ですかね。真綾ちゃんはレギュラーで、私は何回かゲストでお邪魔させてもらって、真綾ちゃんは本当にキラキラ輝いて見えました。

坂本 いや、守りや（笑）。

田中 まず名前に衝撃を受けましたね。私たちがみたいな卑かな名前じゃなく、素敵名前だなと思って。

坂本 私も昭和生まれです（笑）。私は子役だったので、大人に囲まれてずっと緊張していました。田中さんとは何回もご一緒していて、その中で姉妹の役をやったこともあります。

田中 4人くらい姉妹で、私が長女だったドラマかな？

坂本 そうですね。私が末っ子の役だったんですけど、私には女兄弟がいなくて、「こんなお姉さんが欲しかった」と思いながら現場で酒を酔っていたのを、よく覚えてますね。

—坂本さんは最初の「攻殻機動隊」でも幼い姿の素子を演じられていますが、田中さんとしては「ARISE」で坂本さんが素子を演じられると聞いたとき、どう思いました？

田中 そうですね。キャストについているいる経験があったということはいGの田中社長からうかがっていますが、最終的に真綾ちゃんが演じられるというのを聞いたときは嬉しかったですね……私が言うのは変ですけど、やっぱり真綾ちゃん以外に考えられないし、それが一番だろうって。

—坂本さんは「ARISE」で素子役をやる時、どう思われました？
坂本 ……それについては、話したいことがいっぱいあるんです（笑）。最初のオーディションでは「攻殻機動隊」とは知らされず、ただ「刑事モノ」ということだったんですね。で、スタジオでの二次オーディションのときに、それが「攻殻」の素子役だと知り、「え？ 何かの間違いじゃない？」って。元々私自身が「攻殻」のファンでもあったので……。でも、キャストが変わるということですので動いているのなら、私がファンとして見たとき、敦子さん以外の声だと相当違和感があるし、多分みんなそう思うだろう、そしてその批判を受け止められるのは、やっぱりこの作品がもともと好きな自分だけだろうという思いもあったんです。

—なるほど。
坂本 素子役を敦子さん以外の方がやるとしたら、他の誰かでは到底納得できない。これは“自分がやる”ということだし

か、自分自身を納得させることはできないぞ……と、

——そうですか、それはなんだかわかる気がしますね。

坂本 それに、もしこれまでの延長線上の素子であれば「できません」と言うところだったんです。けど、『ARISE』は「未熟で失敗もする、過去の素子の話」ということだったので、「それならば」と思いました。ただ気がかりだったのは「数字さんはどう思ってるんだろう？」という点で……そこは、ちょっと怖かったんです。

田中 そんなそんな（笑）。やはり声優の仕事をしている以上、私も他の方がずっと演じられていた役を引き継ぐ経験もあります。そのことの大変さや、引き継ぐときの気持ちは知っていますから。

坂本 ありがとうございます。でも、その頃ちょうど1年ぐらい会う機会がなく、『ARISE』についてお話しする機会もなかったです。

田中 そうだね、会ってなかったね。

坂本 その間に、これまで「トニー」を演じていらした（大塚）明天さんに会う機会があって、「おい、『攻殻』やってるらしいな」って言われたんです。その時「数字さんはどう思われているのでしょうか？ 私、まだお会いできてないんです」って言ったら、「……わかんねえな」と言われてまして。それでやっとお目にかかれる機会が来たとき、「真綾ちゃんがやってくれるなら」って言ってくださって、だけど、数字さんとしてはそう言うしかないですよ（笑）。

田中 いやいや、作品を本当に尊敬で観たとき、やっぱり「若い素子」は真綾ちゃん以外に考えられないし、『攻殻機動隊』という作品の斜線なファンの方たちも、本当にそう思うだろうと考えていました。

坂本 そんなことはないですよ（笑）。ただ、今までは、視聴者として「素子は今何を考えて、この言葉を言っているんだろう」という立場だったのに、その素子を演じさせてもらったことで、内側から素子を見る機会が与えられたこと

はずすごく栄に思ったし、興味深かったですね。

——ちなみに田中さんは「ARISE」をご覧になりましたか？

田中 実は……私はまだ観てないんです。決して観たくないわけではないんですけど、やっぱり観るのからちょっと怖、自分もあるし、まだその時ではないということから……ですから自分が一番いい状態のときと、真綾ちゃんの『ARISE』の素子に出会いたいと思っています。

——^{田中}思ってみると、もともと二人は、押井守監督の劇場版『攻殻機動隊』で最初に素子を演じられたわけですが、

田中 当時は、私も役者としての経験が短かったので、「セリフには感情を乗せるもの」と思って仕事をしていたんですけども素子はオーディションの時から押井監督や若林（和弘）監督に、「セリフの感情を取り払って、世の中を透視したような枯れた感じにして、抑揚をなるべくつけず」とアドバイスをいろいろいただいでいく中で、徐々に「素子はこういう女性的なかっこ」と感じていった形ですね。

坂本 私は、当時15歳くらいで、「素子という人中の身はそのままで、体だけ違う状態」という説明をされました。アフレコの段階ではまだ録も完成してなかったですね。

——実際に完成した映像をご覧になってどうでした？

坂本 今みだいにネットなどが身近になった時代なので、理解するのが大変でした。「素子の本来の声のチャンネルが一眼だけ合わずに出てきたのが、あの声（ラストの少女義体の声）だった」というのが観てわかり、すごく大事な役だったんだなということも、後から実感しました。

田中 私も、最初は「難解だな」という印象でした。やはり役者としては、自分のセリフの意味を理解してしゃべりたいと思うので、しつこいくらい「これはどういう意味ですか？」と質問しながらアフレコに臨みましたね。そこで、押井さんの描こうとしているものは、セリフは単に意味を伝えるだけではなく、映像や音楽のように、風景の一部

やっぱり、“若い素子”は 真綾ちゃん以外 考えられない

by 田中



『ARISE』の思い出。坂本さん曰く「やっぱり『そう囁くのか、私のゴーストか』というborder : 4のセリフは、『これを言うことには……』と感涙深い気持ちになりました。でも、アフレコの時、真綾さんの声に気が入りすぎて泣きたいで、音響監督さんに『そのセリフ、もう少しさがりがなくて』って書いてもらいました」。



田中さんの『攻殻』の思い出は、PSC第2話の「美空の証明」。青年・加藤タケシは究極に自らの命を全米戦車HAWK6に押し、「美空の体」を奪った。

であっていいのかなとか、いろんなことを考えましたね。

その後、TVシリーズの「S.A.C.」から「Solid State Society」までの素子を振り返っていかがですか？

田中 やっぱり人の気持ちや感情や感覚って変わるもの定まっているのがあります。「S.A.C.」第2話「暴走の証明」をやったときに、神山さんとよく「鋼鉄の体が欲しい」と話していて、それさえあれば何でもできるって思っていたんです。でも今は鋼鉄の体じゃなくて、必要なのは「タフな脳筋だ」と思うようになっています（笑）。時の流れで、色々変わっていったん、ということを感じている時今です。

坂本さんが「ARISE」で古い素子演じるにあたり、意識したことや、監督から指示されたことはありますか？

坂本 それか、監督や言語監督からは、何となく「何も言われなかったんですよ……」。私としては、素子をやるとわかったあとは、「あえて」TVシリーズや劇場版を観たことにはないようにしました。観てしまうと鉄子さんのモノマネになってしまう気がしたので……。

あえて、観返さなかったんですね。

坂本 ええ。私の記憶の中にある素子を信じて、そこにうまくスライドさせていけば、若くて未熟な素子ができるかなと。「ARISE」の素子はわりとオトオタしていますが、先ほど鉄子さんがおっしゃったように、私も素子演じるにあたりいろんなものをそぎ落とそうとして大変でした。

田中 大変だね。感情をそぎ落とすのは、オーバーに表現するほうがどちらかといったらやりやすいよね。

坂本 はい。昔頃は感情を抑えているからこそ、時々見える叫びや表情などの魅力が再現できたら一番いいんですけど、それが難しく、本当は鉄子さんに相談したかったくらい気持ちでしたけど、ひとりでやらなきゃいけないことなので、すごく孤独な作業でした。

——坪井監督の劇場版のほかに、「S.A.C.」に出てくるコードモトも坂本さんの演じられています。が、「ARISE」の素子との連続性みたいなものは演じる上で意識されたんですか？

坂本 それは意識しなかったんですけど、言っていた望みをまた私がやるっていうのは、嫌があるなと思いました。ただ、TVシリーズの時は、鉄子さんの素子をめちゃくちゃ研究してからアフレコに行きました。そういう意味では「ARISE」も、演じる上でのアプローチが全然違いますね。

田中 真鏡ちゃんは、今は過去のシリーズを観たりするの？

坂本 そうですね。先日、TVで「攻殻」が再放送されていた時、普通にひとりの視聴者として観ました。そうしたら、田中さんの素子は、やっぱり自分が演じた素子とは全然違うんですね。違うんだけど、「私の好きな素子」が確かにそこ

にいるっていう感じが、嬉しかったですね。ちなみに、「新劇場版」で素子は成長したので、多分、私が素子演じることはもうないんじゃないかと思ってるんですよ。

田中 ええっ？

坂本 実際、私にとっても、他の方々にとっても、「草薙素子の声」といった絶対に致さずなんですよ。

田中 いやいや、「ARISE」は真鏡ちゃんだから……。

坂本 でも、私はたまたま「ARISE」という素子の一部をやったという形で、「一時代をやらせていただきました。ありがとうございました」という気持ちなんですよね。

——その「攻殻機動隊」がこの度ハリウッドで実写化されたということについて。お二人はどう思いましたか？

田中 私は、「ハリウッドが日本のアニメを取り上げてくたさって素敵だな」という印象でした。そういえば、昨年の夏にカナダのモントリオールで開催されたアニメのコンベンションに呼んでいただいたとき、「ハリウッド版の「攻殻」についてどう思いますか？」と、たくさん聞かれました。

坂本 その時、どう答えられたんですか？

田中 私たち声優としては、「ハリウッド版が日本語吹き替えされる時、誰が吹き替えを担当するかが、日本の声優陣の中で一番の関心事です」といったことをお話していました（笑）。

坂本 あー、それはありますよね（笑）。

田中 あと主演のスカーレット・ヨハンソンさんは「少女」ではあるけども、ミラという役名でそうですよ。

坂本 複雑なんですね。素子ではないんですけど。

田中 そこは謎だそうですね。楽しみです。

——最後に、お二人にとって草薙素子とは？

田中 私は素子に会えていなかったら、多分今の私はいなかったと思います。だから、パートナーと言ったら変ですけど、私の声優人生の中で「ずっと一緒にいてくれた人」という感じですね。今、私は彼女の脳内年齢を超えてしまっているかもしれないけれど、まだ「この先もパートナーでいられるように頑張っていかなきゃいけないよ」と思い、自分を鼓舞して生きていきたいと思っています。

坂本 何ででしょうね……。『ARISE』の「もがいている素子」は、「彼女にもこういう時代があったんだ」というのがわかってとても励みになった一冊で、こんなに楽しいミッションもないなと思いました。いつか私が今後「坂本ちゃん」と駄目死んで言ってももらえるキャラクターに巡り合う日のための糧になりました。『若い素子』という思いも込めて、彼女には本当に良かったし、誇らしいです。



Atsuko Tanaka 田中鉄子

なにかあつこ ●誕生日/11月14日、群馬県出身。『GHOST IN THE SHELL』攻殻機動隊、『イノセンス』、『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』シリーズで草薙素子役を長年演じる。数々のアニメやゲーム、ナレーション、ニコール・キッドマンなどのハリウッド女優の日本語吹き替えなどで多数出演。Twitter @atsuyoyoko



Mnaya Sakamoto 坂本真鏡

さかもと まなづ ●誕生日/1980年10月31日、東京都出身。『攻殻機動隊ARISE』シリーズで草薙素子役。それ以前にも少女演者の美少女役で『地上』に出演。お笑い子役役として活躍し、歌手としても、声優、女優、タレント、エッセイ執筆など多方面活躍。公式サイト <http://www.jcmusic.co.jp/mnaya/>

黄瀬和哉の攻殻

黄瀬和哉の攻殻 Kise's GHOST IN THE SHELL



「攻殻機動隊」
ARISE
GHOST IN THE SHELL

2013年6月～2014年9月「攻殻機動隊 ARISE」劇場上映
2015年4月～4月「攻殻機動隊 ARISE ALTERNATIVE ARCHITECTURE」放送

攻殻機動隊

GHOST IN THE SHELL

新劇場版

2015年6月「攻殻機動隊 新劇場版」公開



第 6 章

『攻殻機動隊ARISE』

～陸軍 501 機関の章～





INTRODUCTION

～序論～

今まで西暦 2029 年以降を描いてきた『攻殻機動隊』シリーズだが、遡って 2027 年からの、草薙素子らが公安 9 課のメンバーになるまでを描いたのが本作である。

本作で総監督を務めたのは黄瀬和哉。『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』、『イノセンス』などで作画監督を務めた人物だ。黄瀬は 2011 年に公開された短編映画『たんすわらし。』で初監督を務めたが、それを観たプロダクション I.G 社長の石川光久は「演出の才能がある」と考え、黄瀬を起用することにしたという。

もっとも、黄瀬は当初何の企画も知らず、「『引き受けると言うなら企画の内容を教える』と言われ、好奇心に負けて引き受けた」と語っており、それから「これ以上、『攻殻』で何を作ればいんた!」と途方に暮れたとか。だが本作では、小説やアニメ脚本などで多数の SF 作品を手がけてきた沖方丁がシナリオを担当。黄瀬と沖方は相談の上、「今までの話の続きとなる 9 課を描く

のは難しい」として、「前日譚」の物語を作ることと決定。原作者の士郎正宗によるキャラ設定のメモなどをもとに「9 課に所属する以前の草薙素子たち」を描いていった。だがあえて、押井守の『攻殻』とも神山健治の『攻殻』とも微妙に設定が異なる、新しいパラレルストーリーと言えるものとして作られている。

なお本作では、黄瀬は総監督としてシリーズ全体を監督するが、各話にそれぞれ別の監督を立て、1 話ごとにとひとつの話としても成立するオムニバス形式となっている（3 話は黄瀬が監督から担当）。さらに 1 話 1 時間弱の OVA 形式で制作されている。

本作では公安 9 課のチームが出来上がる前の物語であるため、後の 9 課メンバー同士の対決も見られるのが面白い。また、また経験の浅い時期を描いていることもあって、完璧ではない、失敗したり感情を示したりする「若い素子」が見られる、それまでの『攻殻』シリーズとはひと味違った内容のものとなった。





STORY

～全5話の物語～

大戦中の開発競争で、電腦や義体の技術は急速に進化した。その大戦が終結し、復興が進む西暦 2027 年。軍や企業が肥大化する中で、新種の犯罪に対応する新たな組織が求められていた。

border.1 Ghost Pain

帰国した陸軍 501 機関の素子は、上官だったマム口中佐の墓を廻り返そうとする荒巻たちに遭遇した。「その棺を開けるな」と素子。マム口は何者かに殺害されたが、取柄の容疑がかけられており、その調査をするという。素子を説得した荒巻が棺を開くと、そこにはマム口の義体のかわりに自走地雷が入っていた。

その後素子は、荒巻よりマム口についての調査を依頼される。そして、地雷の出所と思われる演習場で、同じくこの事件を捜査していたトグサ、バトーに遭遇。バトーは、素子が彼女の記憶よりも早く帰国していたという。素子はウィルスに感染し、偽の記憶を与えられていたのだ。そして素子には、国外へ武器を密売していたサダモト国防副大臣を告発するための資料が預けられていた。マム口は告発阻止工作と圧力、造反者らの攻撃を受け、ウィルスにも感染させられて自殺に追い込まれたのだ。マム口の収容容疑が晴れ、彼が残した推測状により、素子は 501 機関より独立する。

“自由に活動する素子”と“組織にこだわるクルツ”という両者の対比は border:1 から描かれている。



マム口中佐

本来の 501 機関のトップ。有能で高潔として知られた人物。素子のことを高く評価し、素子の義体が軍ではなく彼女自身のものになるよう取り計らっていた。荒巻は彼との約束で、素子のゴースト侵入キーを持たなかったと語っている。

▶ 501機関所属、草薙素子三佐



▶ 私には肉体の記憶そのものがない



▶ だから、これは偽の記憶によって生じたゴーストの痛みってところかしら

痛みが消えたわ



本気で独立するならば
己の部隊を持つがいい

border:2

Ghost Whispers

戦中の虚像容疑でソガ大佐が法廷に立たされる。だが交通管制システムを乗っ取られ、ソガは一般市民を人質にし、自分の事件など大量の機密が詰まった軍事データベース“パンドラ”へのアクセスを要求。そのソガを支援していたのがバトーたちだった。素子は事件解決のためサイトーやバズを集め“自分の部隊”を作り、米軍から流出し、交通管制を乗っ取っているモジュール奪還のため、バトーたちの潜伏場所へ向かう。一方、モジュールの情報を提供したヴィヴィーは、別の目的でパンドラにアクセスしようとしていた。



ソガ・カズヤ大佐

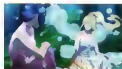
カルディスタンでの作戦で評価された軍人だったが、難民遣送容疑をかけられる。突如には、その「難民」とは武器ゲリラだった。自分が、パンドラを開くために偽の記憶で知られていたことを知ると、米軍の国防省事務次官を殺し、自決した。



若い頃



▶ 人のフリしたAI、人工知能とはな…… 一体なぜ!?



本作では“青”が素子の意識空間の色として使われ、水中の表現も多い。サイボグが水に沈む設定とあわせて考えると意味深い。



ソガもバトーらも疑似記憶を植えられている。国防省事務次官はソガにパンドラを開かせ、その情報を盗ろうとしていた。



痛みは消えたわ……



お前の目は今なにを見てる？



▶ スクラサス、君に会えてよかった

border:3

Ghost Tears

国内兵器製造業者らの秘密会議がテロで爆破され、次いでダムでも爆破事件が発生した。捜査の結果、テロ実行犯が偽の記憶で動いていること、彼らの体に某国の反政府組織の英雄“スクラサス”の刺青があることがわかる。一方、ダムの所有者とテロの被害者との関係に気づいたトグサは、素子の恋人で義体技師のホセに事情聴取する。やがて素子たちとトグサの捜査が繋がりが、ホセが密輸用の爆弾入りの義体“エアリアル”にかかわっていたこと、ダムを所有する外国系水企業サイード博士が彼のスポンサーだったことを突き止める。某国の戦地で“死んだ”と素子が語るスクラサスの名が再び浮上する中、素子はホセと直接対決。素子の義体にも爆弾が仕掛けられていたが、ホセは何かを悟ったかのように、起爆キーである自身の電脳を撃つ。

border:4

Ghost Stands Alone

水売買協定に反対するデモが行われる中、警備の警官たちが銃を乱射、協定式典に列席していた北原剛大も撃たれた。たびたび素子たちを襲ってきた記憶改竄ウィルス`ファイア・スターター`の影響だ。その混乱の中で、ツダ・エマという少女が素子らに身柄を確保される。国防大臣の命により彼女の身柄は9課から501機関へ引き渡されるが、彼女はハリマダラ社を攻撃した、`スケアクロウ`と呼ばれるハッカーを追っていたクルツの部下だった。そして彼女の義体にはエマのゴーストの他に、スケアクロウごとプリンダジュニアのゴーストも入っていた。プリンダジュニアとはホヰミ大佐がスカウトし、兵器開発国内派を攻撃させていた人物で、501 機関をも攻撃対象にしていた。その後、ホヰミは証据隠滅のためエマとプリンダジュニアが同居した義体を砲撃させるが、自らも乗っていたヘリも、クザンのカルテルと思われる者に撃墜された。



エマのAvatar

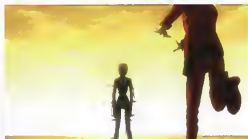
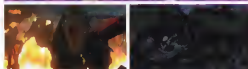


プリンダジュニアのAvatar

▶ ゴーストはこの世で最も独立した存在だ



▶ 公安が事件を、我々が核心をつかむ



▶ ふたりで死んだ後も生き続けましょう

～ PYROPHORIC CULT ～

border:1～4の続きとなる事実上の第5話で『PC』とも略される。「新劇場版」の前日譚。

DAY 1



自爆による航空機 381 便爆破テロが実行された。素子たちが容疑者宅に着くと、素子らと同じく「ファイア・スターター」のブローカー、通称「パイロマニア」を巡っていた米軍情報部と遭遇する。米軍の情報によると、パイロマニアは雇われ、次にホヰミ暗殺を計画しているという。ヘリを撃墜されたホヰミは頭部だけとなり辛うじて生きていたが、兵器売買でクザンと交わした密約が実行不可能となったため、クザンの報復対象になっていた。素子は、ホヰミを倒すことで、パイロマニアを釣る。

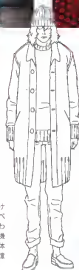
DAY 2



ホヰミの身柄はアメリカに引き渡されることになり、素子らはその護送を行う。一方で、素子らが捕らえたパイロマニアは逃亡。その後クルツと会い、何らかの取り引きを行う。それからパイロマニアは無人攻撃ヘリをハックして素子らを米軍基地に誘導し、ウイルス感染した兵士に攻撃させる。追い込まれた素子はパイロマニアを自分のネットに誘い込み、相手を消滅させた。一方、パイロマニアの電脳ジャックからある端末を取り出したクルツは「ウイルスのバージョンアップは終わった」と語る……。

パイロマニア

パイロマニアとは米軍がつけたコードネーム。当初はガルベス・ガルシアという人物と思われていたが、ガルベスは旅客機爆破現場で死亡しており、肉体の正体は不明。人格は認知記憶によって作られたと思われる。



●●●●●●●●●●

攻殻機動隊ARISE ALTERNATIVE ARCHITECTURE

●●●●●●●●●●

「新劇場版」公開にあわせ再構成されたTVシリーズ

『ARISE』は新劇場版が公開される直前、『ALTERNATIVE ARCHITECTURE』のサブタイトルがつけられてTV放映された。この時、1時間版の話がTVの30分版の形に収まるよう、各話が前後編で再編集された。そして放送は「border」Ghost Pain」ではなく、「border4 Ghost Stands Alone」を最初に放送する形となった。さらに「新劇場版」の前日譚である新作「PYROPHORIC CULT」も制作された。この話のみ「SAC」にてシネリオを書いた「ARISE」のスーパーバイザー藤沢一が脚本を担当している。

話数	サブタイトル	TVシリーズ版放映	オリジナル版エピソード典拠	
#01	Ghost Stands Alone 前編	前編一	border:4	
#02	Ghost Stands Alone 後編			
#03	Ghost Pain 前編			border:1
#04	Ghost Pain 後編			
#05	Ghost Whispers 前編		border:2	
#06	Ghost Whispers 後編			
#07	Ghost Tears 前編		border:3	
#08	Ghost Tears 後編			
#09	PYROPHORIC CULT 前編	脚本 藤沢一 演出 梶浦由記 作画監督 中村深雪 石原誠		
#10	PYROPHORIC CULT 後編	藤沢一 梶浦由記 作画監督 中村深雪 石原誠 ちろみかゆき 鈴木俊二		



CHARACTERS

～登場人物～

本作の素子らは、従来のシリーズよりも若く見えるようにデザインされた。パトローの髪も短くなっており、押井劇場版1作目に近い。サイトローのモヒカン髪は、原作の土部正宗氏のデザイン案によるとのこと。



▶旧調査部、それだけだ。
棺に持ち込めんものは
全て古道具屋に
売り払った



公安9課

Aramaki Daisuke

荒巻 大輔

公安9課の長。調査部にいたため部長と呼ばれることが多い。高層の美術特殊部隊を持ちたいと考えており、501機関のマムロが評価していた素子に目を付け、彼女を自分の“美術強助隊”指揮官に選べることを考える。



独立攻性部隊

Kusanagi Meloko

草薙 素子

陸軍501機関所属のサイボーグ。階級は三佐。特殊コンサルタントとして軍や公安に協力。14歳の時に軍部のデータを書き換えたというほどの天才ハッカーだ。501機関の長だったマムロ中佐に目をかけられ、彼の准團長に昇格。その後、階級も少佐となる。その後、自身の部隊を作り、9課に所属するようになる。脱走の時に同僚は死亡し、その時から義体化技術で生きながらえている。まさしく、生まれつきのサイボーグと言える。



4 Side view



素子の
バイク

デトニクスポケット9

▶これから作るのよ。階級なしの
実力主義最優先ラインを

▶ 結局行き場所は
なかったさ



独立攻性部隊

Sato

バトー

「眠らない眼」と呼ばれる義眼を持つ、陸軍空挺特科第一の出身。最終階級は少佐。妻子とは旧知で「ただの脱しの道具になるのが嫌で転属を希望した」と言われている。ソガ大佐の事件に荷担するが、妻子の部隊に入ることでは断られる。



ワルサーP99



border:2でスカウト

▶ なんのための
特捜刑事だ！



独立攻性部隊

Togusa

トグサ

新浜警特捜隊所属の刑事。従軍経験もある警察官で、軍用化している以外はほぼ生身。荒巻に「統一規格の部隊」の危険性を指摘された妻子が、「統一規格ではない」人材として彼をスカウトした。所持持ちで、border:3にて第1子が誕生。

マテバ6
ウニカ

border:3でスカウト

▶ あんたみたいに
動けたらと思うよ



独立攻性部隊

Paz

パス

陸軍警衛中尉。他人を欺く能力に長け、獣隊遊撃グループの潜入捜査中に、マムロ中佐の件を調査していた妻子と遭遇。その後秀吉の依頼で、自派の要に囲まれた妻子らを救出した。そして自分の能力を生かす場所を求め、妻子の部隊に志願。



border:2で志願

▶ くそう。通信は固か。
あのゴリラ女！



独立攻性部隊

Ishikawa

イシカワ

元陸軍情報部大尉。妻子の部下の中では最年長のベテラン。バトーたちと共にソガ大佐の事件に参加し、その後妻子の部隊に参加。情報戦の専門家で、情報収集やウィルス解析などを行うほか、border:2では格闘する一面もみせている。

▶ 家庭を持つには
不向きな仕事だ



独立攻性部隊

Barma

ボーマ

バトーと同じく元陸軍特務部隊空挺特科第一の中尉。軍では爆発物を扱う専門家であり、さらに電子戦能力も高い。バトーやイシカワと共に、記憶を改竄されてソガ大佐の事件に荷担した。彼らと同じように妻子の部隊に参加している。

▶ へっ、また
生き残っちゃったぜ



独立攻性部隊

Saito

サイトー

元海兵隊大尉の超弩手で、陸軍情報部や空挺特科との作戦経験もある。一方で軍の金まですぐ込んだキャンブル好きで、その件で半ば脅迫され、妻子の部隊に参加。特機中や電脳ロビーなどでは、崩壊りのような態度を取っていることが多い。

陸軍501機関

国内外でさまざまな活動を行う、サイボーグによって構成された部隊。以前はマムロ中佐が指揮を執っており、その下で美子やクルツは、カルディア独立軍での「スクラセス」の活動などにて、何度も行動を共にしていた。



▶私はプリキ。
心がなくなっていく



501

Tsuda Emma

ツダ・エマ

電脳ネット・ゲームをヒットさせていた17歳の少女。ソフトの権利を譲渡した「ティンマン（プリキの本名）」。クルツが美子の後任としてスカウトした。脳をニューロチップに置き換え、身体化しないと長く生きられない障害があった。

▶これが第三世界に繋がるカギだ



501

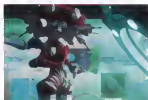
Keritsu

クルツ

マムロ亡き後の501機関のトップで、階級は中佐。後に国防省の北条副大臣の推測により、次世代主力兵器検討委員会委員にも就任。マムロの遺志を継ぎ、国外カルディアと繋がっている兵器国外情報源を一つしようとする。



▶行くかね?



501

Tsumagi

ツムギ

501機関の電子戦・経済士官。一卵性双生児の二人の脳を、ひとつの義体で共有している。バト一口く「どうやって動いているのか、俺にもわからねえ」。美子ら、501機関のサイボーグのメンテナンスや分析を担当している。

Raizo / 501

ライゾー



501機関の戦術教官。対電子機器戦術として、雷や圧縮された水、スタンガンを放つ攻撃を使う。マムロ中佐が目をかけていた美子に対し、嫉妬にも似た感情を持ち、快く思っていない。

Kaizo / 501

イバチ



501機関の格闘技研究教官のひとり。商業用無双流陣術の達人で、両手に持った棍棒で戦う。ライゾーとは真なり、美子に一目置いていて、501機関から独立した美子を敬んで見送った。



▶僕はカカシ。
脳がなくなっていく



Brinda, jr.

プリンダジュニア

501 機関がつけたコードネームは「スケアクロウ（カカシ）」。ホヅミにスカウトされ、ハリマダラ社へのサイバーテロなどを行っていた。人格は希薄だが、200 桁の数字を2秒で記憶できるという特殊認知能力者。エマと同じ被害がある。

Pyromanic

パイロマニア



ウイルス「ファイア・スターター」のフローカー。本名などは不明。「万人のゴーストを進化させる、ゆえに守らなくてはならない」として、ファイア・スターターを冒険している。

Thred

サイド



クザン共和国の国営企業の人形。クザン王立大学を首席で卒業し、同国の水輸入の立役者となって、暫定政権時代から活躍していた。一方で、カルフリス独立運動に密かに支援していた。

VI

ヴィヴィー



border.2で米軍の特務作戦部隊として現れた人物。正体はA1であり、自分に「自我」を与えたい者の存在を知るため、世界中の機密にアクセスしようとした。「PC」では同じ義体の人間が登場。

陸軍情報部

ホヅミのもと、クザンなど国外での兵隊訓練や売買を取持種とする国外派で、サイドやホセとも繋がっていた。「ファイア・スターター」や、機体爆弾「エアリアル」を使用した攻撃を、兵隊共国内派に対して行っていた。



▶ファイア・スターターを使う
連中はみな、このウィルスが
世界を変えることを信じている



Hozumi

ホヅミ

陸軍情報部大佐。以前荒巻の上智だった殿田大佐の後任で、全身義体の軍人。クザンと密約を結んで内政に涉る代わりに、兵器分野でクザンの利益を約束していたが、それが難しくなり、危殆に立ち上る。



▶ワクワクするだろ。義体と肉体の
区別のない新しい人間の世界なんて



Jose

ホセ (千瀬晶)

美子の恋人の義体候補。だが、以前カルフリス独立運動に参加していて「スクラサス」と接触し、共感していたという。今も独立派のため、義体に適性を仕込み続けられている。





MECHANICS

～メカ～

『SAC』の雰囲気や踏襲しつつ、メカデザインはより現代（現実）に近い方向に寄せられた。一方、自走地雷などは、原作の士郎正宗氏のテイストが強く出ている。



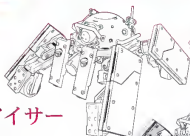
▶それって死んだってこと？



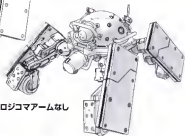
▶命令は 了解されましたー



▶アイアイサー



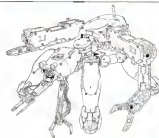
ロジコマカーゴ付き



ロジコマアームなし

LOGICOMA ロジコマ

自動遠征型兵站システム「ロジスティクス・コンベイヤー・マシン」の略で型番はLOM22。戦車ではなく基本は物資輸送用だが、『SAC』の思考戦車タチコマに酷がるデザインやA1が演出されている。2022年に製造された「年代物」のニューロチップA1で、その分ハッキングなどに強いとされる。



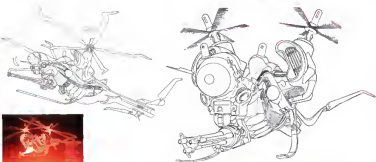
ハリマダラ社の 戦闘メカ

ハリマダラ重工業の工場で、北原国治副大臣が視察中にハッキングされ、副大臣らを狙った戦闘車両。ロジコマと異なり、両手に機関砲を搭載する。デザイン的には、押井劇場版の戦車「アラクニダ」に近い。

HELICOPTER

無人ヘリ

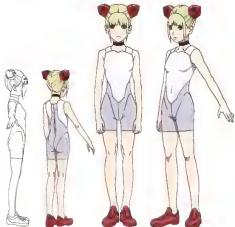
米軍のUCAV（無人式攻撃航空機）、TPCでパイロミアニアに乗っ取られ、素子を攻撃、米軍基地へと誘導するために飛来し、さらに攻撃してくる。対地ミサイルやゴトリング砲などを搭載。



TANK

思考戦車

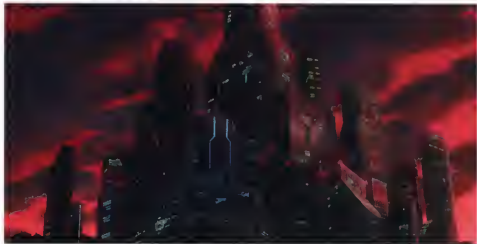
border 4で、エマとプリンダジュニアが自らのゴーストをダビングしたことで起動したハリマダラ社製の試作戦車。その中（プリキの身体7）から出てきた。戦車試験用の軽固な機体は、まさしくカガシのようだ。



MINES

自走地雷

border 1で素子たちを襲った、少女の姿をした地雷。人間を騙して接近するための人の形をしているだけでなく、変形することで高速に移動したり、人間が入り込みにくいような場所に着り込むことができる。



都市を空から見下ろす光景で物語が始まる任務は、『ARISE』でも踏襲された。冒険では、「水上に浮かぶニューポートシティ」と青い空が映し出される。



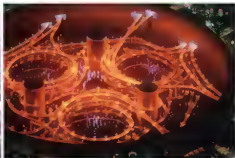
LANDSCAPES

～ 風景 ～

本作では「新浜市」ではなく「ニューポートシティ」と呼ばれる。第3次核大戦と第4次非核大戦を経た世界という設定、日本の首都が福岡であることなどは『SAC』シリーズと同様だ。



水辺など高所から見下ろすシーンが印象的。なお、大戦からあまり時間が経過していないという設定のため、都市には大戦で破壊された名残もある。



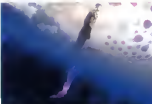
大戦により東京が壊滅した後に暫定首都となった、神戸沖の海上都市「ニューポートシティ『SAC』と同じ設定だが、より密さ込みが多くなり、実在しそうな架空の都市を描いている。



本作は、基本的な設定は『SAC』シリーズの世界観と同じだ。しかしシリーズの長さの問題もあり、描かれる光景はニューポートシティに焦点が絞られている。

そして、本作はOVAとして制作された。Blu-rayが一般に普及していなかった過去シリーズ発表当時と異なり、最初からBlu-ray Disc、すなわちハイビジョン画質での視聴と劇場上映を前提とした（そのため劇場クオリティで作られている）。『SAC』シリーズも実は最初からハイビジョンで撮影されていたものの、より技術が発達したことにより、特にCGによる電脳表現が非常に豊かなものとなっている。一般風景を描いた各カットでのライティング、色彩表現なども、映画並みに力が入られている。

そこに、昔ながらの手描きの美術も加わり、美しいニューポートシティの町並みが描かれることになった。



『SAC』シリーズでは絵が描むことに技術が凝注され、電脳空間の情報量が豊かだったが、本作では「イメージ的な表現」という、新しい切り口も取り入れられた。



▶ここまできて、
まだサルを頼るのか!?

▶そう囁くのを、
私のゴーストが

エマを誘う素子たちは、素子がテロ部隊で隊も手配されたことを知る。ハトーは、元陸軍情報部の先輩がホヰミと取り引きしたと疑ったが、素子は荒巻を信用し、情報を送った。



THE LAST SHOT

～ラストショット～

「ファイア・スターター」を巡る一連の事件の中で、草薙素子が、そして荒巻大輔がそれぞれ思い描く「攻性部隊」が形作られ、融合していく。



エマの義体の中にはエマとプリンダジュニア、二人のゴーストが入っていた。二人には同じ障害があり、補助電源無しでは自我を保てず、人格が希薄化していくという。一方、素子たちはテロ事件の黒幕がホヰミであることに気づく。国外派のホヰミはプリンダの能力を使って国内派を潰す気だったが、エマとプリンダは自らの存在が欠けた者同士意気あけ、自由を求め逃亡する。

港に着いたエマらは、プリンダの能力で試作戦車、戦軍用義体と次々とゴーストをダビング。知覚系や記憶野、ついでにゴーストをも切り捨てて「生き続ける」と語る。最終に二人が証人隠滅

のためにホヰミに消された瞬間、素子は二人がひとつになったように感じた。ここで、エマとプリンダは「融合」したとも解釈でき、過去の『攻隊』の「人形使い」などを想起させるものとなっている。

その後、テロ容疑で拘束された素子を釈放するため、荒巻が現れる。偽の容疑の情報を流したのはホヰミであり、荒巻を信じた素子の「ゴーストの囁き」は正しがるたのだ。そして荒巻は、素子たちに特殊権限が与えられたことを伝える。かくして、真の意味での「攻隊機動隊」設立は「新劇場版」へと引き継がれる。



▶私たちは独立攻性部隊だ





謎解き『ARISE』

“ARISE” Mysteries and Answers

Q1 帰国した素子に何が起こったのか？



痛み

記憶

視覚

帰国当日、荒巻たちがマムロ中佐の器を調査しているのを発見した素子。その3日後、素子はバトーらに、記録上では自分は7日前に帰国していたことを知らされる。素子は実際7日前に帰国しており、マムロが死んだ現場にいた。その時、素子はマムロの脳筋に接触したが、マムロは「ファイア・スターター」というウィルスに感染しており、彼経由で素子も感染。つまり、素子は荒巻に会う前からマムロの死について調べていたが、ウィルスに記憶を奪われていた。「育ての親」への送金や「失った身体の痛み」、「視覚の歪み」などもウィルスの影響だ。

A ウィルスに感染し、記憶を改竄されていた。

Q2 クザン共和国とカルディス人の独立運動とは？

クザン共和国では、少数民族のカルディス人が武装独立運動を行っていた。その指導者だったのが「スクラサス」、複数の機体を使い換えて正体を隠していたことから、ギリシャ神話に登場する怪物に由来して名をつけられた人物だ。だが、スクラサスは死亡し、ゲリラはほぼ壊滅した。それでもホセらはカルディス独立のため、日本から武器を持ち込もうとした。実はスクラサスの正体は501 機動にいた素子で、「スクラサスの死」は彼女による偽造だった。一方ホヰミ大佐は、兵器ビジネスでの利権を約束してクザンに内政干渉を行っていた。



A 密かに日本が関与した、クザンの内戦。



スクラサスのシンボル



“ARISE”用語解説

【ドミネーション】

直訳すると「支配」の意。ドミネとも略される。作中では通信などを監視して統制する意味で使われている。border 2ではソガ大佐の一派が交通管制システムをドミネーションし、一般市民の交通を危険にさらすことで人質とした。

【ファイア・スターター】

対象のゴーストに侵入し、類似記憶を形成したり、自己消滅までするという一連の行動をする「パッケージ化された」ウィルス（制作者を指してこの言葉が使われていることもある）。劇中に性能がどんどん進化している。

【国内派と国外派】

兵隊の国内開発派と国外開発派のこと。前者はクルツや北沢副官大佐。後者はホヰミ大佐らがいる。ホヰミはクザンで兵器ビジネスを行うと約束して同国に干渉していたが、実行できなくなり、クザンの報復を恐れる身となった。

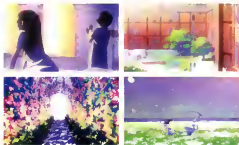


第 7 章

『攻殻機動隊 新劇場版』

～公安 9 課 麗生の章～





INTRODUCTION

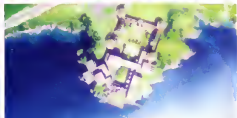
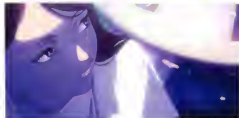
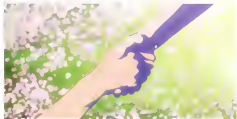
～序論～

一々『ARISE』は全6話で制作される予定だったが、その第5話と第6話になる予定だった話を結合し、劇場作品用のシナリオとして構成し、映像化したのがこの「新劇場版」だ。

設定では『ARISE』border:1は2027年であり、border:3からは2028年に年が替わっている。そしてこの「新劇場版」は2029年になってからの話となっている。原作では各話に、その事件が起こった年と日付が書かれているのだが、素子がビルから飛び降りて暗殺を行う、押井劇場版でも描かれたシーンは2029年3月5日となっており、そこへと繋がるように設定上の日付が調整されたのである（なお素子が“人形使い”と融合したのは、原作では2030年9月18日）。さらに原作コミック官報にて荒巻は「前首相爆殺の件」と話しているが、具体的にどんな事件だったのかは原作では触れられていない。そこで、本作ではその《前首相爆殺事件》がどんなものだったのかを描くという形が取られた。

そこまで綺麗に本作を公安9課の「前日譚」としているなら、ひとつ疑問となる点が出てしまう。『ARISE』で素子は、所属していた陸軍501機関より独立したわけだが、その後も501機関は存続し続け、素子は何度も501機関と関わっている。それなのにその501機関が、後の物語に全く登場しないのはなぜかという点だ。『ARISE』は原作とも他の『攻殻』アニメとも微妙に違う点がある。パラレルストーリーである」というのが前提だが、それに甘んじず、本作は公安9課の草薙素子誕生と同時に、501機関の断末についても真正面から描き、先の疑問を解消した。

なお本作は、美術は総監督に留まる一方、監督は野村和也が担当した。野村は押井劇場版『GHOST IN THE SHELL/攻殻機動隊』のムック本を見てアニメ業界に入ることを意識したという。その野村らによって本作には、演出的にも過去の『攻殻』アニメ作品へのオマージュが多数組み込まれている。



▶お前たちは私が見つけた最高のパーツだ



▶ドミネーション実行



ついでに総理より正式に認可が下り、独立部隊として動き始めた素子たち。だがその「最初の活動」の最中に、別の場所で、素子の部隊を認可した総理および、素子の見所側で、彼女と共に向かい合ってきたクルツが、共に爆殺される。



STORY

～物語～

西暦 2029 年。陸軍 501 機関を独立した素子は独自の部隊を設立。後に公安 9 課所属となる独立攻性部隊が誕生する。一方、501 機関のクルツは別の考えで動いていた。



▶生きながら朽ちてゆく。 私のように



古い脳筋を新しい機体に移植できず、古い機体のまま死を遂げるしかない者たち、『イノセンス』のドイノイド自爆シーンを選ばせられるカットだ。

▶もし義体を交換できなくなって それ以上生きられないとしても、 行ける場所があるって、あなたは信じる？



クルツは自分の死と同時に、かつて素子もいた義体化児童虐待施設の子どもへ、遺言を送るよう設定していた。そこには「第三世界を信じるならいつか再会できる」とあった。



【国】前省の防衛庁格下げに反発した軍人が、人質を取って東東連合経済体・極東通商部大使館を占拠する事件が発生。正式な行動権限を与えられた素子の部隊が、現場を制圧する。だが人質が落ちていた銃を取って、捕らえた犯人たちを銃撃し始める。疑似記憶ウイルス「ファイア・スターター」の影響だ。このウイルスを操っていた本体は、素子と同じ姿をしていた。またこれらの事件が起こっている間に、総理がクルツらといる時に爆弾テロで死亡するという事件が発生。素子は仇を取ると言う。

捜査を進めていたバトーとトグザは、人質事件を起こした者の他、行方不明になっている7人の軍人、そして首の指導者と思われる瀧崎良大佐が、「遺言ネット」に同じ文面を流していたことを突き止める。一方、素子の部隊を、条約審議部という組織が監視。条約審議部は、ウイルス「ファイア・スターター」のブローカーで素子と同じ機体を使っている者を捜索していた。彼らの話では、瀧大佐は軍人過激派を抑えるはずがファイア・スターターに感染し、テロの引き金を引いた。さらに北原副大臣も感染し、国防派暴発を誘導させられたという。

素子たちは、瀧大佐の隠れ家と思われる情報収集艦に突入。艦のサーバーを制圧し、瀧大佐を捕らえる。だがそれは遠隔操作機体で、大佐ではなかった。またサーバー制圧時に何かに気づいた素子は、各員の推測状を荒唐に預け、部隊を解散させる。この艦は望だと知るが、敵の正体が見えないため、皆の安全を優先したのだ。

一方、偽の素子は情報収集艦の者を捕っていたが、引き上げて証人隠滅のため北原を殺す。その後、情報部戦略室長の奥原と

会っていた。彼は素子に、ファイア・スターターのブローカーを逮捕しようとしていると言っていた人物だが、そのブローカー本人、つまり偽の素子と通じていたのだ。

素子に解散を宣告されたバトーたちは、それぞれ独自に捜査を続けた。その結果、そもそも総理自身が、自衛省の政策違反相を逃げるため大使館占拠事件を仕組んだこと、その事件時、素子の同型機体が現場にいたこと、「遺言ネット」の管理人・薄田は偽記憶を与えられた瀬大佐本人だったこと、機動隊本部内で対立があり、双方にファイア・スターターが提供されていたことを突き止める。その頃素子は、総理の息子の補佐官に会う。彼も偽の記憶を与えられ、父を殺すための爆弾を運ばされていたのだった。また素子の部隊の予算は、民営化された501機関の余剰予算から出ていることを彼から聞かされた。そこで素子はクルツの遺体を再度確認すると、それは遠隔操作義体だった。

素子はハリマダラ社に侵入して情報を得ようとするが、同社に移籍していた旧501機関員と戦闘になる。さらに、生きていたクルツが偽の素子として現れ、素子は追いつめられた。だが、駆けつけたバトーらに救出され、追ってきた501機関員もバトーたちや、義体を換装した素子によって倒される。そして偽素子を追いつめた。

素子は、義体化児童養護施設で出会ったクリスという少女が、クルツや偽の素子を遠隔操作で動かしていたことを知った。素子が施設へ向かうと、クリスは素子に最後の言葉を言い、自らの意思で「第三世界」へと旅立っていった……。

▶ 真実にたどりつくかここで逃げ出すか、お前たちのゴーストに従え



瀬大佐の隠れ場所と思われていた情報収集棟。壁が持ち堪えているのが驚かすほどだが、素子は素早く突入を遂行。バトーたちもそれぞれつきあひ、たった7人のメンバーと武器のないログムンだけが別荘を囲む。

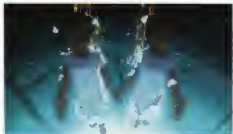
▶ それがお前の限界だ、草薙



単独でハリマダラ社へ突入した素子は、元501機関のメンバーらに追いつめられるが、自分が認んだ「バトー」によって救出される。



素子と総理後台戦しようとした、偽の素子。だがバトーに阻止されるため素子は素子に動きを止め、素子はクルツの遺体所を突き止める。



▶ そこにいたの……

▶お前たちのようなパーツは二度と集められないんだぞ



Kusanagi Motoko

草薙 素子

陸軍 501 部隊より独立した後、特約の承認の下、メンバーを集めて自分の独立攻撃部隊を設立した素子。悪意は公安9課への専断を求めているが、予算や権限を巡って折り合いがつかず、現在はあくまで依頼で動く状態となっており、9課の判断以外で行動することもある（実際、本編後半はほぼ素子の独断と言える）。なお本作で、彼女の高層が化学兵器によるテロで死亡し、その遺体は 501 機関が保管したことが示唆されている。



少女期



• Back view

• Side view



CHARACTERS

～登場人物～

本作は『ARISE』の続きであるため、新キャラ以外は同じデザインで統一されているが、各キャラクターの少女時代も登場しているのが大きな特徴である。

素子たちの部隊



シュレーディングガー



サイトーのライフル



ボマーの機銃



形勢が落ち着いた後を元に、素子が自分の「独立攻撃部隊」のメンバーとして集めた者たち。自ら志願したのはいくつとりで、他の者は脱隊を条件に加わったり、半ば脅迫のもと選抜の余地なく参加させられたりしたが、皆素子に才能を認められた者たちである。そして彼らは、自らの意思で素子に従い危険の中に飛び込み、さらに素子が部隊の解散を宣言しても、素子を感じて絶い続ける。そして、命令が発せられたわけでもないのに再編成することになった。

▶抵抗するな草薙。君の脳を焼かせたくはない



Tsunagi

ツムギ

着信音で素子と出会った当時、現在の機体になる前の姿が登場。最後にツムギは、ロボットの部下たちからの電脳攻撃より素子を守り、彼女の身代わりになって死んでいった。



少女期

▶ 第三世界を信じるなら
いつか再会
できるだろう



Kurutsu

クルツ

サイボーグのデッドエンド回避のため、首相やリチャード大使の自衛す「技術革新を象徴的に選らせる」手段を選んだ。また 501 機関をハリマダラ社のもとで存続させようとしていたが、首相との衝突時に死亡。そう思われていたが……。

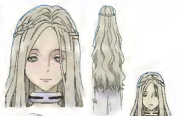
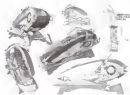
▶ 人でもモノでもないデータの世界



Chris

クリス

肉体不全をマイクロマシンで補い、義体化できないかわりに、クルツという人物をずっと遠隔操作義体で動かした。同時に体の素子も動かしていた（劇中ではさらに多くの義体を動かしていたことが示されている）。「第三世界」を信じ、量産型の子どもたちをそこへ導こうとしていた。



Fujimoto Osamu

藤本修



藤本彰理の長男。父の元で補佐官をしていた。事件発生前から素子のことが別になっていた模様。「ファイア・スターター」に感服して捧られ、爆発を父の元に通ばされてしまった。

Fujimoto Akira

藤本彰



素子の容顏を承諾した理恵の弟 107 代総理大臣（「PYROPHORIC CULT」のラストシーンで素子と面談している）。大使館占拠事件を演出し敗戦を排除しようとしたが、逆に自分が殺される。

東亜連合経済体

ロバート・リー／リチャード・ウォン

リチャードは技術革新派命脈。ロバートは技術革新派で対立関係にあった。リチャードはロバートにより捕獲され、ロバートは外交官特権で帰国前、素子に射殺される。



Reize & Ibachi

ライゾー&イバチ

共にハリマダラ社に帰籍。その後素子のセーフハウスを襲撃してきた時の戦いで死亡。イバチは基本的に、自分に勝った素子に満足し、彼女をかばうよう動いた。



Sawada Kyoichi

澤田功一（薄霧良大佐）



元陸軍特甲隊通信員で、「軍人ネット」管理者。正体は瀬崎俊彦軍大佐で、ウイルスにより大使館テロを扇動させられる。その後、総理の命を実行した犯人として、身元を隠されていた。

Amagata

雨形



完全が情報部時代に異しを作ったという元政府審議官で、ハリマダラ社に天下りしている。border 4 では完全に「NPO」「キャンプ」と話し、ホジミの事件についてのヒントを与えらる。



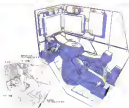
MECHANICS

～メカ～

基本的なデザインは『ARISE』の流れそのままだが、新たに作中に登場する新しいメカや銃器が新規にデザインされている。



グレナード射出口



コクピット

▶少佐～!!



LOGICMA

ロジコマ

最初は乗ることすらできなかったが、『ARISE』のシリーズを通して徐々に成長し外見も変化してきたロジコマ。本作ではついに人が乗れるようになり、501機隊との戦闘中にトグサが乗って現れたほか、ラストシーンで各員が乗っている。



コクピット

TANK 情報艦 多脚戦車

美子らが情報収集艦に乗り込んだときに現れた戦車。対戦車装備を持たない美子らがまともに戦える相手ではなかったが、美子が艦のサーバーを制圧後、乗員の制を掛けて停止させた。その後遠隔操作で、情報収集艦自体を破壊するために動き出している。





ARMOR SUIT アーモースーツ

『ARISE』のborder2でも登場したアーモースーツ。立って歩くことができるだけでなく、車輪の形に変形し、手足の履帯で走行することもできるようになっている。本作では501機関が美子のセーフハウスを襲撃してきたときに出現した。



SRIF 新浜沖情報艦

新浜沖の海底ケーブル上を巡回するように動き、米國との密約で国内諜報活動に使われていた。例の露大佐の潜伏先として使われ、素子を拘る餌に使われたが、真と知りつつ素子は向かった。その後美子の要求で破壊される。



射撃管制室

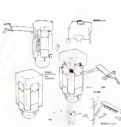
ハリマダラ重工

『ARISE』シリーズを通して劇中に何度も登場している、兵器開発を主力とする企業。この企業に列するハッキングを501機関が調査するなど、もともと501機関との繋がりが強く、501機関の民間化時、この企業に天下下りしていた南形元副官はクルツらを迎え入れ、元の501機関の建物はハリマダラの無人工場となる予定だった。元501機関員が美子らに取られた後、初形は首相暗殺共犯などの容疑で、罪悪によって逮捕されることになった。



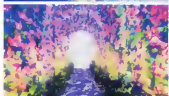
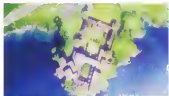
警備用ロボット

素子がハリマダラ社に侵入した時、警備に取られた警備用ロボット。だが、あっさり素子にハッキングされ、サーバーフロアまで案内させられている。



サーバー室コンソール

素子がハリマダラ社サーバーへのアクセス時に使ったコンソール。この時、美子はツム平の防壁装置に食い込み、戦闘力を発揮できないまま前進を行うことになる。



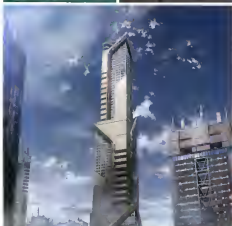
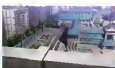
素子がいた養体化児童養護施設。クルツやツムギもここでの山育で、SOI 施設にとってこの子どもは「全てを死す命様」だった。



LANDSCAPES

～ 風景 ～

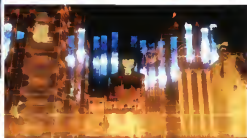
本作でも物語はニューポートシティを舞台にして展開するが、情報収集艦内、大使館、電腦ロビーなどが新規に起こされている。特に印象深いのはやはり養護施設だ。



崩れた場所にあるのが電腦ロビー内に寓含し、オレンジを中心とした発色映像を見る場面は「インセンス」の影響を強く感じさせる。

本作の風景は新たに描き起こされた、養体化児童養護施設に始まり、そこで終わると言ってもいいだろう。この子どもは、養体に慣れるためのリハビリをしているが、素子はこの間に、養体から、養体思うままに換えることができ、自由自在に施設内を走り回っている。一方、ツムギ姉妹はじっと座ったまま。そして養体に慣れない幼いクルツはうまく立てずに倒れてしまう。素子はなぜ彼女が立てないのか理解できないが、そんなクルツに、素子が手を差し伸べる。そして最後は、水中に沈むクルツ＝クルスがガラス越しに、素子と手を合わせた後別れていく。作中にあまり自然が見えないような映像が作られている「ARISE」から続く本シリーズだが、この養護施設は緑であふれ、幼い素子がクルツに手を差し出す場面は花吹雪が舞う。SEにも鳥の鳴き声、風で草がそよぐ音などが聞こえる。さらにツムギの作った防壁送路内の映像でも、この養護施設が使われているため、時間こそ短いものの、非常に印象深い場所として描かれることとなった。

電腦空間



監督・黄瀬和哉ワールド×攻殻機動隊

The World of Director Kazuchika Kise GITS

本シリーズでは黄瀬が総監督を務めたものの、脚本の沖方や、『新劇場版』監督の野村和也など、さまざまなスタッフによる過去作へのリスペクトが込められ、そこに黄瀬のテイストが足されている。

歴代作品へのオマージュと「桜の監視」の意味

総監督だけでなくキャラクターデザイン、また一部で作画監督や原案も担当した黄瀬の最大の狙いは、人間、女性としての素子を描くことにあったという。押井劇場版ではライブ・ポグであることを強調するために表情はあまり変わらず、神山版ではそれよりも表情が増えたが、完璧な隊長として描かれているうえ、クゼとの邂逅もすれ違いの側面が強い。だが本作では、未熟で、さまざまなことで感情を表情に示し、同時に色気や恋愛感情もはっきり表す素子が描かれている。その結果、黄瀬自ら監督したborder3は、特に女性からの反響が大きかったという。

一方本シリーズでは、各所で原作だけではなく、過去の『攻殻』映像化作品のリスペクトが見て取れる。border4でエマたちが軽車に人格を移したのは『SAC』第2話『暴走の証明』を連想させるし、『新劇場版』にてクルツらが語る『第三世界』、またそこで自然発生したともとれる『ファイア・スターター』は『人形使い』の誕生を予期させる。また、パターとトグサが澤田のもとを訪ねる場面、CGで描かれた道を遡る先には澤田がいるシーンは、『イノセンス』冒頭にて、パターがガイドを追うシークエンスのオマージュだという。その澤田が『デッドエンド』として自分の顔を外し、服を脱いで身体を見せるのも、ガイドが顔や身体を開いて自壊するシーンが直ちに思い浮かぶ。また、

素子が情報収集艇に行き、その内部でも戦闘を行う場面はやはり『イノセンス』にて、パターがロクス・ソルスのプラント船に侵入した光景が重なってくる。さらに最後に素子がロバートを砲撃する場面は、言うまでもなく押井劇場版第1作の再現だ。電脳ロビーの表現も、『イノセンス』の影響が大きいだろう。

そして最後の「桜の24時間監視」。『2nd GIG』最終話でも描かれていた場面だが、これは原作において、素子が「首相爆殺事件」に関する件での暗殺を行った後に描かれている場面だ。原作でも素子は花見をして時間を潰していた。その時に荒巻から通信が入り、事件の発生と予算の超過を知らされる。それから素子らは出勤。その事件後荒巻は素子に、表向き「国防救助隊」としての、犯罪に対して「攻性の組織」がさらに大きな予算で荒巻の下に設立されたと告げる形になっている。ここで多くの人が知る「華羅素子のいる、公安9課の攻殻機動隊」が完成したのだ。

一方で、素子を含めた9課隊員のバックボーンはこれまでほとんど語られていなかった。その面も描いたのが本シリーズだ。さらに、今までにないコミカルなテイストも各所にちりばめられ、素子が表情豊かになったことで、新たな要素を付加している。ゆえに、本シリーズは『攻殻機動隊』に原作回帰的な要素を取り込みつつ、同作のアニメで世界をさらに広げたとも言えよう。



能力向上のため身体を改造したことにより、本シリーズの面に広がった素子。桜の監視中に素子の意思した予算は通り、荒巻の下で、公安9課として活動を開始する。



Shinya Kamiyama x Kise Roundtable with the 3 directors

押井守、神山健治、黄瀬和哉

3監督 スペシャル鼎談!!!

ハリウッド実写版「ゴースト・イン・ザ・シェル」公開を機に、日本の歴代「攻殻」監督・押井守、神山健治、黄瀬和哉の3氏が集結。歴代「攻殻」の思い出を語ってもらった。

—今回、ハリウッドで「GHOST IN THE SHELL」が実写化されましたが、映像についての第一印象は？

神山 「GHOST IN THE SHELL」を「まんま実写化した」という感じですかね。後半の割合はがらりと変わっていきんですけど、

黄瀬 ガイノイドの前が明るくシーンとか、貯水池のアクションとか、素子がピルの屋上から飛ぶところはマストだとしても、

押井 “ここまで同じじゃなくてもいいだろうけど”というはあるよね。でも、最初のサイボーグの体を作る、皮が割けるところのシーンは、やっぱり手描きの方がいいね(笑)。

神山 手描きの方が、質感あるものがありますね。

押井 そう。(CGだと正確なんだろうけど、感情が入らないといううか、元々アニメでは「ブリーチの医学生」(※1)のイメージだったんだけど、そこはアニメの強さなのかなって。ただ実写だと、生身の俳優さんがやっているという安心感、キャラクターの存在感がある。最初の1カット目から、ある程度人格が感じられるのがいいところ。個人的にスカールレットのファンでもあるし。

—素子がスカールレット・ヨハンソンでよかったと？

押井 うん。最初で「実写化したい」という話が来たのは10年くらい前でそこから長かったけど、正直言って「いつか誰

かがやる」と思っていたし、「誰が素子をやるのか」も気になっていた。それで、スカールレット・ヨハンソンというのはベストに近いキャスティングなので「何の真存もありません」と、堂々と言えるのは嬉しいし良かったと思う。

—押井さんと神山さんは撮影現場も見学されたそうですが、

神山 「予算の規模が違うな」というのが第一印象です。

押井 ロケは、どこから現場なのかよくわかんない。「その辺で適当にお茶を飲んでる連中も、もしかしてエキストラ？」って感じもするし。香港の街中ロケって尋常じゃないよね。

神山 実際の道路を一区画まるまる閉鎖してゆったりしてましたからね。

押井 あとハリウッドの撮り方で、同じカットを近々と何テイクも撮影しているのにはちょっと驚いた。「歩いて店に入る」という移動の撮影だけで、一晩中やってんじゃないかっていう。何が問題で繰り返しているのかさっぱりわからない。

神山 見ている限りでも10回以上。同じ長回しのカットを撮影してましたね。

押井 「編集時の選択欲を増やしたい」ってことだろうけど、ルパート監督(※2)とか向こうの監督は強い忍耐力だよ。

神山 セッティングを変えてエキストラを元の場所に戻すという作

ハリウッド実写版を観て、手描きの良さ

というのを、あらためて認識したよね by押井

※1 ブリーチの医学生
サンゴ・ロ・ボッチャネッリによるホネ・スズキの色彩、キリヤ・神田における豪華な衣装デザイン、神田の可憐な女性として画を仕上げた。

※2 ルパート監督
ハリウッド・アクションのこと、実写版「ゴースト・イン・ザ・シェル」の撮影、イギリス出身で、「白痴」を原案とした実写版「スノーホワイト」(2012年)でハリウッドデビュー。

※3 水はけが悪い
押井守監督の映画には、異色の美少女の活躍でも多い「セッド・ワタナベ」を高く評価されておられ、海外で撮影した実写版でも、わざわざ現地でのセットアップを命じられた。



「アニメは作中で計算できるが、動く力が必要になる。だが、実写では余計な絵もいっせいで入る可能性もある」と話す押井、神山両氏。

3人の監督が
一堂に会す
なんてスゴイ!



押井さんは 犬ばかり 出しているから。 出さなきゃ いいのに(笑) by黄瀬

業は、1回ごとに30分くらいかかる。それを一晩中やってた。香港でのロケが1日延滞するなどのくらいかかるのかプロデューサーに聞いたら、言葉を通じはいたけど2,000万円くらい超過するらしい。アニメの制作費とは感覚が違うよね。

——押井さんの実写映画は、テイク数が少ないと聞きました。

押井 うん。基本例に、やっても2回か3回。やればやるほど悪くなると思ってから。それにエキストラのシーンは大変だから、よほどのことが無ければ1発でOK出しちゃう。そもそもそんな余裕のあるスケジュールじゃないし。

神山 押井さんの映画とはそもそも規模が違うわけだけど、200人近いスタッフと、役者を常時待機させておくシステム自体に金をかけているってことでしょうか。

押井 そう。それでも誰一人文句を言わないっていうのはさすがだよね。そういう契約になっているんだろうけど。すべてのテンポが日本の現場とはまるで別物だよ。

黄瀬 でも押井さんは犬ばかり出している(※3)から出さななきゃいいのに(笑)。特にパセツは描くのも大変だし(笑)。

押井 パセツ/バンドは自分のモチベーションだから(笑)。

——そんな「攻殻機動隊」ですが、20年以上前、押井さんに最初に「攻殻」の話が来た時、どんなお気持ちでしたか？



素子による銃の構え方、即ちの銃い方など、細にこだわりがある押井監督の細かい指示があり(右)。それを元に黄瀬が描かれ(上)、最終的に黄瀬が完成した(右)。



押井 「これをやらぬか」って言われて、当時は家のローンもあったから、やらざるを得ない感じだったよね(笑)。それに自分もともと原作を読んでいたし。ただ、難しい話が多いから、とにかく「わかりやすく作ろう」と思った。それでも「難しい」って言われたけど、あれ以上簡単にしたら原作がある意味が無くなっちゃうし、予算もスケジュールもタイトだったから新しいことを開拓する余裕はない。だから、とにかく最短距離で「機動警察/パトレイバー2 the Movie」(※4)でやってわかってることだけで作ろう」と思った。ただひとつ、映像的にも音響的にも、情報量を「1対2」の倍にしようとは思った。それが「情報が飽和した世界」というテーマに直結してるからね。

——黄瀬さんは1作目の「攻殻」にも関わっていますが、情報量を飽和にしたというあたり、振り返っていかがですか？

黄瀬 ラーメン、実は、あまり覚えていないんですよ(笑)。単純に会社(※5)の中で「次、これ動かしから頼むね」という流れでやってきたので。ただ「沖浦(※5)がキャラクターデザインやるんだしたら頼んでみたい」というのがあったくらいです。あとは、香港風の街並みの看板ばかり描いていた印象がありますね(笑)。

神山 今ほどデジタル化が進んでなかったから大変だったでしょう。

押井 アニメの画の情報量を上げる時、当時、劇中の絵に貼ってあるボイスターやチラシのデザインは、パソコンでやったんだけど、それに3次元的なノーズをつけてプリントアウトして、バグミで切って全部手で貼りこんで……というふうにも、ものすごい手間をかけてた。

神山 絵の具で描いていた時代は、美術はレタリングを正確に書くのは不毛だと感じていたでしょうから、筆で描いてもらうの

※4 「機動警察/パトレイバー2 the Movie」1999年公開の押井監督によるアニメ映画。日本人の戦争体験や香港映画リアリズムに目を惹かれた。また、本作の「パトレイバー」ファンタジーは「古いキャラの活躍が見られた」とも。

※5 押井 沖浦監督の「GHOST IN THE SHELL/攻殻機動隊」にイオンセンスで小島監督とキャラクターデザインを務める。押井監督の40歳頃の1人演、RIN-ROU 2000年7月で監督デビュー。

※6 小島監督 小島監督、「機動警察/パトレイバー the Movie」の1st & 2nd TN 1st & 2nd / 攻殻機動隊の押井監督で美術監督を務める。イオンセンスにも所属中。

は楽しかったでしょうね。

押井 あと、とにかくレイアウトが大変だった。レイアウトの段階で情報量がないと、背景も気合い入らないし。そうじゃなかったって小倉先生(※6)はすくなく満して描いちゃうし(笑)。それは後のスタイルではあるんだけど。

神山 フィルム時代のアニメの背景としては、小倉さんの美術はあれでカッコよかったですね。

黄瀬 目の前で絵に描かれてましたからね(笑)。「描いてくれるけどBL(ブラック)だよ」「ええ、いいですよ」って。

押井 それは演出的にいうと、やっぱり美術の面を持ちたくなるっていうか……。やっぱりアニメーションの画って背景がすごく大事だから。俺も前作(※7)に「美術で頑張れ」と教えられたんだけど。演出的には背景の方が作品のクオリティを



最初の『攻殻』の時は今よりもIGの扱いが悪かったため「レイアウト作業が終わればあとは印刷に任せて、自分は自身の作業をして戻ってきたらもう自分が付けられた(印刷) などという感じの人も

上げやすい。作画は原画の質に左右されるから「美術監督は必ず味方にする」って「だから作画監督と美術監督、双方とどう付き合うかはいつも悩む。3Dの背景に原画をあわせた『イノセンス』は、それで消耗しつくした。アニメーターが感じるストレスは、実はわかるから。(黄瀬氏)」「何かんないだろ」と今思ってるかも知れないけど。

—黄瀬さんは「イノセンス」のときも「会社でこれやからよろしく」みたいな感じだったんですか？

黄瀬 そうですね。やらせてくれたとは言ったこと無いです(笑)。

—黄瀬さんは、正確には「ハレレイバー」の時から押井監督とお仕事をされていますが、『攻殻』と『イノセンス』のレイアウトもやられて、大変だったと伺いましたが？

黄瀬 いや、もうほとんど忘れてます(笑)。「意外といい思い出」くらいにしちゃってます。今でも覚えてるのは、現場を抜け出してゲームセンターで遊んだことくらいですね(笑)。

押井 何度『バーチャファイター2』(※8)をやりに行ったかわからない。結局、抜け出した黄瀬を探したゲームセンターに何度も行ってさ……

黄瀬 一緒に遊ぶからじゃないですか(笑)。

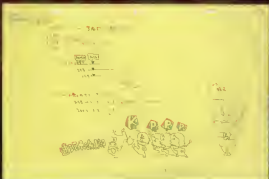
押井 まあ、勝負もしたけど(笑)。「攻殻」の映画を作ってる間は『バーチャ』の全盛期で、自分もハマりまくってたし、黄瀬もハマってたから、『攻殻』といえば、実は『バーチャ』を思い出すんだよね。

—それで草薙素子が『バーチャ』の技を使うに至ったと(笑)。

押井 まあ、アニメでは最初から「連環転身脚」(※9)は絶対やるぞ」って思ってた(笑)。

—当時、それを描いたのは黄瀬さんだったんですね？

『攻殻』の思い出といえば『バーチャファイター』 by押井



押井監督自身の、「連環転身脚」を再現するタイミングなどを指示したメモ。右からPPPKの字は「リンチ3回キック」とボタンを押すとゲームで技が出ることから。



素子がコーダーにリンチではなく草薙を入れているのは、押井監督が『バーチャ』では使っていたキャラのラウ・チェンが中国拳法使いであることに由来する。それがハリウッド実写版でも差別化され、草薙立ちとして再現された。



※7 前作
黄瀬氏行、有アニメーションの上、その後の1980-1981年などの海外、真珠石の海外に専念してして現任の押井は、後からアニメ高品質を求めたという、3Dの

※8 『バーチャファイター2』
1994年よりアーケード版が稼働した。その3D対戦型格闘ゲーム。当時、黄瀬はよく現場を抜け出してゲームセンターに遊びに行き、押井と他のスタッフが笑ってカチカチと。

※9 「連環転身脚」
草薙素子のめと返し振りを入れる攻撃で、『バーチャファイター2』のチャックター、ラウ・チェンの技。押井監督は素子がこの技を習得していたという、15ページ124参照。



「イノセンス」でガイノイドの顔が動く印象的なシーンの原画。「斬影乱闘」にもそのイメージがあるが、実写にも入れ込まれることとなった。



「攻殻」で「デジタルの旗手」のように言われた押井監督だが、現場はソフトの信頼性が低く手間が膨大。実際はアナログ作業が多かったと振り返る。

俺、「イノセンス」観てないんだ

よね…… by 黄瀬

た時、どうしたら若返るんだらうって散々悩んだあげく、前髪ぱつんに(笑)。ファンから批判も来ると思ったけど、若い素子の設定画とかを提供してくれた土師さん(※11)からも「こちらに無理に合わせなくてもいいです」と言われて逃げ場もなくなり、それで行こうと。

押井 前髪ぱつんは、アレはいいキャラだなんて。「その手があったか」と思ったね。

黄瀬 表情が見えやすくて丁度良かったんです。

——神山さんが最初、押井さんの「攻殻」を観た時の印象は？

神山 押井さんの作品は「ビューティフル・ドリーマー」以降ずっと追い続けてきたので、正直に言うとか、作画は神レベルだけど、内容はあまり深く掘り下げていないとは思いました。ちょうど攻殻一作目の公開直後に、IGで仕事をすることになって、石川(光久)社長との面談で「攻殻機動隊」を見てどう思った?と聞かれたんですよ。それで「押井さん、『バト2』に比べたら楽しんだんじゃないですか?」って答えたら、「お前、よくみるな」と言われて採用になった(笑)。(笑)

神山 手抜きしたという意味じゃないんだけど、俺的には「攻殻」と押井さんの組み合わせは「バトレイバー」以上にベストマッチだと思っていて、これは「バト2」以上に原作の世界観に踏み込むんじゃないかって期待していた。でも、実際は「わりと原作のままの話だった」と(笑)。

黄瀬 確かに、押井さんの映画の中で一番わかりやすいとは思う。押井監督がないですね。「バト1」と同じレベルくらい。

押井 そうだね。もともと俺で、原作モノはそんなに好きじゃないけど、「うる星やつら」(※12)のときもそうで、劇と原作を大勢にする監督なんですよ。意外かも知れないけど。

神山 質問では逆のイメージかもですけど(笑)(※13)。

押井 うん。「攻殻」に関してはさっきも言ったけど、とにかくわかりやすくするのが自分の宿命だったから、そういう意味ではものすごく効率的に作った。「バト2」で現場が成熟してたから、レイアウトまでは毎日死ぬ気で頑張った。その後は

お気に入りの作品について評するのは貴重だなア



「現場に任せればもう大丈夫だ」と、だから石川は間違っていない、楽をしたといえば楽をした(笑)。「うる星」、「バト2」、「イノセンス」などの2作目の映画は、自分のフィールドに持ち込んで勝負するしかないから。

——神山さんと黄瀬さんは「イノセンス」の映画をご覧になった時は、どう思われました？

黄瀬 俺、「イノセンス」は観てないんだよね(笑)。自分がやった仕事は初号(※14)で見るんだけど、ちょうど「イノセンス」の作業が終わった時、仕事で海外に行ったので観ず、その後も観てないんです。ソフトはもらいましたけど。

押井 まあ、わかるけどね。俺も終わった後はずっと観ないから。神山 「イノセンス」の記憶は、脚本を読んだとき「キムの館」でループするシーンが印象的で、これはもしかすると「ビューティフル・ドリーマー」を指してる(※15)と期待していた。ただ、デジタルだと、同じシーンを3回撮影しても全く同じものになってしまって、フィルムのときのような時間がループする演出にならない。だから、わざわざ少し変えてるけど「変えちゃったことで、「変わっていること」がバレてしまって、ループしている感が無い」「デジタルは恐ろしく不自由だな」と思いましたね。

——押井さんから見た「SAC」シリーズはいかがですか？

押井 僕は「2nd GG」が好きなんです。自分は最初のシナリオ構成で少し顔を出しただけで現場には関わってないけど、エッジが効いてるっていうか、何か危ない雰囲気がある。まあ難民キャンプの話だったりするから、TVシリーズって、コントロール出来なくなる瞬間って必ずある。キャラクターがどんどん先に行っちゃうとか、表現もどんどんエスカレートしていく。

神山 そうですね。

※12 質問では逆のイメージ。押井は当初「うる星」を大層に好きだと思っていて、空想の映画はそうで、一部のファンからは「原作クラッシュ」も呼ばれた。

※13 1997年、制作途中の「攻殻」の完成品が、完成した純粋な映画作品。企画がなくなったスタッフは現場から追放された。

※14 「ビューティフル・ドリーマー」を指してる。「うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー」、「うる星やつら3 劇場版アニメ第2号(1984年)」、「同じ1巻の巻頭挿入される」という演出は、後の映画に大きく影響を与えた。

押井 そのノリがあったので、僕は『2nd GIG』は面白いなと思ったね。黄瀬のやつで面白いなと思ったのは、『ARISE』はTVシリーズとも、完全な映画とも言いにくいところ。ある種の原作みたいなもんだから。

神山 『ARISE』の、45分の尺でどうでした？

黄瀬 うーん、結局各監督（※16）に任せていたので（笑）。苦勞したのは、自分がガッツリ絡んだ話数ばかりでしたかね。

押井 あれって、全話を一本の4時間の映画として作っちゃったら、あおはならないんだよ。かと言って、最初から30分のシリーズで10本ぐらいたったとしても、あおはならない、面白い形式だと思った。俺は『パトレイバー』の実写版（※17）をやったときにそう思ったけど、正味で45分が50分の1時間枠でシリーズをやる面白さがわかった。30分の枠とは明らかに違う。

神山 違うよね。15分長いことは結構しんどかったんじゃないかなあとは思って観てましたね。

黄瀬 ええ。僕以上に、画面がしんどそうでしたよ（笑）。

神山 やはり45分って、作業量として長いですよな。だけど映画ほどは、ダレ場（※18）を撮る余裕も無い。

押井 45分だとダレ場が作れない。

神山 その辺、どう折り合いをつけるんですか？ その尺ではやったことないんで聞きたいんですけど。

押井 僕は、銀は世界観じゃなくてキャラクターだと思ってる。安定したキャラになっちゃったら多分引っこ切れない。「どうなっちゃうんだろ、この人」って危ない部分があれば、1時間枠の45分とか50分の速作って引っこ張れるんじゃないかな。海外連続ドラマは、ほぼそういう作り。

黄瀬 そうですね。でも実は、自分は時間についてそんなに気に

してはなかったですかね。「ARISE」は60分超えくらの脚本をまず書いてもらって、あとはこっちで全部コンテ上でカットして、編集でカットして、テンポ感を出すというふうにしていましたね。だから、自分が直接やった話でも「ここは飽足だな」というところはコンテにしかかったし、正味、トータルで50分ぐらいの感覚で作ってました。

神山 50分かな。大変そうだな。「テンポでもたせるのはよし」といふ長さだな。

黄瀬 うん、長いです（笑）。

押井 でも30分枠なら断りつちゃうところを、45〜50分なら断りずすすまよ。キャラクターの興行きどいうものも。

神山 なるほど。

押井 例えば「家を出て現場にいた」じゃなくて、簡単に乗るシーンを入れるかどうかとか、30分のテレビで納めできない部分を満たせて、映画で出来ないところは速作することで満たすしかない、そういう尺だよな45分は。

——『ARISE』に続く『新劇場版』についてはどうでした？

神山 作画でいうと、「やりきったなあ」というか、シリーズの中では一番いいんじゃないかなと思いましたが、『ARISE』というシリーズのむつとりの到達点というか、画がキレてる。

押井 20年前は、あれはできなかったんだよね。技術や現場の力量が追いついてきた。アニメ的な野暮ったさが無い、すごくタイトな映像だった。それは自分が当初やりたかったんだけど、そこまで行かなかったんですよ。だから20年という時間はやっぱり必要だったんだって思ったね。

——最後に、監督にとっての「攻殻」とは？

黄瀬 自分は、終わった仕事は全部忘れるというスタンスでいるので、「攻殻」は「次にどんな新しいものが来るか」という興味の対象ではありませんね。

神山 あらためて土部さんの原作の凄さを感じつつ、いいタイミングでシリーズを作らせてもらったと思います。ネットが一般に普及していくのと、ソフトが売れる時代に52話プラス長編1本を作れたことは、監督としてのキャリアとともに、大きな知名度をもたらしてくれたと思っています。

押井 うーん。やっぱ、長くも悪くも、自分の監督人生で一番大きな事件になっちゃったんだなあ。『攻殻』が海外で評判になって自分の仕事が変わったから、良さも悪さもあつた。そういう1本だと思いますね。

黄瀬は16の石川社長に「この企画、引き受けるなら内容を再考してほしい」と言われ、67%の拒否に引かれて引けると思ったところ「攻殻」の新作」と聞かされ「悪夢だ、これ以上引きたらいいんだ」と悩んだという。



※18 ダレ場 劇中で物語が進行せず、登場人物間で登場人物の会話、ローカットや特撮などで入ることが多い。本作には劇中映画では必須として、10分程度でも取り入れている。

『新劇場版』を観て 「やりきったなあ」と思った。作画が一番いい。 画がキレてる by 神山



『ARISE』での高子の衣装を近くすることにしたヒントは、黄瀬監督が東京中央劇場内で見かけた高子の衣装だったとか。

※16 遠藤章 本作の黄瀬監督として全体を見る立場であり、高瀬は中小の監督で、それその手段で拘束するシステムが、当然より厳格されていた。

※17 『パトレイバー』の実写版 『THE NEXT GENERATION パトレイバー』制作が監督を募集し、2014〜2015年に公開された『パトレイバー』の実写化作品。前期版のシリーズ最終、高瀬が脚本決定よりなる。



STAFF

Director & Editor
新藤瑛磨

Writer
教官

Editorial Assistants
中村亜津紗

監生 佳余子
佐藤慶幸

Photographer
合田義弘

Art Director & Designer
市原シゲユキ (SUPER MIX)

Special thanks
Production I.G / 山川遼子

攻殻機動隊 PERFECT BOOK 1995-2017

2017年3月30日 第1刷発行

講談社・編

発行者 森田浩幸

発行所 株式会社講談社

〒112-8001 東京都文京区春日2-12-21

出版 ☎03-5395-3474

販売 ☎03-5395-3608

業務 ☎03-5395-3615



製版・印刷・製本 凸版印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。
ご了承ください。見当は購入書店を参照ください。小社事務所にお送りください。送料小使
負担にて取り扱います。この本についてのお問い合わせは、アニメズメント
編集部へお問い合わせください。本書のCD、ブックレット、デジタル版の複製権等は
著作権法上での権利を特許利用しています。本書を代行業務等の第三者に複製して
スキャンやアップロードすることは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN78-4-06-220511-6

©講談社 2017 Printed in Japan

©1995 土曜正宗/講談社・パロディビジュアル-MANGA ENTERTAINMENT

©1996-2008 土曜正宗/講談社・パロディビジュアル-MANGA ENTERTAINMENT

©2004 土曜正宗/講談社 IG/TNDDTD

©土曜正宗・Production I.G/講談社・攻殻機動隊製作委員会

©土曜正宗・Production I.G/講談社・「攻殻機動隊ARXIV」製作委員会

©土曜正宗・Production I.G/講談社・「攻殻機動隊 新劇場版」製作委員会

©2017 Paramount Pictures. All Rights Reserved.



攻殻機動隊

PERFECT BOOK 1995-2017

